

平成29年度
人権に関する町民意識調査
報告書

～全ての人の人権が尊重される社会を目指して～

愛 荘 町
愛 荘 町 教 育 委 員 会
愛 荘 町 人 権 教 育 推 進 協 議 会

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査対象.....	1
3. 調査方法.....	1
4. 調査期間.....	1
5. 調査項目.....	1
6. 回収結果.....	1
7. 報告書を読む際の留意点.....	2
8. 回答者の属性について.....	4
II 調査結果	5
1. 人権についての考え方.....	5
2. 人権尊重のまちづくりについて.....	11
3. 人権侵害を受けた経験について.....	18
4. 人権尊重や人権侵害についての考え方.....	27
5. 同和問題の認識・考え方について.....	32
6. 同和問題の解決に向けた考え方について.....	42
7. さまざまな人権問題について.....	50
8. 人権に関する条例や法律等について.....	73
9. 人権啓発の取り組みについて.....	77

I 調査の概要

1. 調査目的

本町の人権施策推進のための、人権教育・人権啓発活動に行うにあたり、愛荘町民の人権意識の状況を把握し、今後の施策および啓発を推進するための基礎資料を得るために調査を実施した。

2. 調査対象

愛荘町に在住の18歳以上の男女 3,000人（うち外国籍の人 100人）

3. 調査方法

郵送配布・郵送回収

※外国籍の対象者には、日本語版と併せて、ブラジル国籍の人にはポルトガル語訳版、その他の国籍の人には英語訳版を送付した。

4. 調査期間

平成29年10月18日(水)～11月8日(水)

5. 調査項目

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ①人権についての考え方 | ⑥同和問題の解決に向けた考え方について |
| ②人権尊重のまちづくりについて | ⑦さまざまな人権問題について |
| ③人権侵害を受けた経験について | ⑧人権に関する条例や法律等について |
| ④人権尊重や人権侵害についての考え方 | ⑨人権啓発の取り組みについて |
| ⑤同和問題の認識・考え方について | |

6. 回収結果

配布数	有効回答数	有効回答率
3,000人	1,378人	45.9%

7. 報告書を読む際の留意点

- (1) 図表中のn (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率 (%) は回答者数 (n) を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率 (%) の計は100.0%を超える。
- (3) 図表中の「MA%」(Multiple Answerの略) や「2LA%」(2 Limited Answerの略)、「3LA%」(3 Limited Answerの略) という表示は、回答選択肢の中から複数回答形式の質問(「○はいくつでも」、「○は2つまで」、「○は3つまで」)を示している。
- (4) 本文中の質問文および選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化している場合がある。
- (5) 本調査結果の比較・参考とした2つの調査は下記の通りです。
「平成23年度(前回調査)」…平成23年度人権に関する町民意識調査
(平成24年3月 愛荘町教育委員会発行)
「県調査」…平成28年度人権に関する県民意識調査
(平成29年3月 滋賀県人権施策推進課発行)
- (6) 信頼区分：

今回の調査は、標本調査であるので、標本による測定値(調査の結果)に基づいて、母集団値を推定できる。信頼度95%における測定値(%)の信頼区間1/2幅(標準誤差)は、次の式で算出される。

$$\text{標準誤差} = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

N : 母集団(本調査では16,914)、n : 標本数(同1,378)、P : 測定値(%)

【信頼度95%における主要な%の信頼区間の1/2幅】

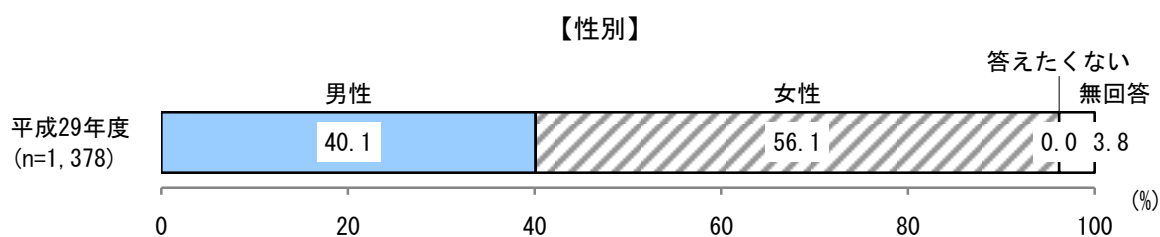
	n	p (%)									
		5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
全体	1,378	1.1	1.5	1.8	2.0	2.2	2.3	2.4	2.5	2.5	2.5
男性	553	1.8	2.4	2.9	3.2	3.5	3.7	3.8	3.9	4.0	4.0
女性	773	1.5	2.0	2.4	2.7	2.9	3.1	3.2	3.3	3.3	3.4
18~29歳	105	4.2	5.7	6.8	7.6	8.3	8.7	9.1	9.3	9.5	9.5
30歳代	157	3.4	4.7	5.6	6.2	6.7	7.1	7.4	7.6	7.7	7.8
40歳代	203	3.0	4.1	4.9	5.5	5.9	6.3	6.5	6.7	6.8	6.8
50歳代	190	3.1	4.2	5.0	5.7	6.1	6.5	6.7	6.9	7.0	7.1
60歳代	323	2.4	3.2	3.9	4.3	4.7	4.9	5.2	5.3	5.4	5.4
70歳以上	359	2.2	3.1	3.7	4.1	4.4	4.7	4.9	5.0	5.1	5.1

【信頼度95%における主要な%の信頼区間の1/2幅】

この表は、例えば、「問3 愛荘町は人権が尊重される社会になっていると思いますか。」の結果を見ると、「1. そう思う」は12.5%であり、“全体”の場合の最も近い値（15%）は「1.8」となっている。母集団を対象にこの調査を行えば、「1. そう思う」と回答する方が12.5%の前後1.8%の区間内、すなわち10.7%～14.3%の区間内にあることが95%の確率で期待されることを意味している。

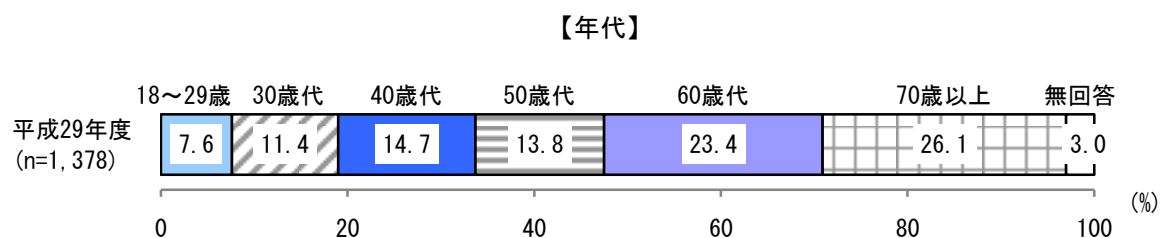
8. 回答者の属性について

(1) 性別



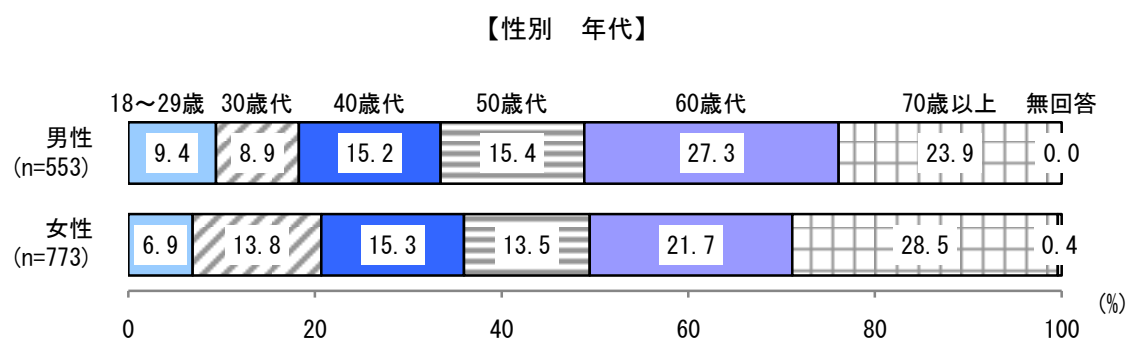
回答者の性別は、「男性」が40.1%、「女性」が56.1%となっている。

(2) 年代



回答者の年代は、「70歳以上」が26.1%で最も多く、次いで「60歳代」が23.4%、「40歳代」が14.7%となっている。

性別で見ると、男性は「60歳代」が27.3%、女性は「70歳以上」が28.5%で最も多くなっている。



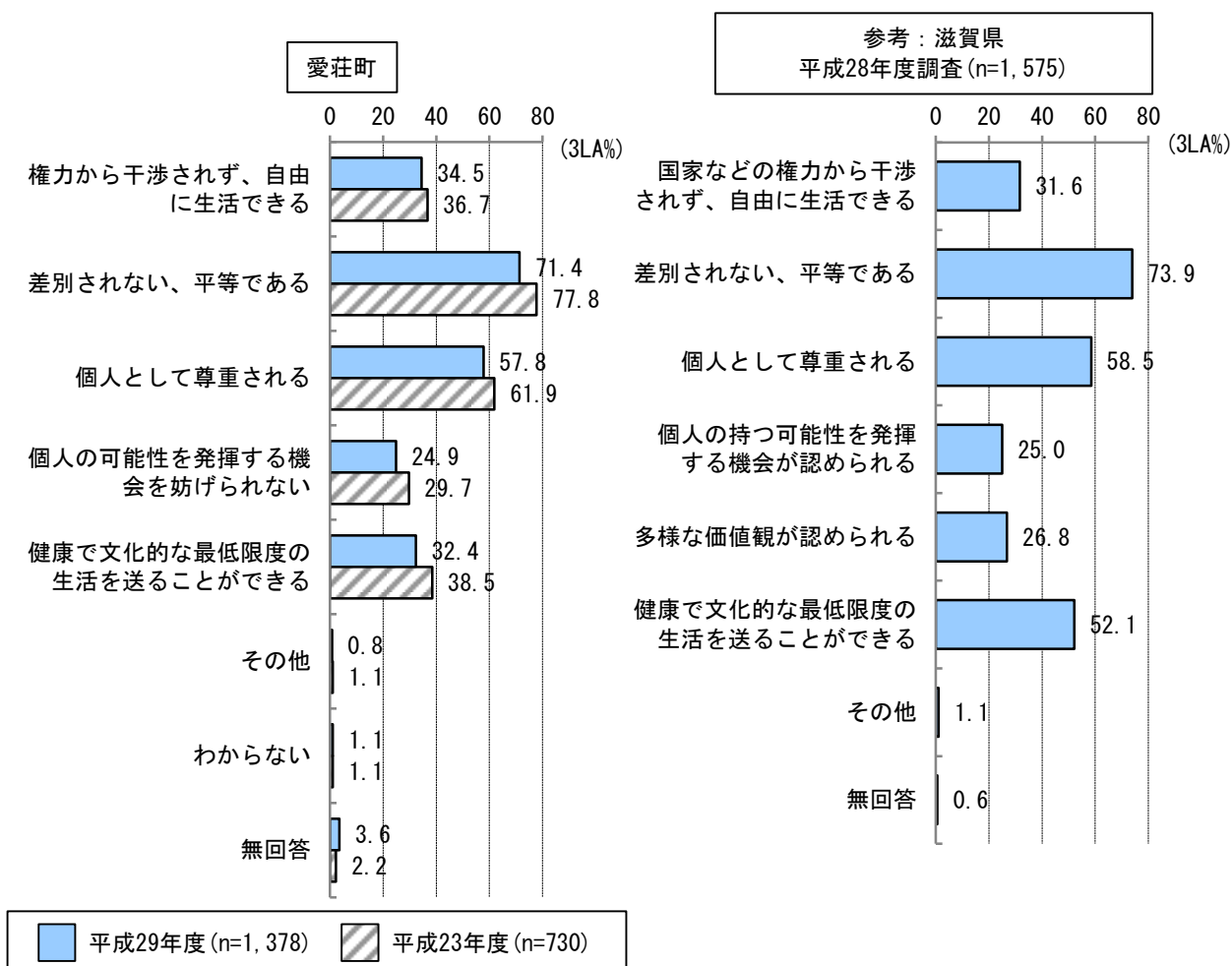
II 調査結果

1. 人権についての考え方

(1) 人権が尊重されることの考え

問1 「人権が尊重される」ということはどういうことだと思いますか。最もお考えに近いものを選んでください。(〇は3つまで)

【図1-1 人権が尊重されることの考え】



※今回調査では、回答制限数以上の回答もすべて有効としている。

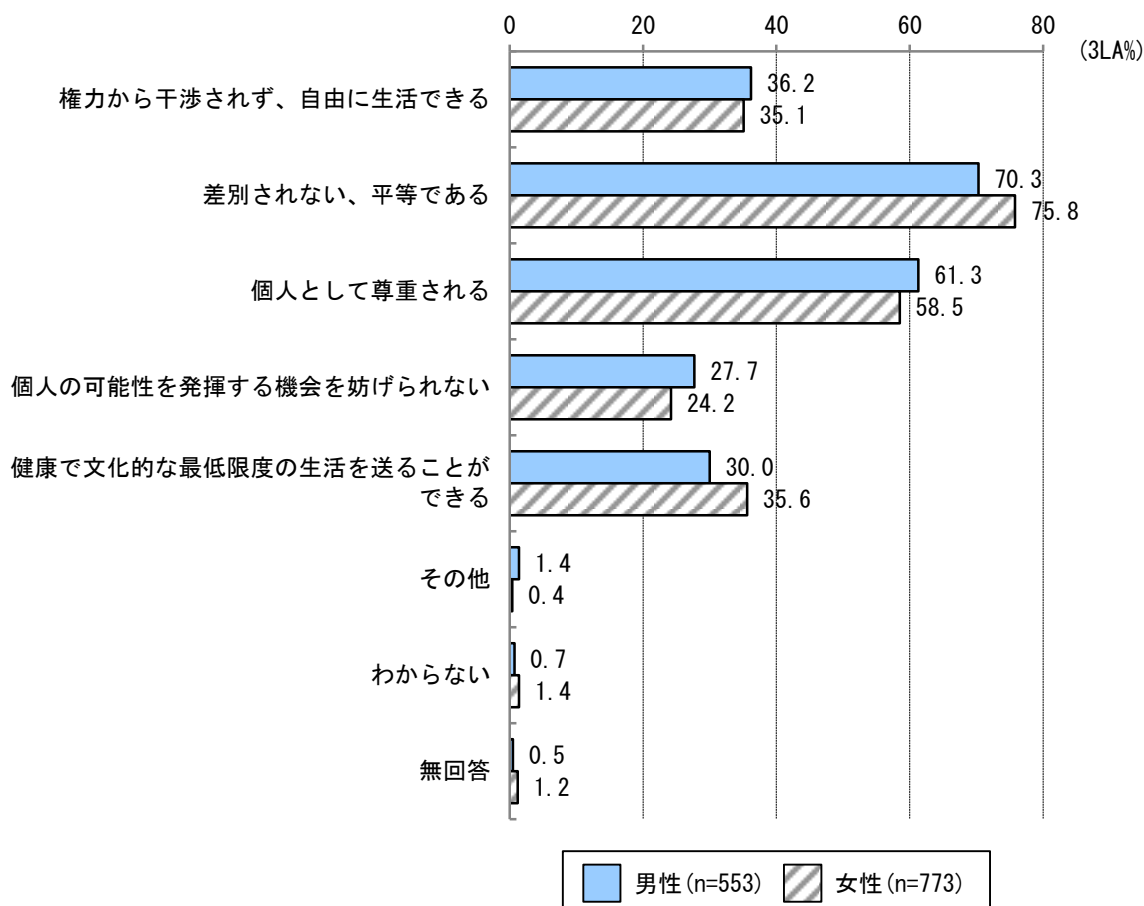
人権が尊重されることの考えについては、「差別されない、平等である」が71.4%で最も多く、次いで「個人として尊重される」が57.8%、「権力から干渉されず、自由に生活できる」が34.5%と続いている。

前回調査と比較すると、いずれの項目も低下しており、特に「差別されない、平等である」と「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」は6ポイント台の低下である。

参考に県調査と比較すると、本町のほうが「(国家などの) 権力から干渉されず、自由に生活できる」で2.9ポイント高いが、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」は19.7ポイント低くなっている。(図1-1)

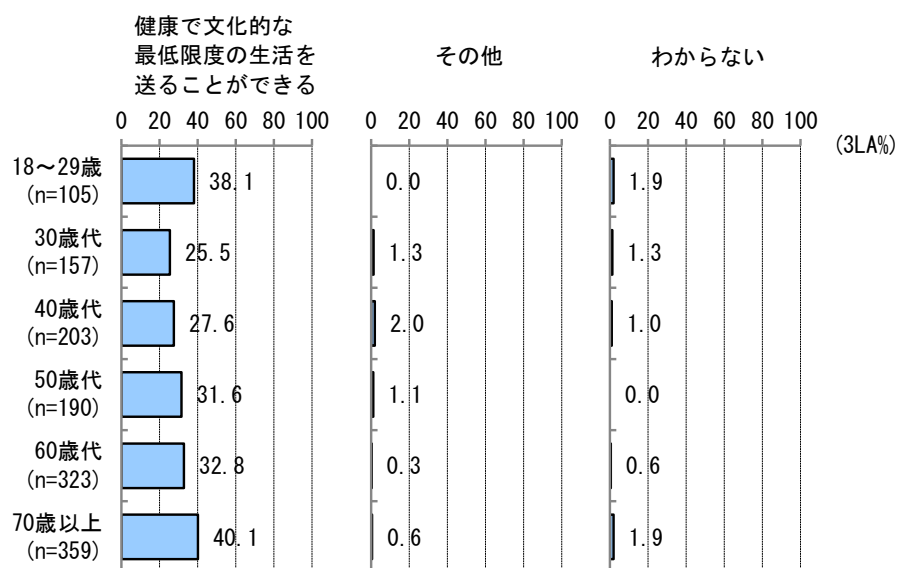
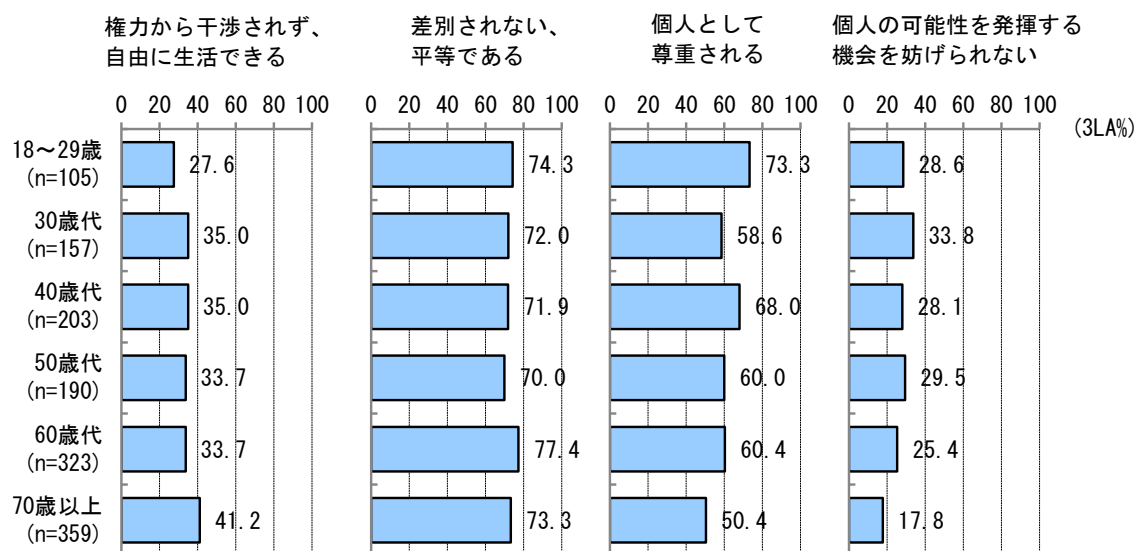
性別で見ると、男女とも「差別されない、平等である」が7割台で最も多く、女性のほうが5.5ポイント高い。次いで「個人として尊重される」が男女とも6割前後となっている。これに続いて、男性は「権力から干渉されず、自由に生活できる」が36.2%となっており、女性は「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」が35.6%で男性より5.6ポイント高くなっている。(図1-1-1)

【図1-1-1 性別 人権が尊重されることの考え】



年代別でみると、「差別されない、平等である」は、年代にかかわらず7割台となっている。また、「個人として尊重される」と「個人の可能性を發揮する機会を妨げられない」は若い年代ほど高い傾向にある。(図1-1-2)

【図1-1-2 年代別 人権が尊重されることの考え】

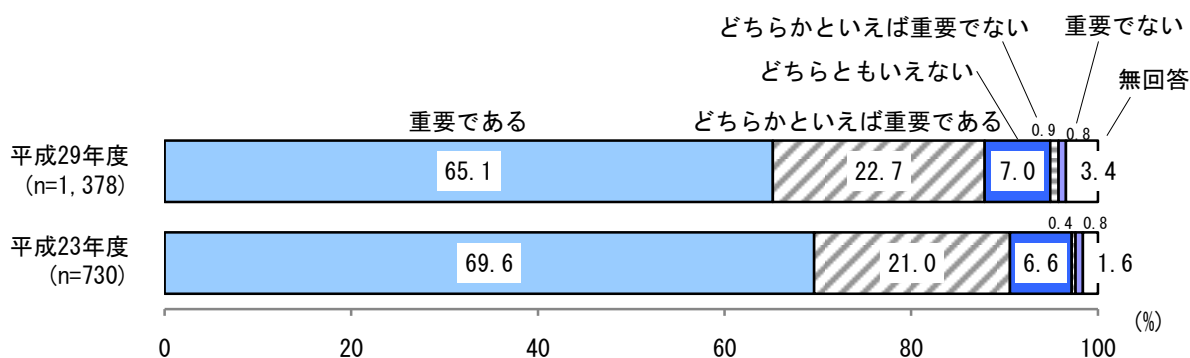


(2) 人権という言葉の考え方や印象

①重要であるか重要でないか

問2 あなたは「人権」という言葉にどのような考え方や印象をもっていますか。(〇は1つ)

【図1-2① 人権の重要度合】

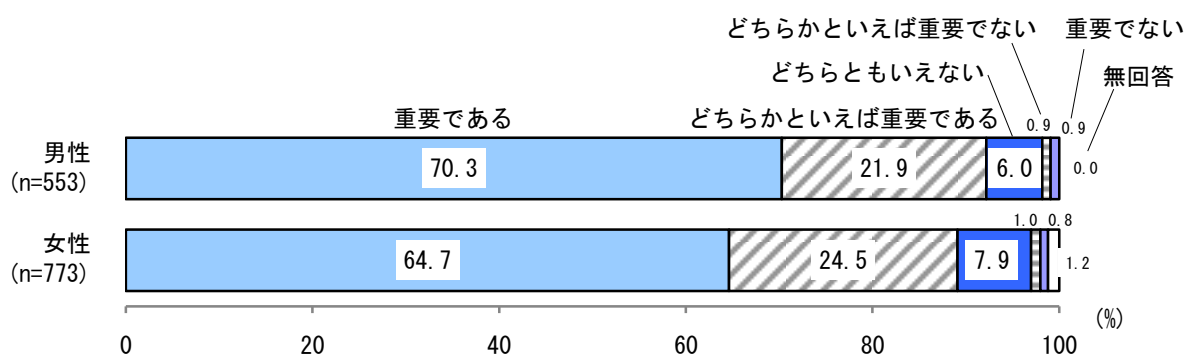


人権の重要度合について、「重要である」が65.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が22.7%となっており、両者を合わせた『重要である』割合は87.8%を占めている。

前回調査と比較すると、『重要である』割合は2.8ポイント低下している。(図1-2①)

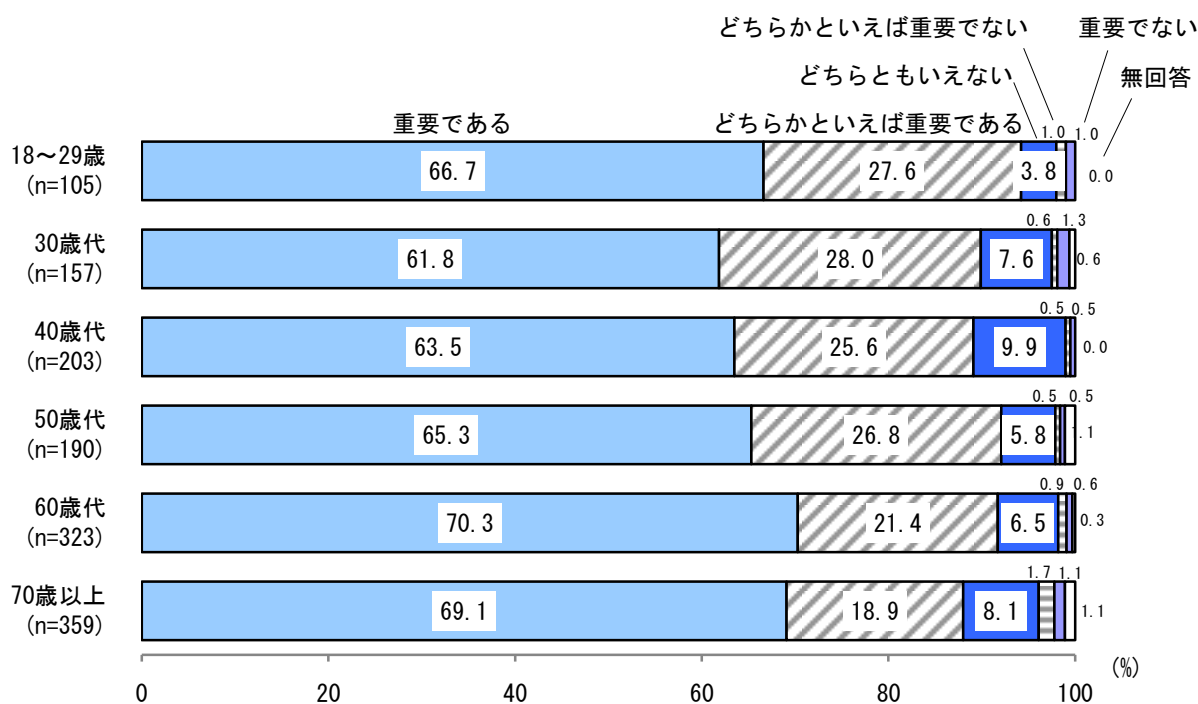
性別で見ると、『重要である』割合は、男性で92.2%、女性で89.2%となっており、男性のほうが3.0ポイント高くなっている。(図1-2①-1)

【図1-2①-1 性別 人権の重要度合】



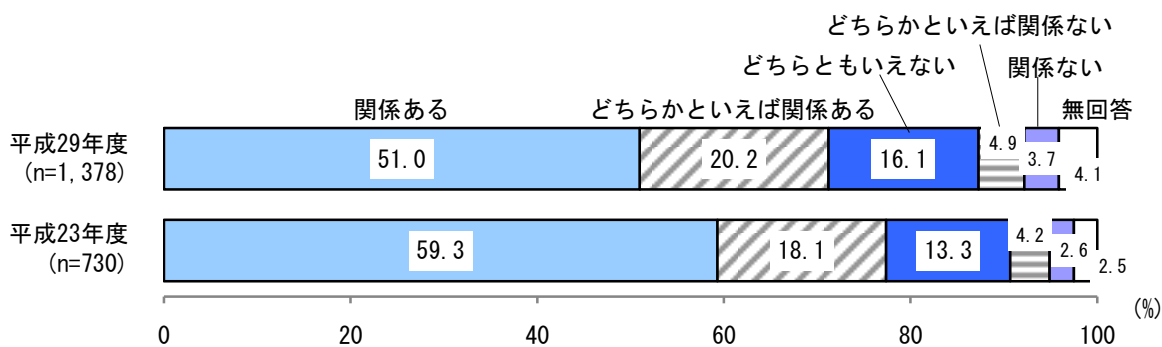
年代別で見ると、『重要である』割合が、年代にかかわらず9割前後を占めており、特に18～29歳は94.3%と高くなっている。(図1-2①-2)

【図1-2①-2 年代別 人権の重要度合】



②自分に関係があるかないか

【図1-2② 人権と自分の関係】

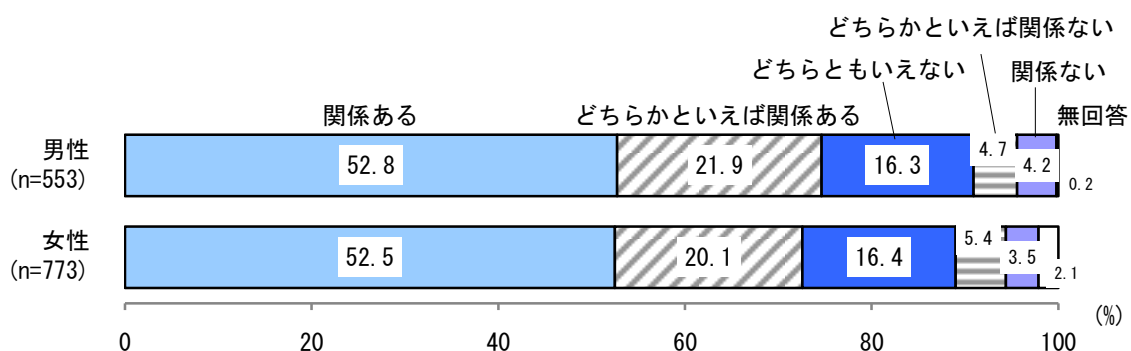


人権と自分の関係について、「関係ある」が51.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば関係ある」が20.2%で、両者を合わせた『関係ある』割合は71.2%を占めている。

前回調査と比較すると、『関係ある』割合は6.2ポイント低下している。(図1-2②)

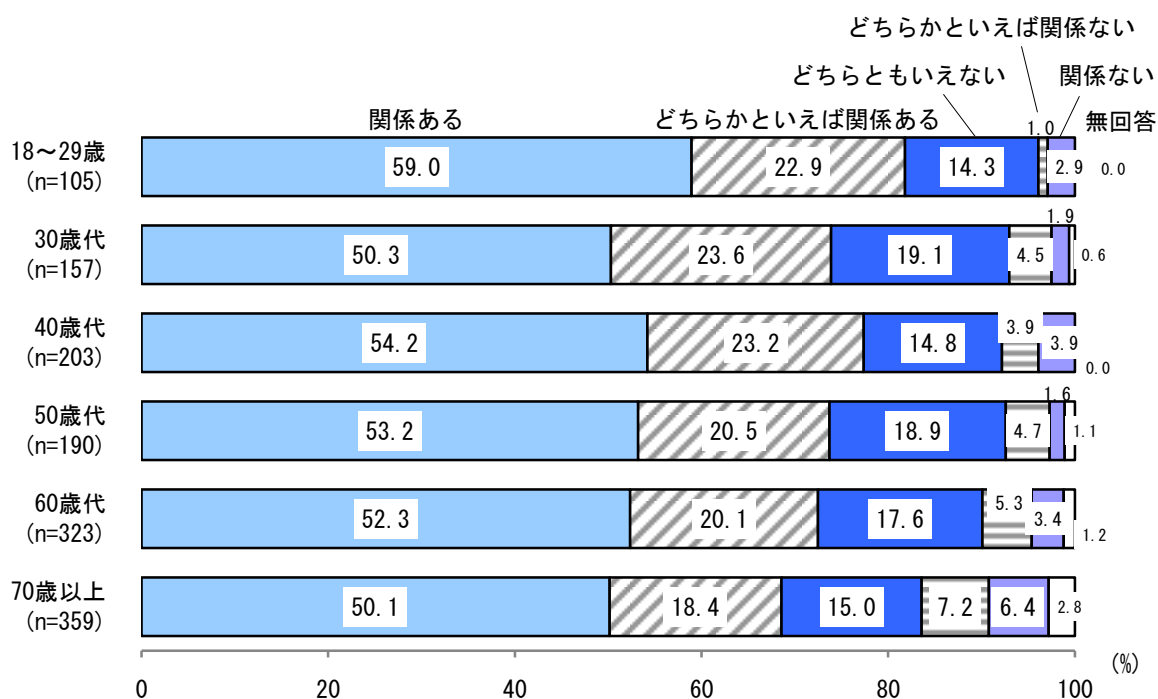
性別で見ると、『関係ある』割合は、男性で74.7%、女性で72.6%となっており、男性のほうが2.1ポイント高くなっている。(図1-2②-1)

【図1-2②-1 性別 人権と自分の関係】



年代別で見ると、『関係ある』割合は、年代にかかわらず過半数を占めており、若い年代のほうが高い傾向にある。一方、「どちらかといえば関係ない」と「関係ない」を合わせた『関係ない』割合では、年代が上がるほど上昇傾向にあり、70歳以上になると13.6%となっている。(図1-2②-2)

【図1-2②-2 年代別 人権と自分の関係】

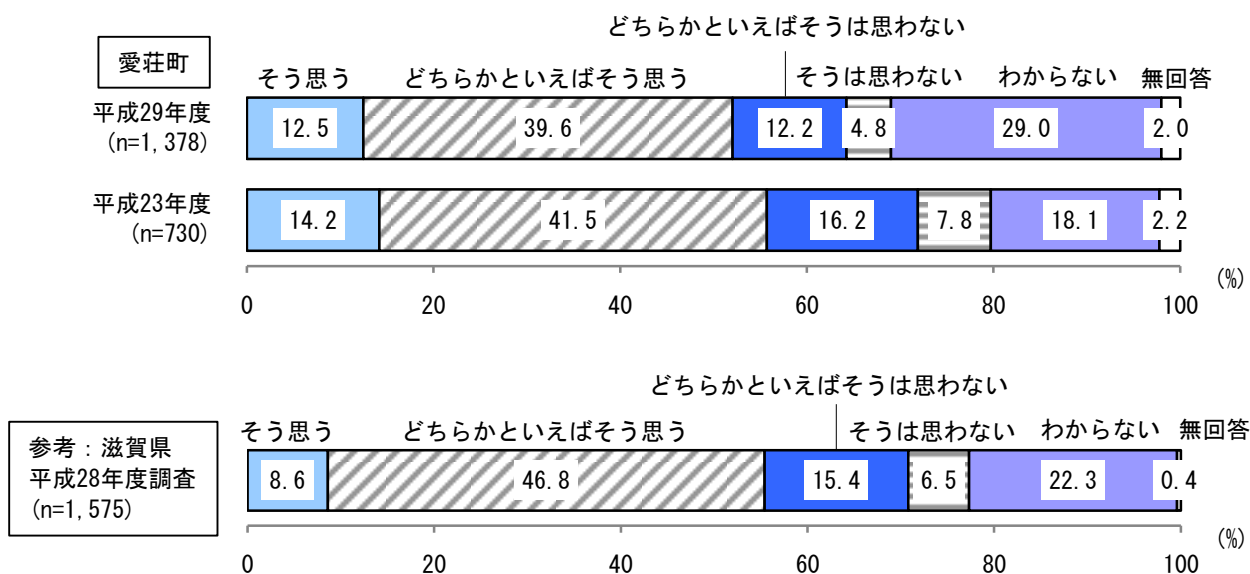


2. 人権尊重のまちづくりについて

(1) 愛荘町における人権尊重の状況

問3 愛荘町は人権が尊重される社会になっていると思いますか。あなたのお考えに最も近い番号を選んでください。(〇は1つ)

【図2-1 愛荘町における人権尊重の状況】



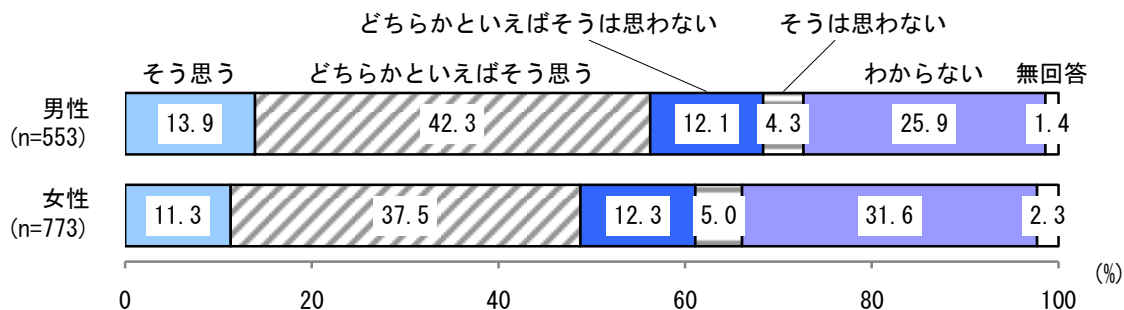
愛荘町は人権が尊重される社会になっているかについて、「どちらかといえばそう思う」が39.6%で最も多く、次いで「わからない」が29.0%となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』割合は52.1%を占めており、一方の「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」を合わせた『そうは思わない』割合は17.0%となっている。

前回調査と比較すると、『そう思う』割合は3.6ポイント低下し、「わからない」が10.9ポイント高くなっている。

参考に、県調査では滋賀県における人権尊重についてたずねているが、双方を比較すると、本町のほうが『そう思う』割合は3.3ポイント低い、『そうは思わない』割合も4.9ポイント低くなっている。一方で「わからない」が6.7ポイント高くなっている。(図2-1)

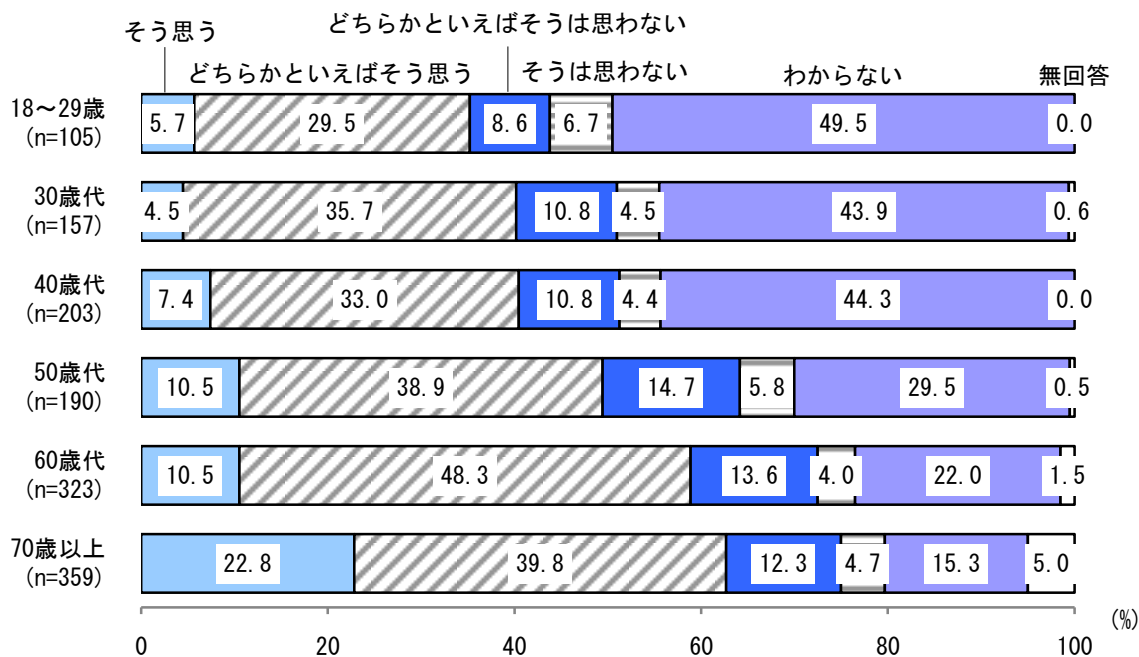
性別で見ると、『そう思う』割合は、男性が56.2%、女性が48.8%で、男性のほうが7.4ポイント高くなっている。「わからない」は、女性が31.6%で男性（25.9%）に比べ5.7ポイント高くなっている。（図2-1-1）

【図2-1-1 性別 愛荘町における人権尊重の状況】



年代別で見ると、『そう思う』割合は、年代が上がるほど上昇しており、60歳以降の年代になると過半数を占めている。一方、若い年代ほど「わからない」が高い傾向にあり、18～40歳代の各年代で4割台を占めている。（図2-1-2）

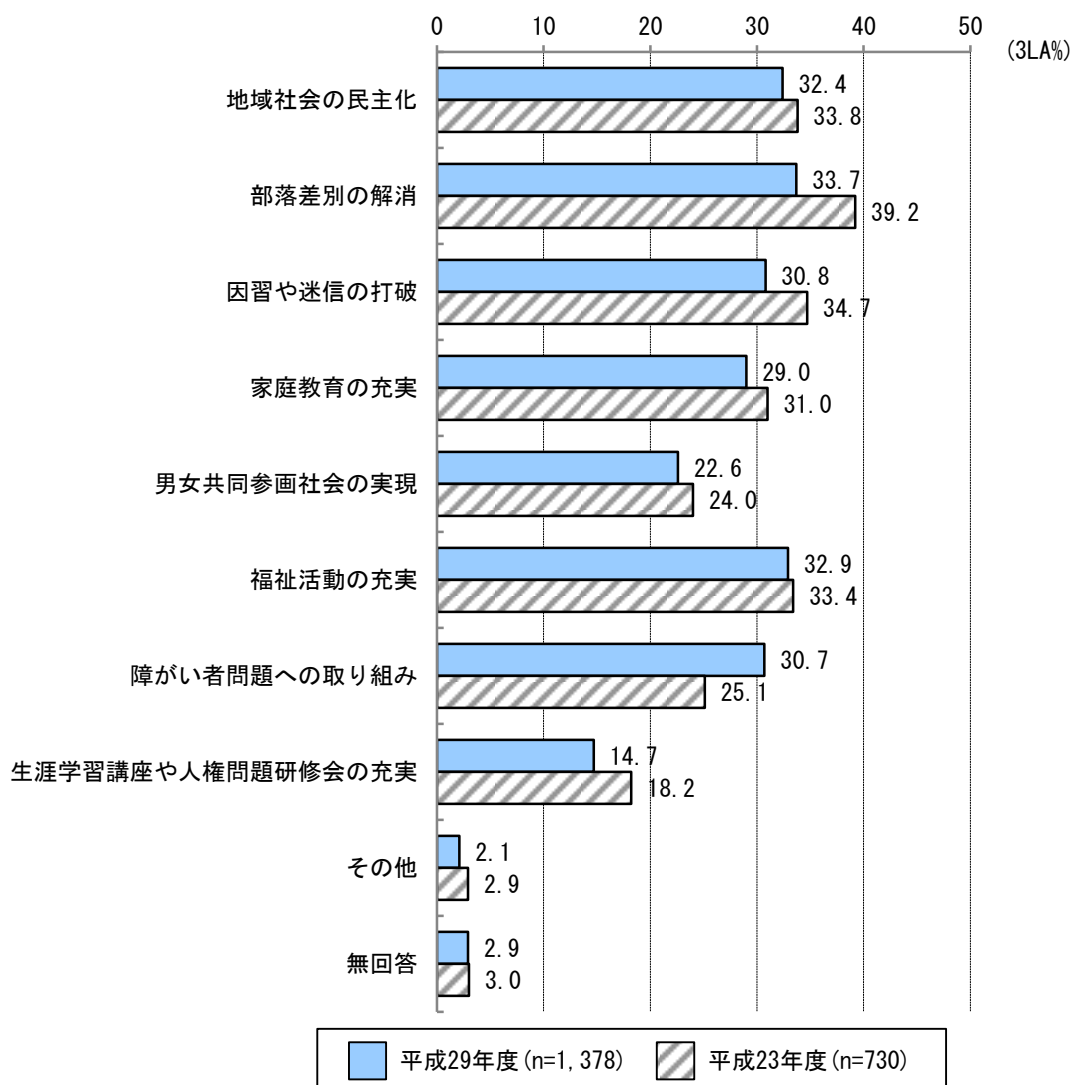
【図2-1-2 年代別 愛荘町における人権尊重の状況】



(2) 人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なこと

問4 人権が尊重されるまちづくりをすすめていくために、特に大切なことは何ですか。
(〇は3つまで)

【図2-2 人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なこと】



※今回調査では、回答制限数以上の回答もすべて有効としている。

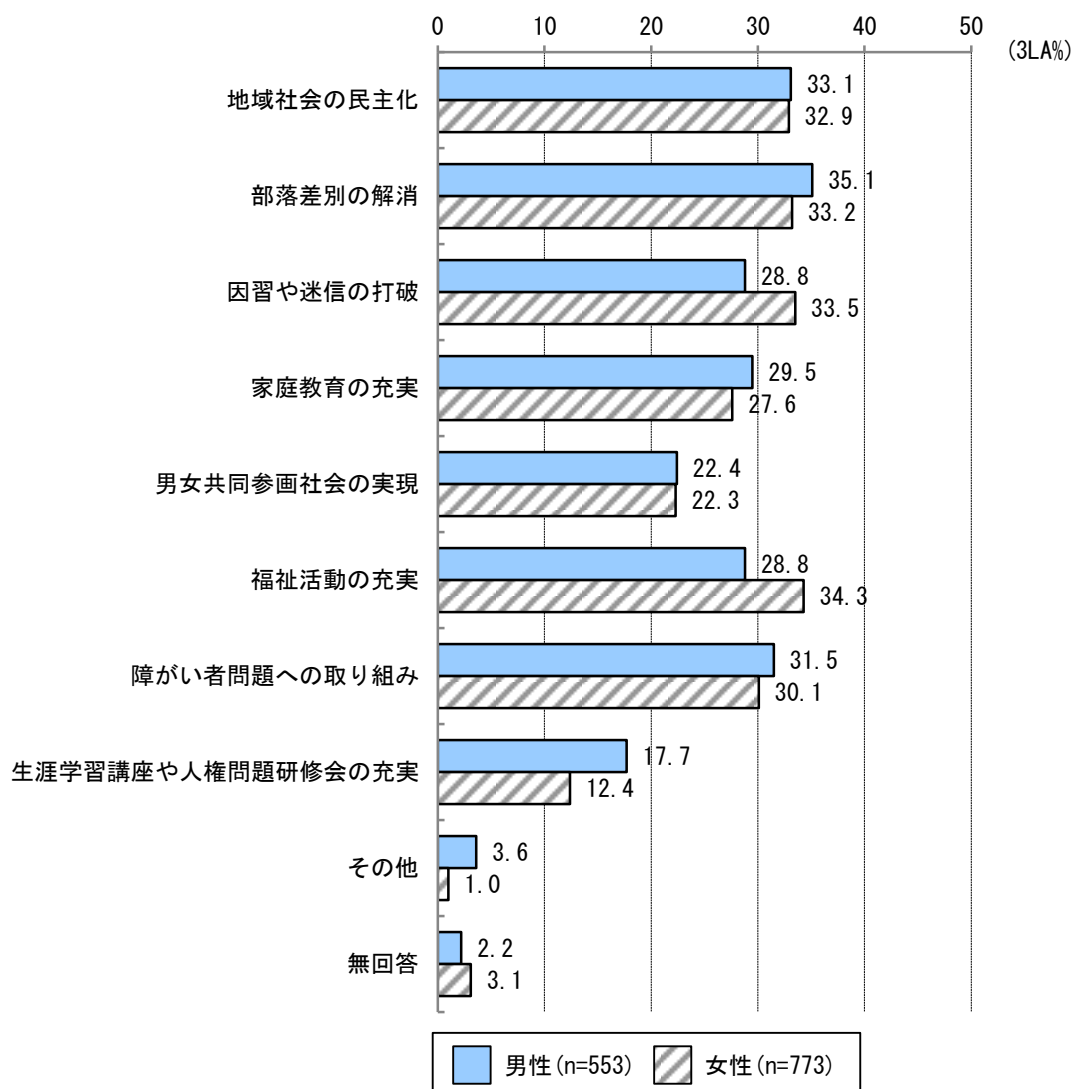
人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なことでは、「部落差別の解消」が33.7%で最も多く、次いで「福祉活動の充実」が32.9%、「地域社会の民主化」が32.4%と続いている。

前回調査と比較すると、「障がい者問題への取り組み」が5.6ポイント高くなっているが、それ以外の項目は低くなっており、なかでも「部落差別の解消」は5.5ポイント低下している。
(図2-2)

性別で見ると、男性は、「部落差別の解消」が35.1%で最も多く、次いで「地域社会の民主化」が33.1%、「障がい者問題への取り組み」が31.5%と続いている。また、「生涯学習講座や人権問題研修会の充実」は、男性で17.7%、女性で12.4%と少ないが、男性のほうが5.3ポイント高くなっている。一方、女性は、「福祉活動の充実」が34.3%で最も多く、次いで「因習や迷信の打破」が33.5%、「部落差別の解消」が33.2%と続いている。なお、男性に比べて「福祉活動の充実」は5.5ポイント、「因習や迷信の打破」は4.7ポイント高くなっている。

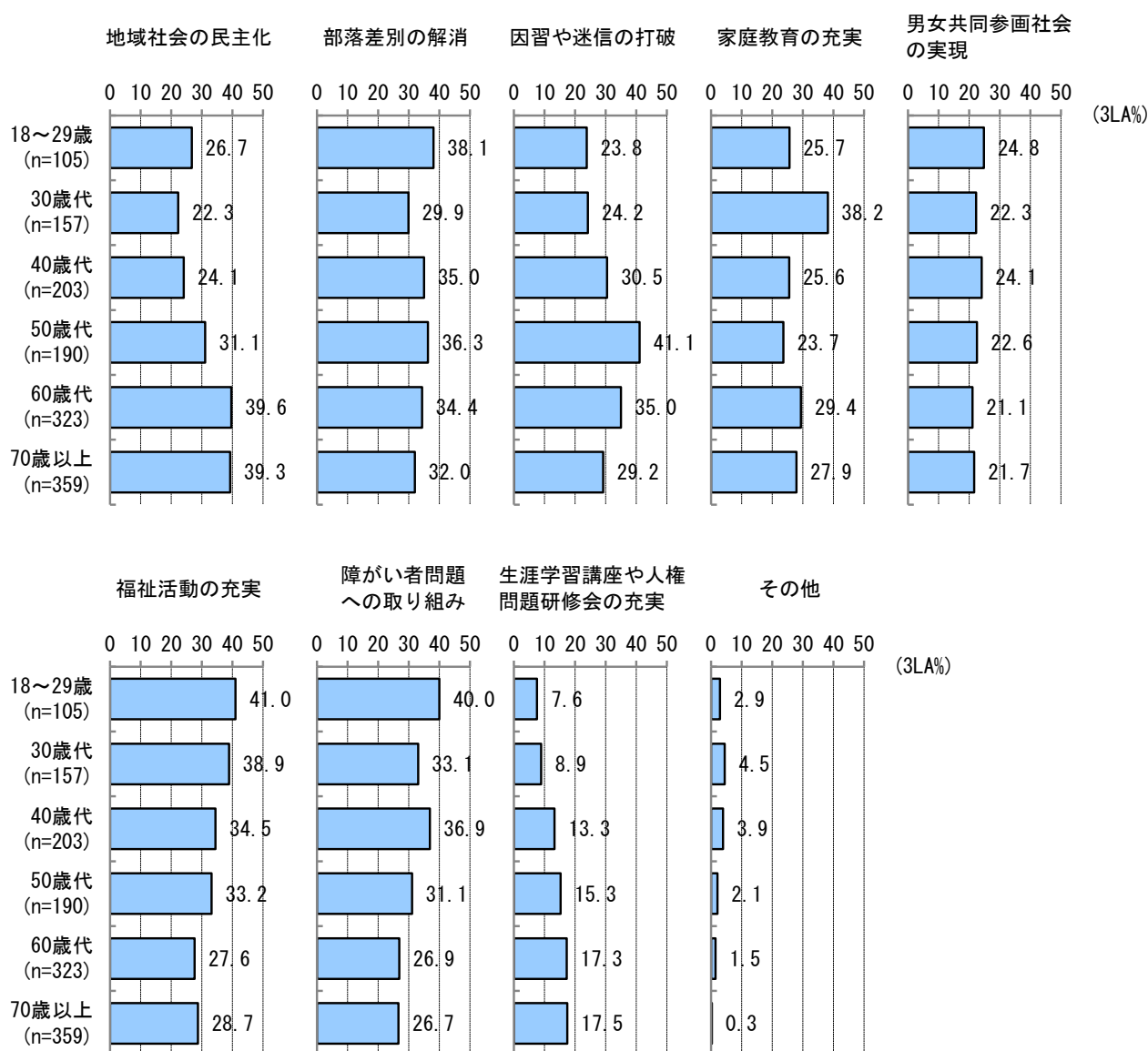
「男女共同参画社会の実現」では、男女とも22%台で、性差はほとんどみられない。(図2-2-1)

【図2-2-1 性別 人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なこと】



年代別でみると、「福祉活動の充実」と「障がい者問題への取り組み」は若い年代ほど高い傾向にあり、特に18～29歳は4割台となっている。また、「家庭教育の充実」では、30歳代が38.2%で他の年代に比べ高くなっている。一方、年代が上がるほど「地域社会の民主化」と「生涯学習講座や人権問題研修会の充実」が上昇傾向にあり、「地域社会の民主化」では60歳以降になると39%台と高くなっている。(図2-2-2)

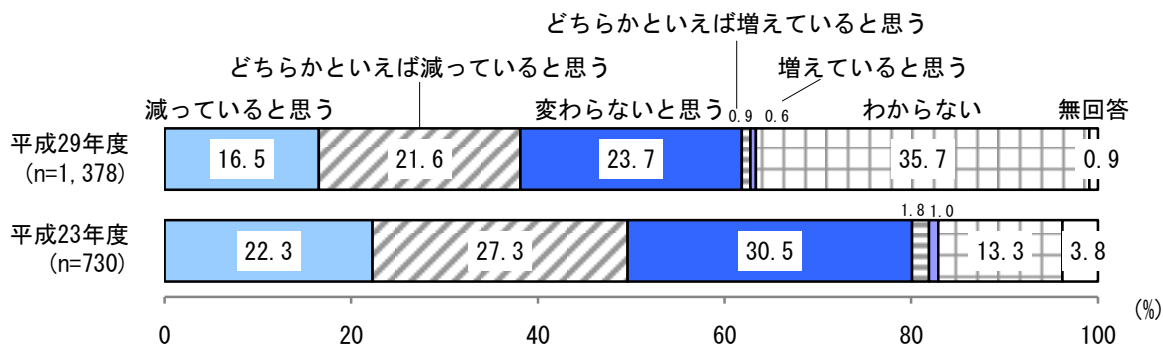
【図2-2-2 年代別 人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なこと】



(3) 5年前と比べた差別や人権侵害の増減

問5 愛荘町における差別や人権侵害は、おおむね5年前に比べてどのようになっていると思いますか。(〇は1つ)

【図2-3 5年前と比べた差別や人権侵害の増減】

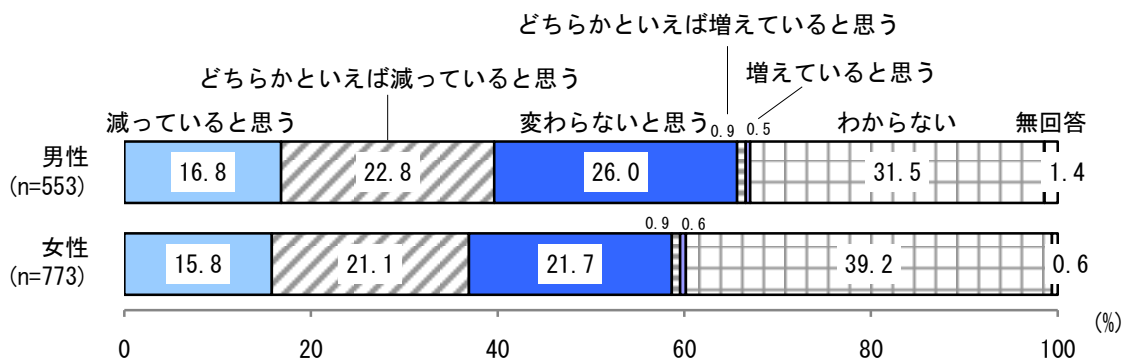


5年前と比べた差別や人権侵害の増減について、「わからない」が35.7%で最も多く、次いで「変わらないと思う」が23.7%、「どちらかといえば減っていると思う」が21.6%となっている。なお、「減っていると思う」と「どちらかといえば減っていると思う」を合わせた『減っていると思う』割合は38.1%を占めている。

前回調査と比較すると、『減っていると思う』割合は11.5ポイント低下しており、「わからない」が22.4ポイント高くなっている。(図2-3)

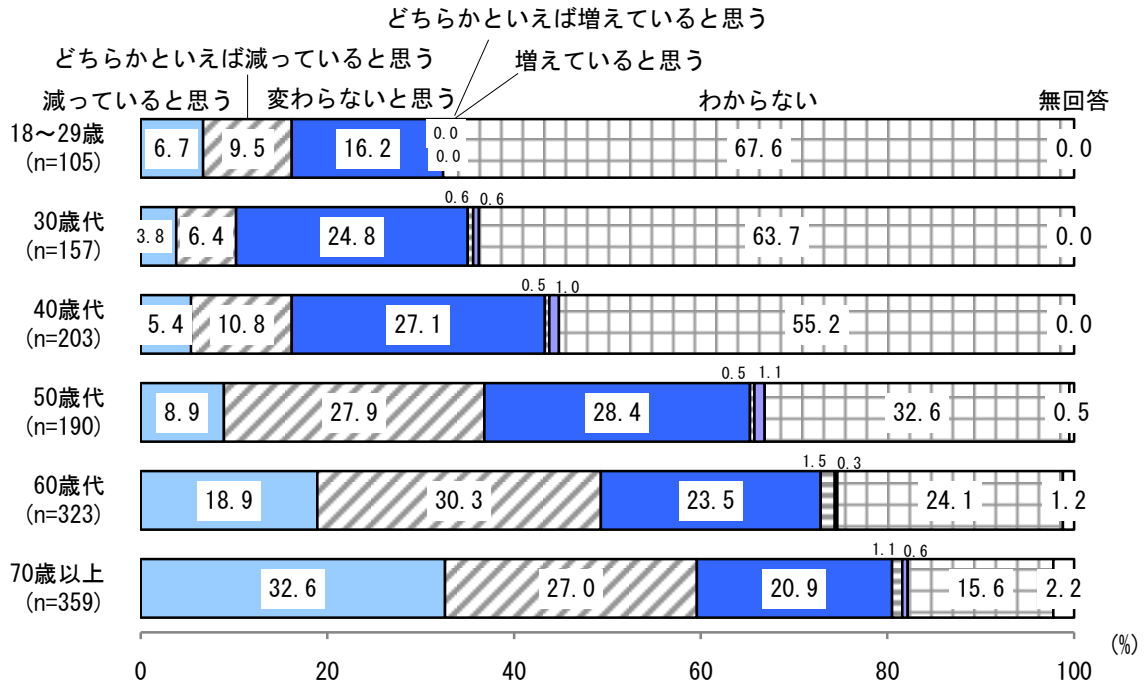
性別で見ると、『減っていると思う』割合は、男性が39.6%、女性が36.9%で、男性のほうが2.7ポイント高くなっているが、「変わらないと思う」でも女性(21.7%)に比べ男性(26.0%)のほうが4.3ポイント高くなっている。一方、女性は「わからない」が39.2%で男性(31.5%)に比べ7.7ポイント高くなっている。(図2-3-1)

【図2-3-1 性別 5年前に比べた差別や人権侵害の増減】



年代別で見ると、18～40歳代の各年代は「わからない」が過半数を占めており、次いで「変わらないと思う」が多くなっている。50歳以降になると「わからない」が大幅に下がり、『減っていると思う』割合が上昇し、60歳代は49.2%、70歳以上では59.6%と高くなっている。(図2-3-2)

【図2-3-2 年代別 5年前に比べた差別や人権侵害の増減】

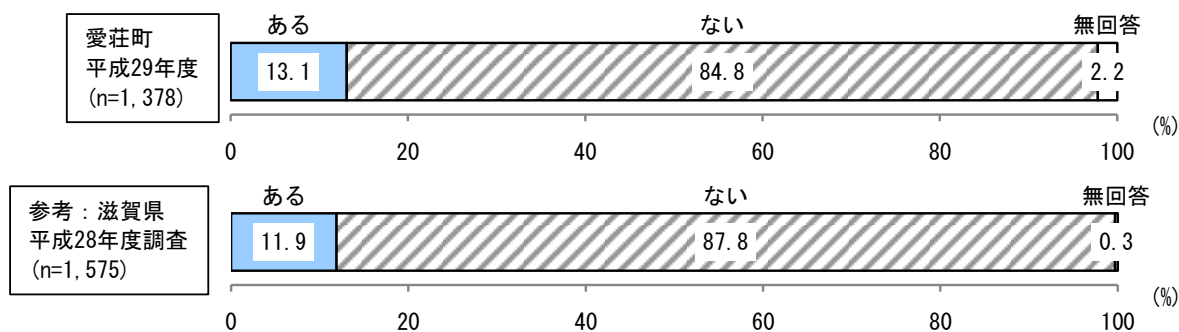


3. 人権侵害を受けた経験について

(1) 人権侵害を受けた経験

問6 あなたは、ここ5年以内で差別や人権侵害を受けたことがありますか。(○は1つ)

【図3-1 人権侵害を受けた経験】

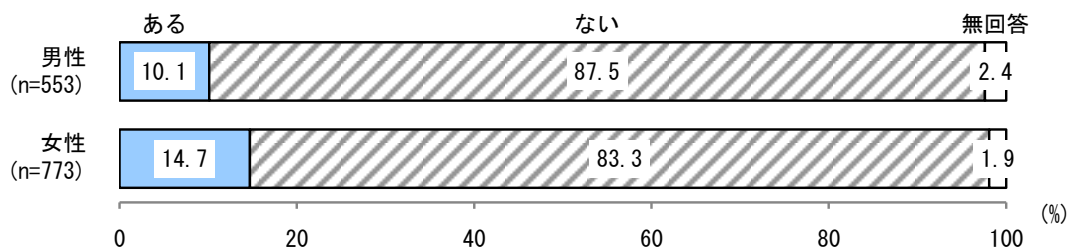


人権侵害を受けたことについて、「ある」が13.1%、「ない」は84.8%となっている。

参考に県調査と比較すると、本町のほうが「(人権侵害を受けたことが) ある」は1.2ポイント高くなっている。(図3-1)

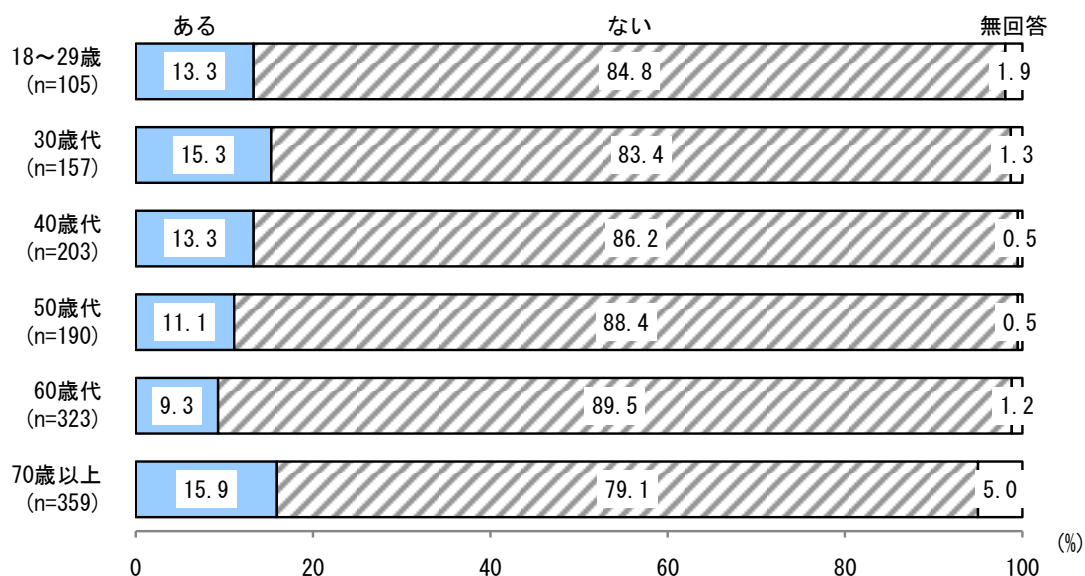
性別でみると、「(人権侵害を受けたことが) ある」は、男性で10.1%、女性で14.7%となっており、女性のほうが4.6ポイント高くなっている。(図3-1-1)

【図3-1-1 性別 人権侵害を受けた経験】



年代別でみると、「(人権侵害を受けたことが) ある」は、70歳以上が15.9%で最も高く、次いで30歳代が15.3%、18～29歳と40歳代がともに13.3%となっている。(図3-1-2)

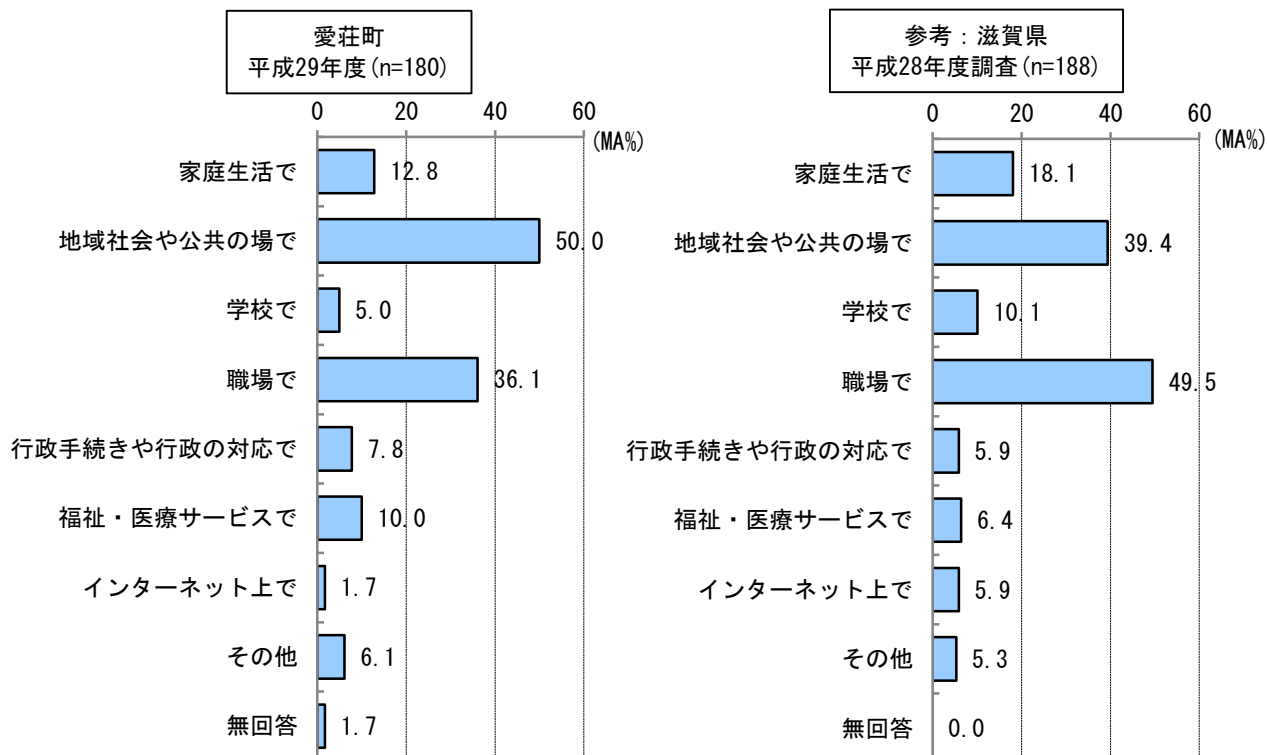
【図3-1-2 年代別 人権侵害を受けた経験】



(2) 人権侵害を受けた場面

問6-1 問6で「ある」とお答えになった方におたずねします。
それは、どのような生活場面でしたか。(〇はいくつでも)

【図3-2 人権侵害を受けた場面】

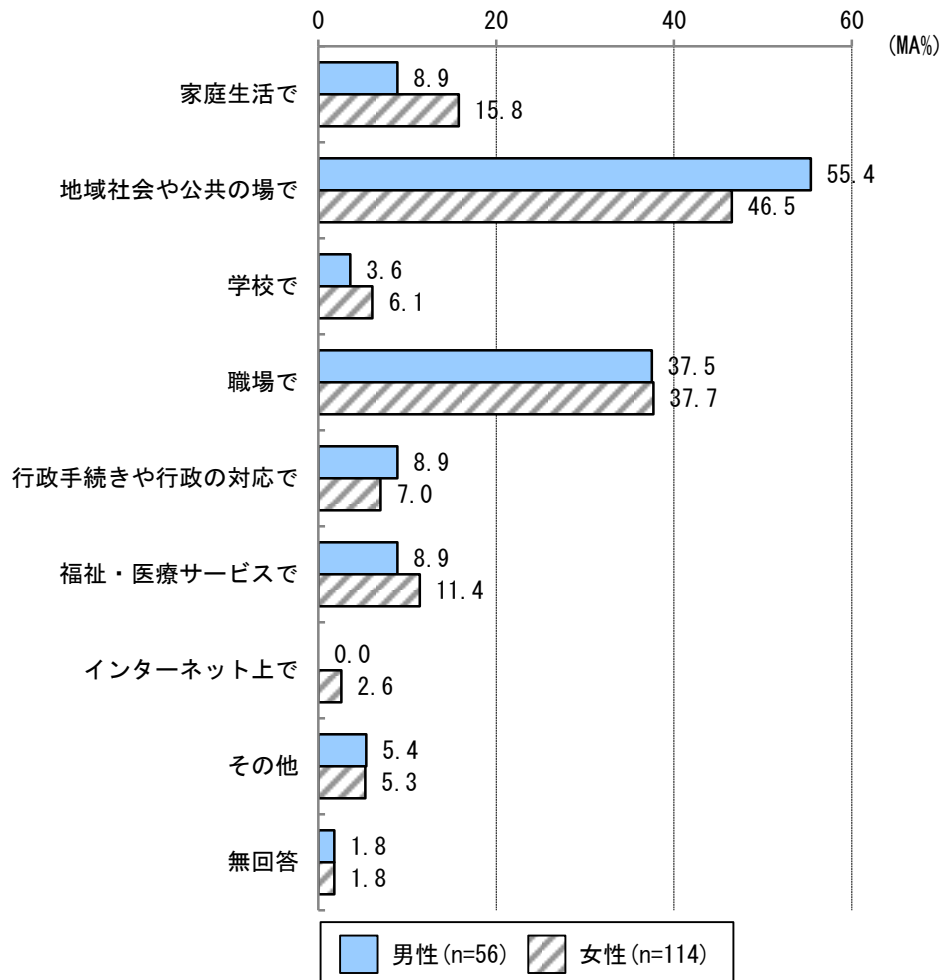


人権侵害を受けたことがあると回答した人に、侵害を受けた場面をたずねると、「地域社会や公共の場で」が50.0%で最も多く、次いで「職場で」が36.1%、「家庭生活で」が12.8%となっている。

参考に県調査と比較すると、「職場で」は、県（49.5%）では最も多くなっており、本町のほうが13.4ポイント低くなっている。一方、「地域社会や公共の場で」は、県（39.4%）に対し、本町のほうが10.6ポイント高くなっている。他にも「行政手続きや行政の対応で」と「福祉・医療サービスで」は、本町のほうが高い割合になっている。（図3-2）

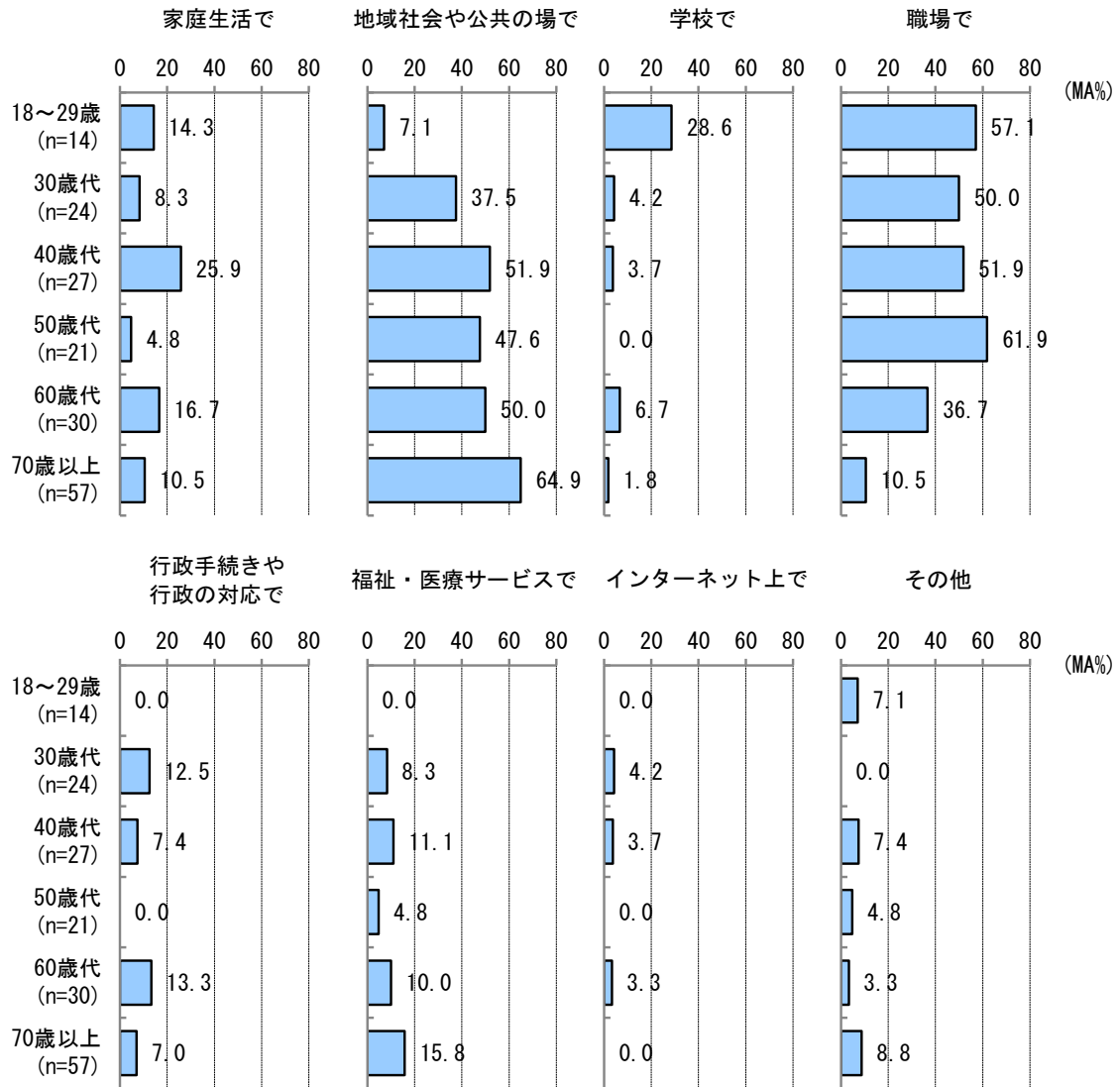
性別で見ると、男女とも「地域社会や公共の場で」が最も多く、男性は55.4%、女性は46.5%で、男性のほうが8.9ポイント高くなっている。これに次いで「職場で」が多く、男女とも37%台で性差はほとんどみられない。また、「家庭生活で」は、女性が15.8%で男性（8.9%）に比べ6.9ポイント高くなっている。（図3-2-1）

【図3-2-1 性別 人権侵害を受けた場面】



年代別でみると、各年代の母数が少ないので、一概には言えないが、18～29歳は「学校で」が他の年代に比べ高くなっている。「地域社会や公共の場で」は30歳以降になると上昇傾向にある。また、「家庭生活で」は40歳代が他の年代に比べて高く、「職場で」は18～50歳代の各年代で5割以上となっている。(図3-2-2)

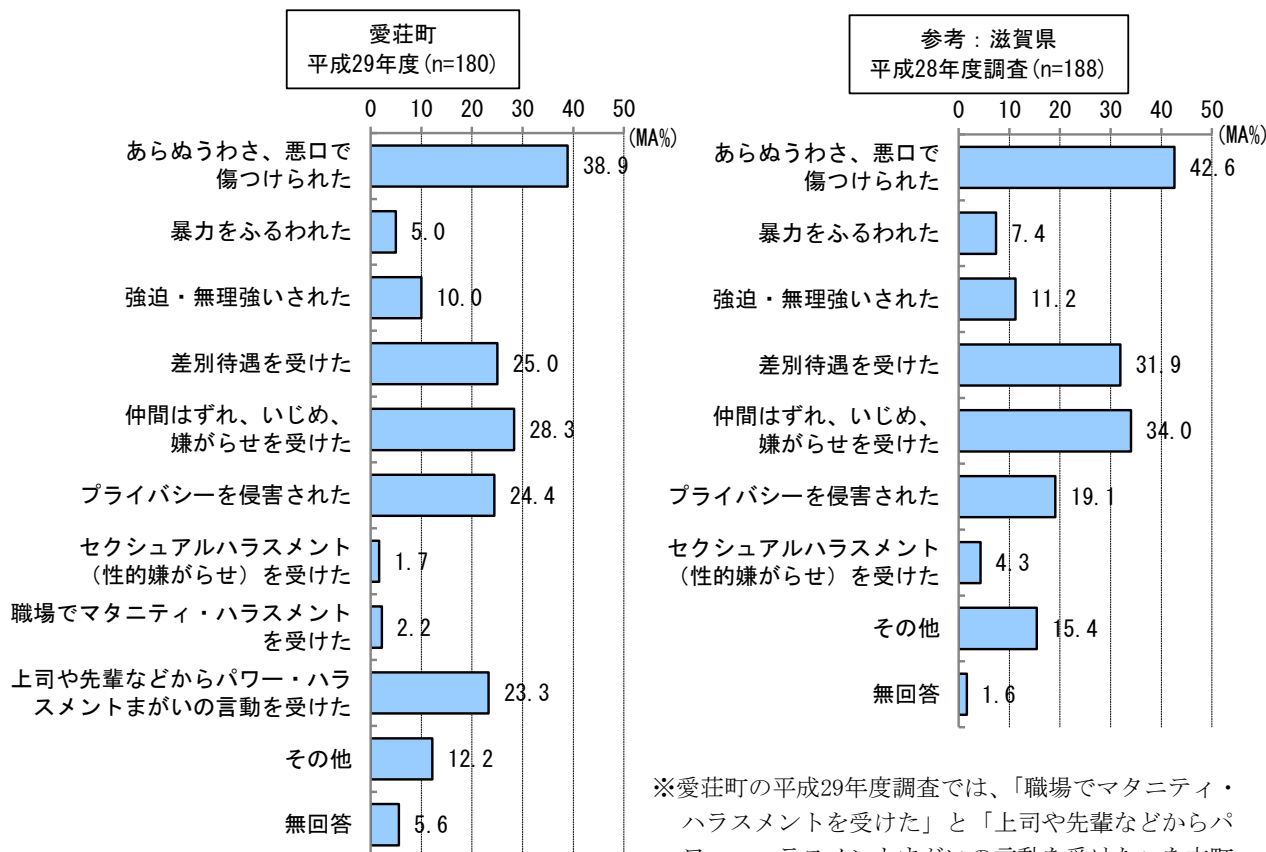
【図3-2-2 年代別 人権侵害を受けた場面】



(3) 人権侵害を受けた内容

問6-2 問6で「ある」とお答えになった方におたずねします。
それは、どのような内容でしたか。(〇はいくつでも)

【図3-3 人権侵害を受けた内容】



※愛荘町の平成29年度調査では、「職場でマタニティ・ハラスメントを受けた」と「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」を本町の独自項目として追加している。

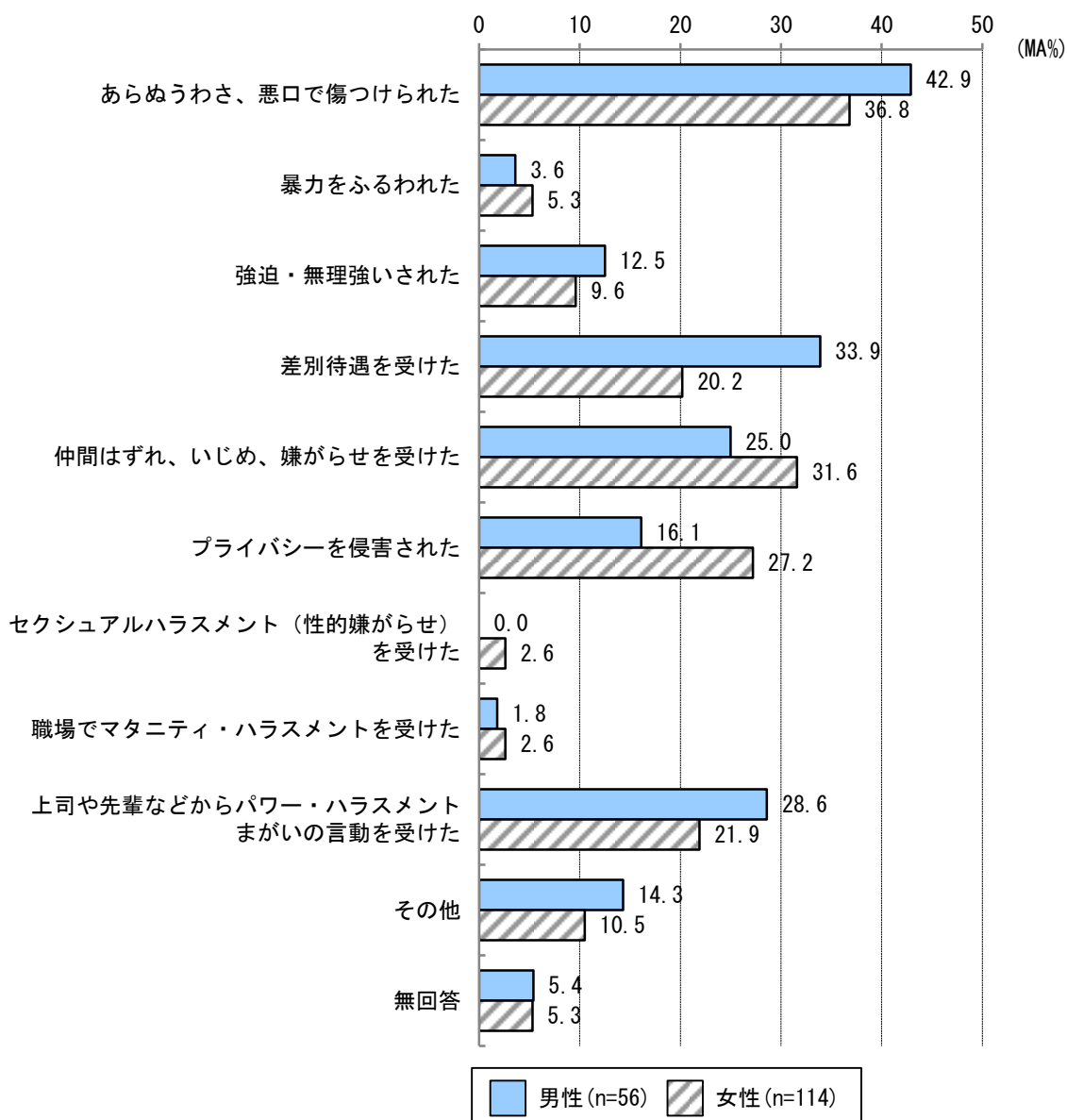
人権侵害を受けたことがあると回答した人に、侵害を受けた内容をたずねると、「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」が38.9%で最も多く、次いで「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」が28.3%、「差別待遇を受けた」が25.0%となっている。

参考に県調査と比較すると、「プライバシーを侵害された」は本町のほうが5.3ポイント高くなっている。

また、本町の独自項目として追加した2項目では、「職場でマタニティ・ハラスメントを受けた」が2.2%、「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」が23.3%となっている。(図3-3)

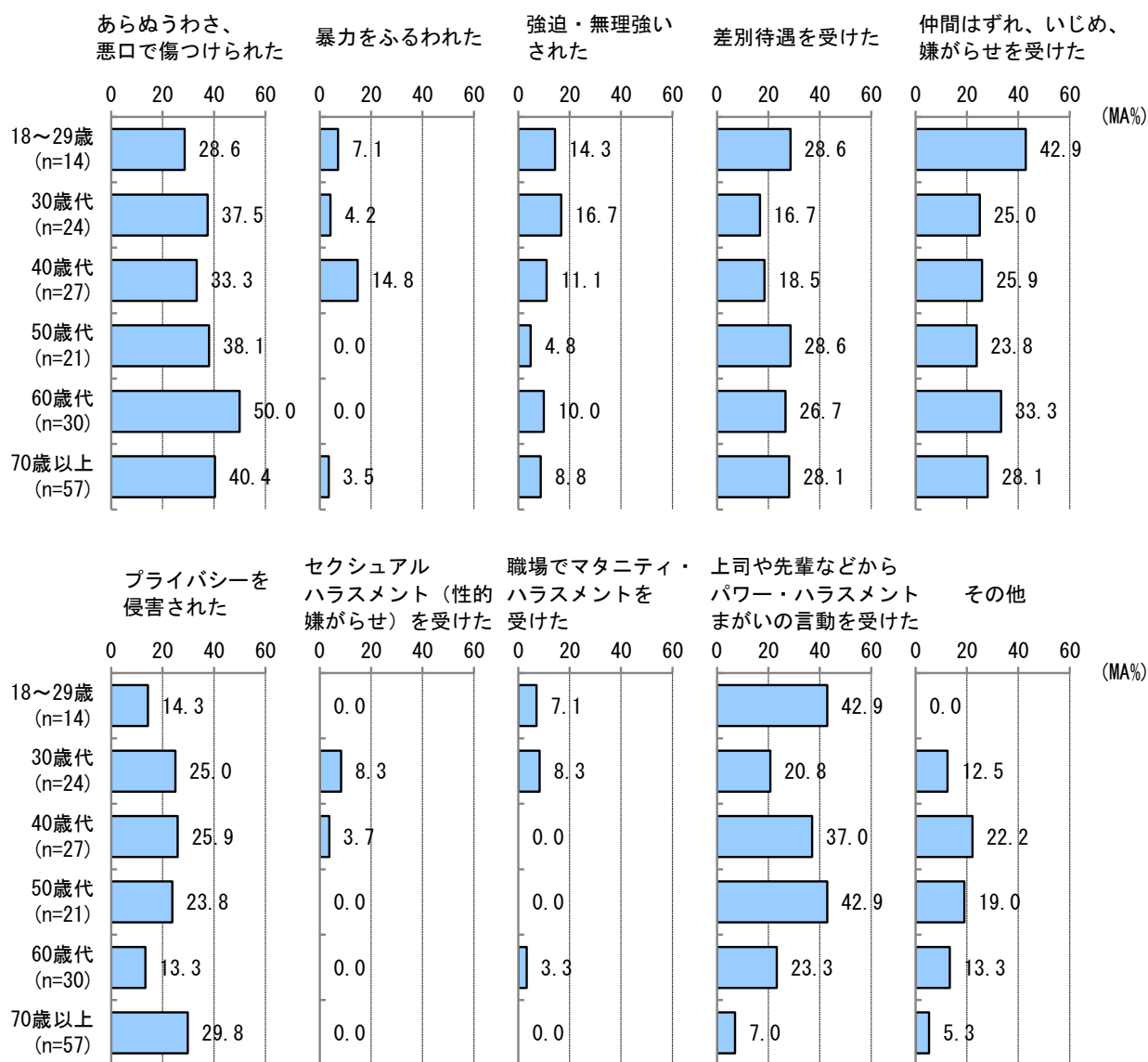
性別で見ると、男女とも「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」が最も多く、男性は42.9%、女性は36.8%で、男性のほうが6.1ポイント高くなっている。これに次いで、男性は「差別待遇を受けた」が33.9%、「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」が28.6%となっており、女性より高い割合になっている。一方、女性は、続いて「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」が31.6%、「プライバシーを侵害された」が27.2%となっており、男性より高い割合になっている。(図3-3-1)

【図3-3-1 性別 人権侵害を受けた内容】



年代別でみると、各年代の母数が少ないので、一概には言えないが、18～29歳は「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」と「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」が最も多い。30歳代や60歳代、70歳以上は「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」、40歳代と50歳代は「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」が最も多くなっている。(図3-3-2)

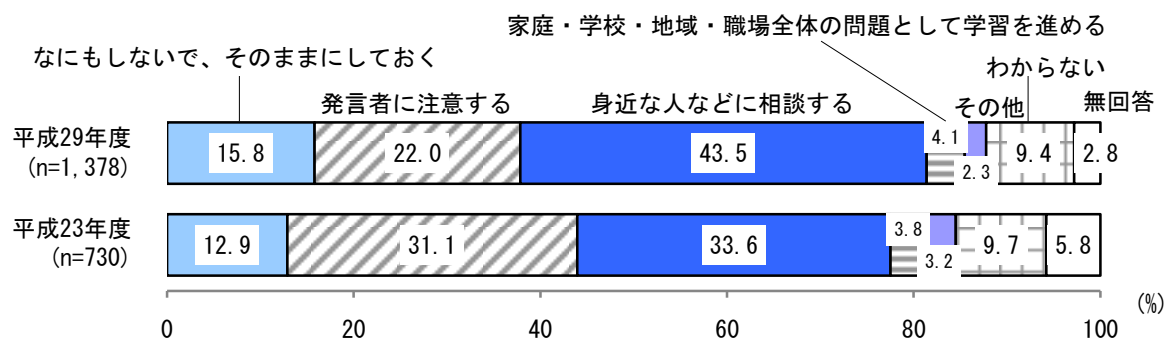
【図3-3-2 年代別 人権侵害を受けた内容】



(4) 人権が傷つけられるような発言をされた時の対応

問7 もし、あなたに対し人権が傷つけられるような発言があったとき、あなたはどのようにされますか。(〇は1つ)

【図3-4 人権が傷つけられるような発言をされた時の対応】

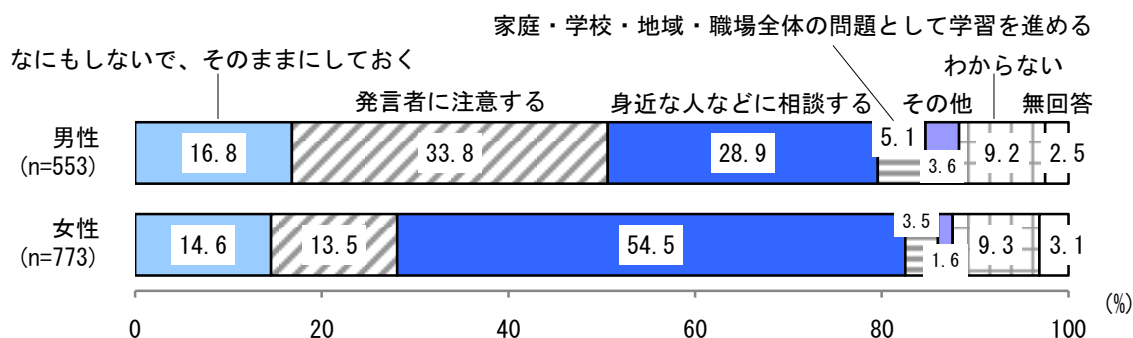


人権が傷つけられるような発言をされた時の対応について、「身近な人などに相談する」が43.5%で最も多く、次いで「発言者に注意する」が22.0%、「なにもしないで、そのままにしておく」が15.8%となっている。

前回調査と比較すると、「なにもしないで、そのままにしておく」が2.9ポイント、「身近な人などに相談する」が9.9ポイント高くなっており、「発言者に注意する」は9.1ポイント低下している。(図3-4)

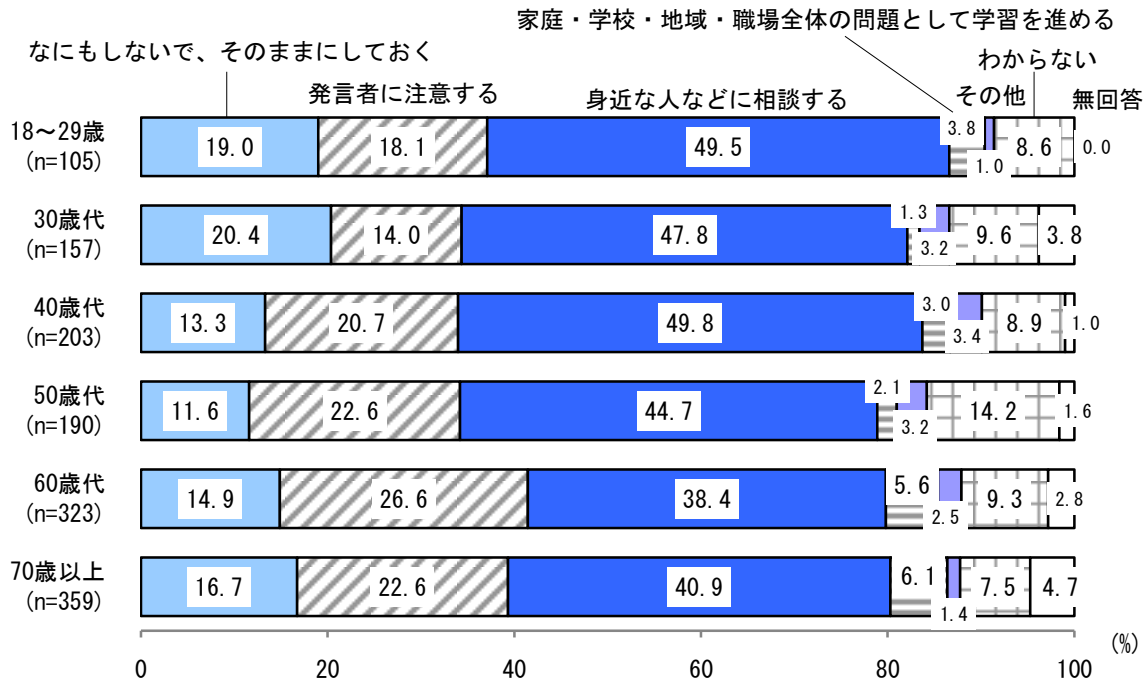
性別で見ると、男性は「発言者に注意する」が33.8%で最も多く、女性(13.5%)に比べ20.3ポイント高くなっている。一方、女性は「身近な人などに相談する」が54.5%で最も多く、男性(28.9%)に比べ25.6ポイント高くなっている。(図3-4-1)

【図3-4-1 性別 人権が傷つけられるような発言をされた時の対応】



年代別で見ると、「身近な人などに相談する」が、年代にかかわらず最も多く、若い年代ほど高い傾向にあり、18～40歳代の各年代では5割弱を占めている。また、「なにもしないで、そのままにしておく」は、18～29歳と30歳代が2割前後で他の年代に比べ高くなっている。一方、「発言者に注意する」では、60歳代が26.6%で他の年代に比べ高くなっている。(図3-4-2)

【図3-4-2 年代別 人権が傷つけられるような発言をされた時の対応】



4. 人権尊重や人権侵害についての考え方

(1) 人権を侵害するような態度に対する意見

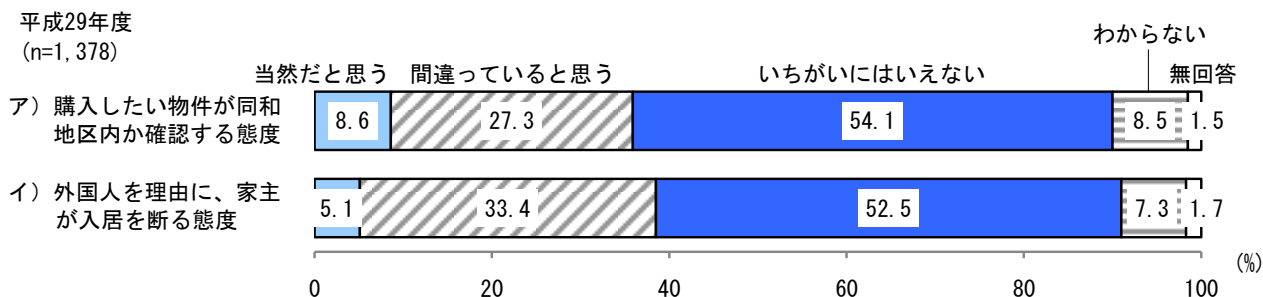
問8 人権の尊重や侵害については、人によっていろいろと考え方のちがいがあるようですが、以下のア、イのようなことについて、あなたはどのように思いますか。

(○はそれぞれ1つ)

ア) Bさんは、手頃な家を見つけたので買おうとしましたが、その場所が同和地区かどうか心配なので、不動産業者に問い合わせをしました。このようなBさんの態度について、あなたはどのように思いますか。

イ) 借家を探していた外国人が適当なマンションを見つけたので申し込んだところ、外国人であるということで生活習慣等の違いから入居者と問題が起こらないかを心配して、家主は貸すことを断りました。このような家主の態度について、あなたはどのように思いますか。

【図4-1 人権を侵害するような態度に対する意見】

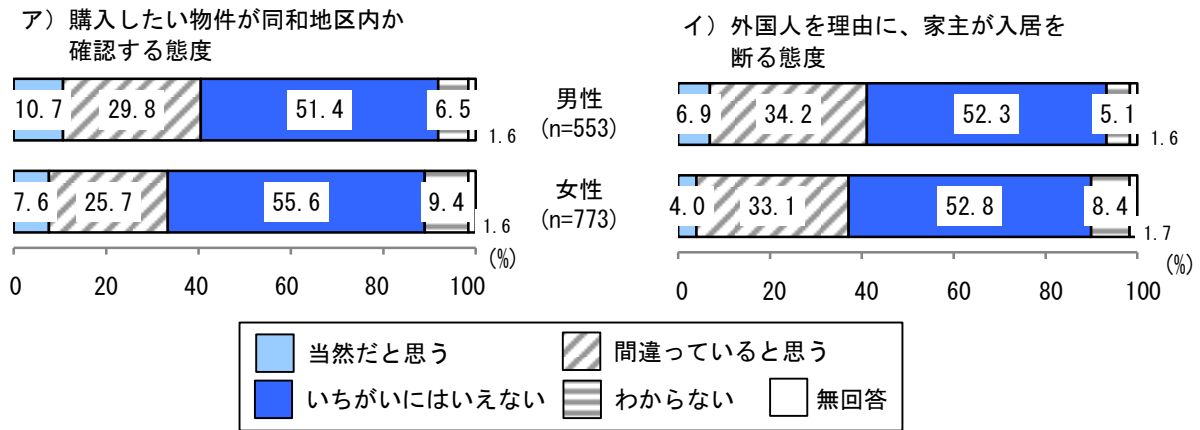


人権を侵害するような態度について、どちらも「いちがいいにはいけない」が5割台を占めている。「間違っていると思う」では、“ア) 購入したい物件が同和地区内か確認する態度”が27.3%、“イ) 外国人を理由に、家主が入居を断る態度”が33.4%となっている。(図4-1)

性別でみると、「ア) 購入したい物件が同和地区内か確認する態度」は、「間違っていると思う」が男性で29.8%、女性で25.7%となっており、男性のほうが4.1ポイント高いが、「当然だと思う」も男性のほうが3.1ポイント高くなっている。

“イ) 外国人を理由に、家主が入居を断る態度”は、「間違っていると思う」が男性で34.2%、女性で33.1%となっており、男性のほうが1.1ポイント高いが、「当然だと思う」も男性のほうが2.9ポイント高くなっている。(図4-1-1)

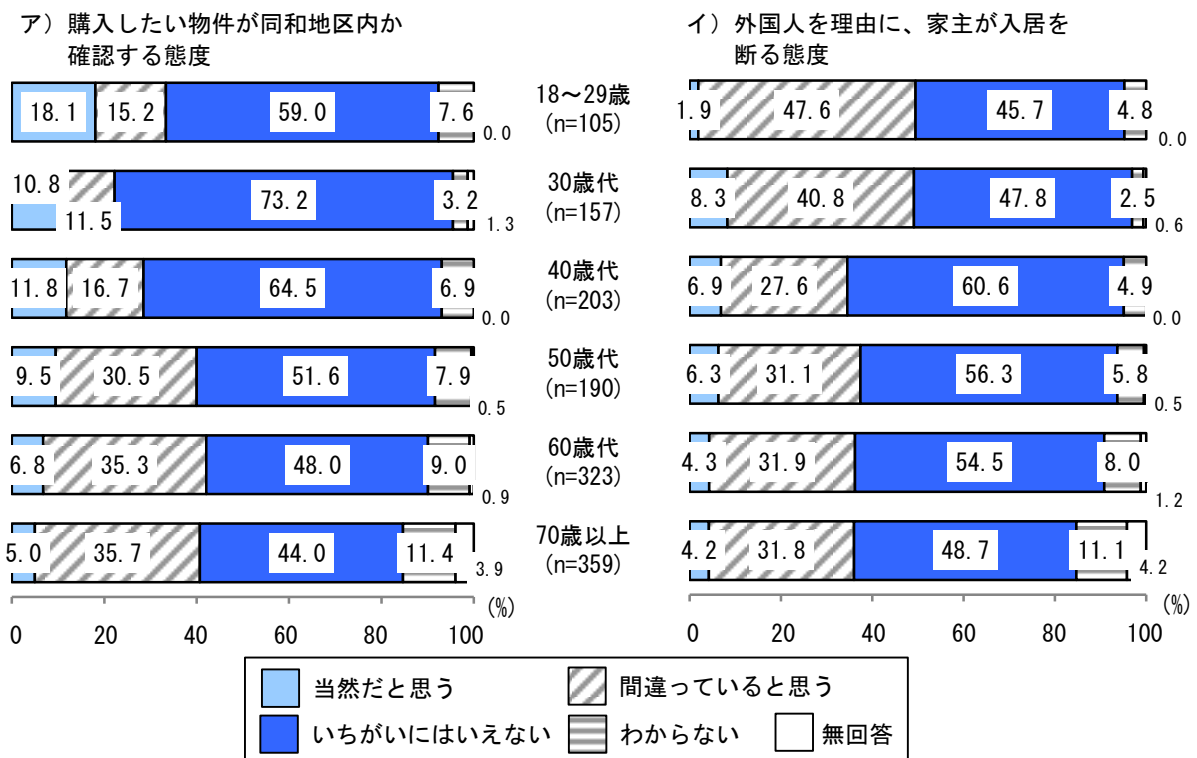
【図4-1-1 性別 人権を侵害するような態度に対する意見】



年代別でみると、「ア) 購入したい物件が同和地区内か確認する態度」は、「当然だと思う」が若い年代ほど高い傾向にあり、18～29歳では18.1%となっている。一方、「間違っていると思う」は、18～40歳代の各年代が1割台に対し、50歳以降になると3割台に上昇している。

“イ) 外国人を理由に、家主が入居を断る態度”は、「間違っていると思う」が、18～29歳と30歳代で4割台に対し、40歳以降になると3割前後に低下している。(図4-1-2)

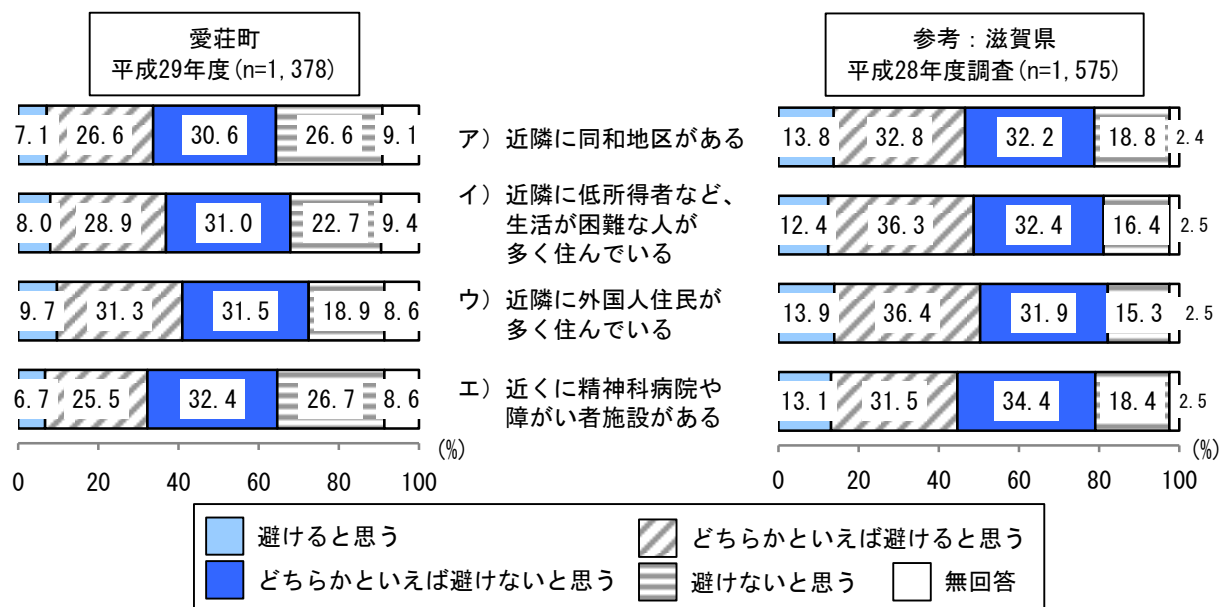
【図4-1-2 年代別 人権を侵害するような態度に対する意見】



(2) 住宅を選ぶ際に忌避する条件

問9 あなたは、家を購入したりマンションを借りたりするなど、住宅を選ぶ際に、価格や立地条件などが希望にあっても、次のような条件の物件の場合、避けると思いますか。ア～エのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図4-2 住宅を選ぶ際に忌避する条件】

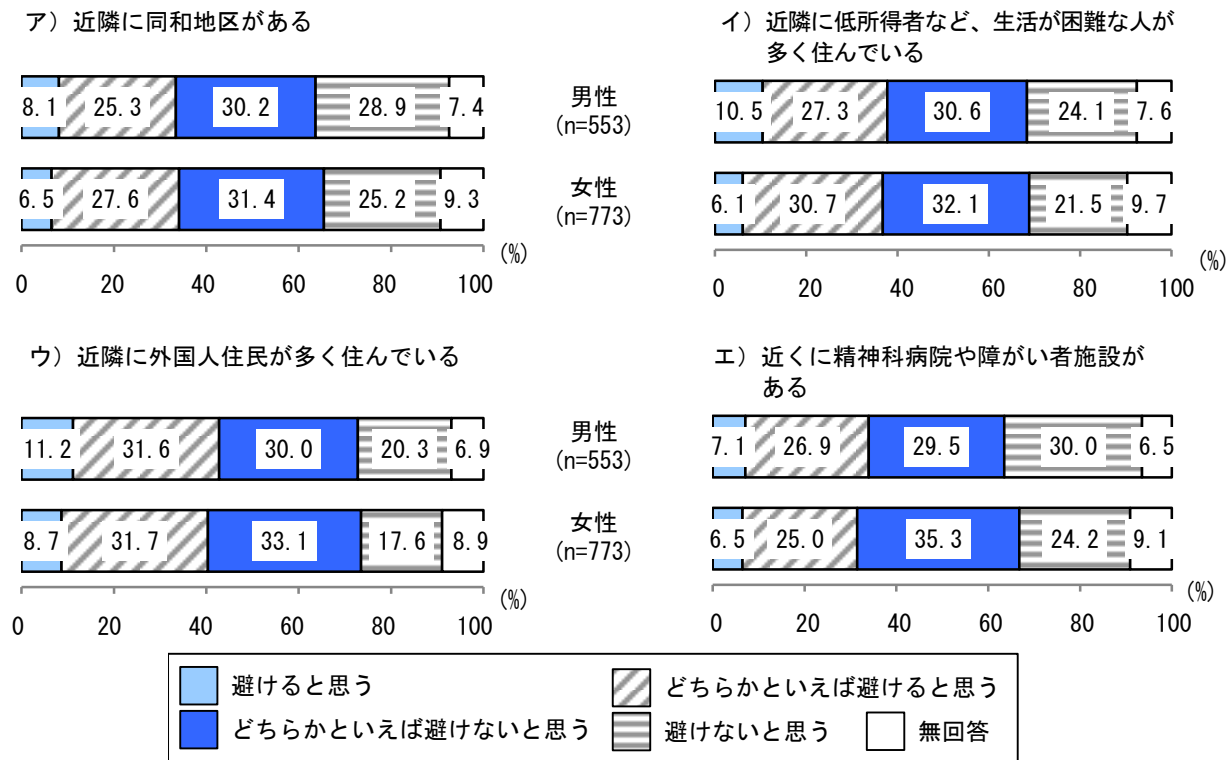


住宅を選ぶ際に忌避する条件について、いずれも「どちらかといえば避けないと思う」が3割強で最も多く、「避けないと思う」を合わせた『避けないと思う』割合は、いずれも5割台を占めている。一方、「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」を合わせた『避けると思う』割合では、“ウ) 近隣に外国人住民が多く住んでいる”が41.0%で他の条件に比べ高くなっている。

参考に県調査と比較すると、いずれの条件も『避けないと思う』割合は本町のほうが高くなっている。なお、『避けると思う』割合は、いずれの条件も本町のほうが10ポイント程度低い。(図4-2)

性別でみると、いずれの条件も『避けないと思う』割合が、男女とも5割台を占めている。しかし、“ウ）近隣に外国人住民が多く住んでいる”は、男性は「どちらかといえば避けると思う」（31.6%）が最も多く、『避けると思う』割合では女性より2.4ポイント高くなっている。（図4-2-1）

【図4-2-1 性別 住宅を選ぶ際に忌避する条件】



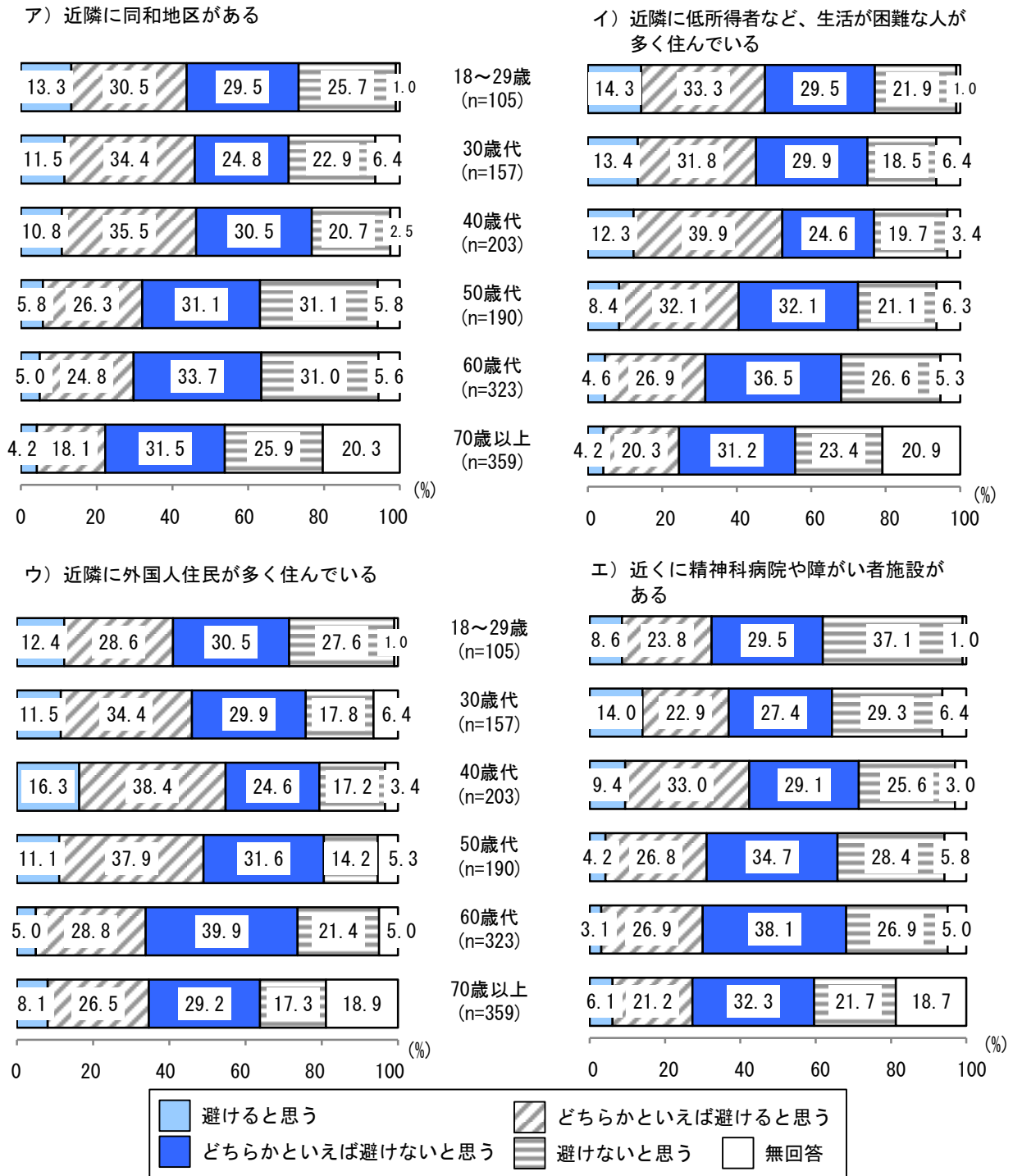
年代別でみると、“ア）近隣に同和地区がある”では、各年代で『避けないと思う』割合のほうが多くなっているが、18～40歳代の各年代は「どちらかといえば避けると思う」が最も多くなっている。

“イ）近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる”では、40歳代を除く各年代で『避けないと思う』割合が5割前後に対し、40歳代は『避けると思う』割合が52.2%と高くなっている。また、18～40歳代の各年代は「どちらかといえば避けると思う」が最も多くなっている。

“ウ）近隣に外国人住民が多く住んでいる”では、40歳代と50歳代が『避けると思う』割合で5割前後となっており、『避けないと思う』割合より多くなっている。それ以外の年代では『避けないと思う』割合のほうが多くなっている。

“エ）近くに精神科病院や障がい者施設がある”では、各年代で『避けないと思う』割合が過半数を占めているが、40歳代は「どちらかといえば避けると思う」が最も多くなっている。（図4-2-2）

【図4-2-2 年代別 住宅を選ぶ際に忌避する条件】

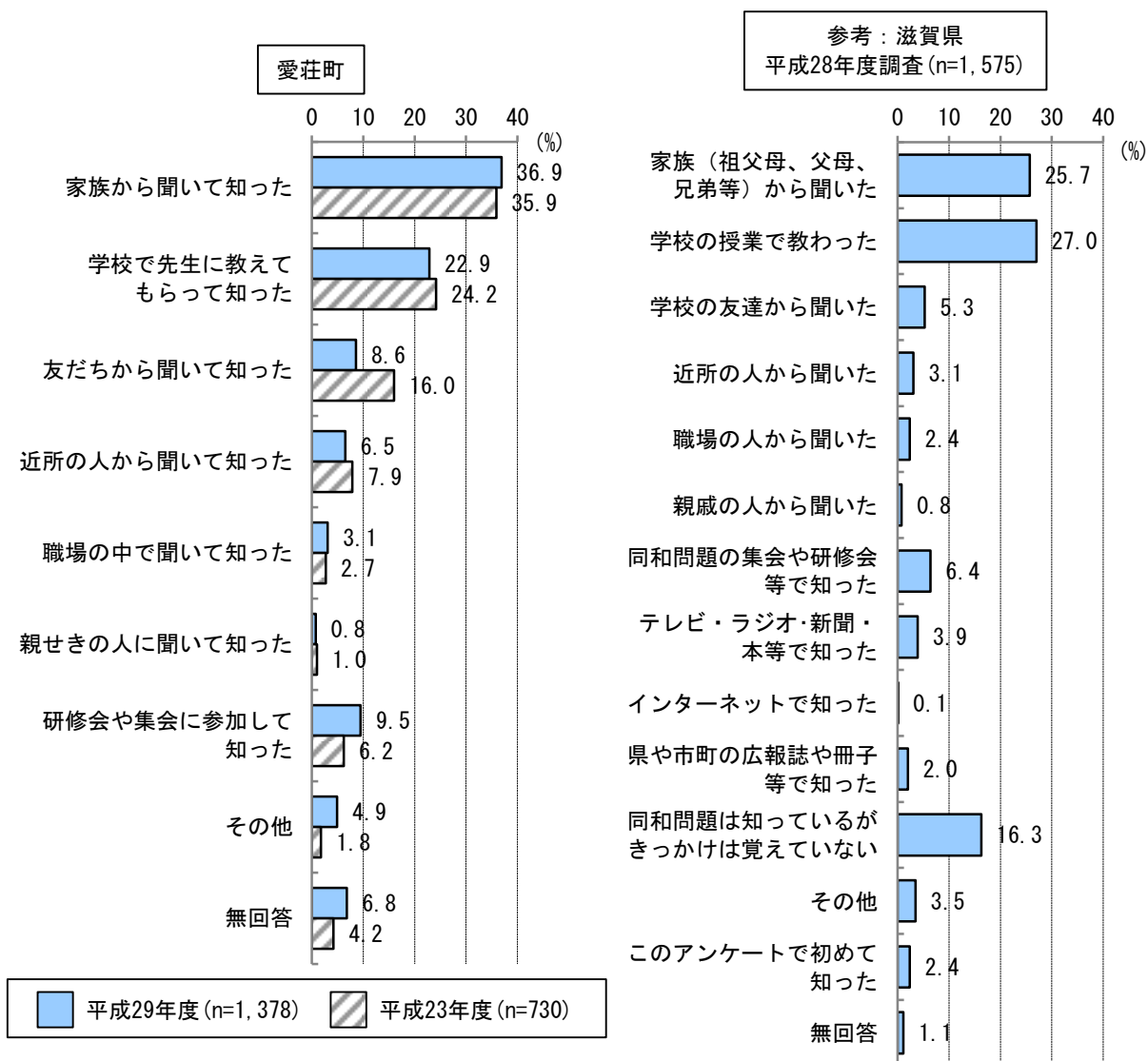


5. 同和問題の認識・考え方について

(1) 同和地区や部落差別について初めて知ったきっかけ

問10 同和地区や部落差別のことに、最初どのようにして知りましたか。(〇は1つ)

【図5-1 同和地区や部落差別について初めて知ったきっかけ】



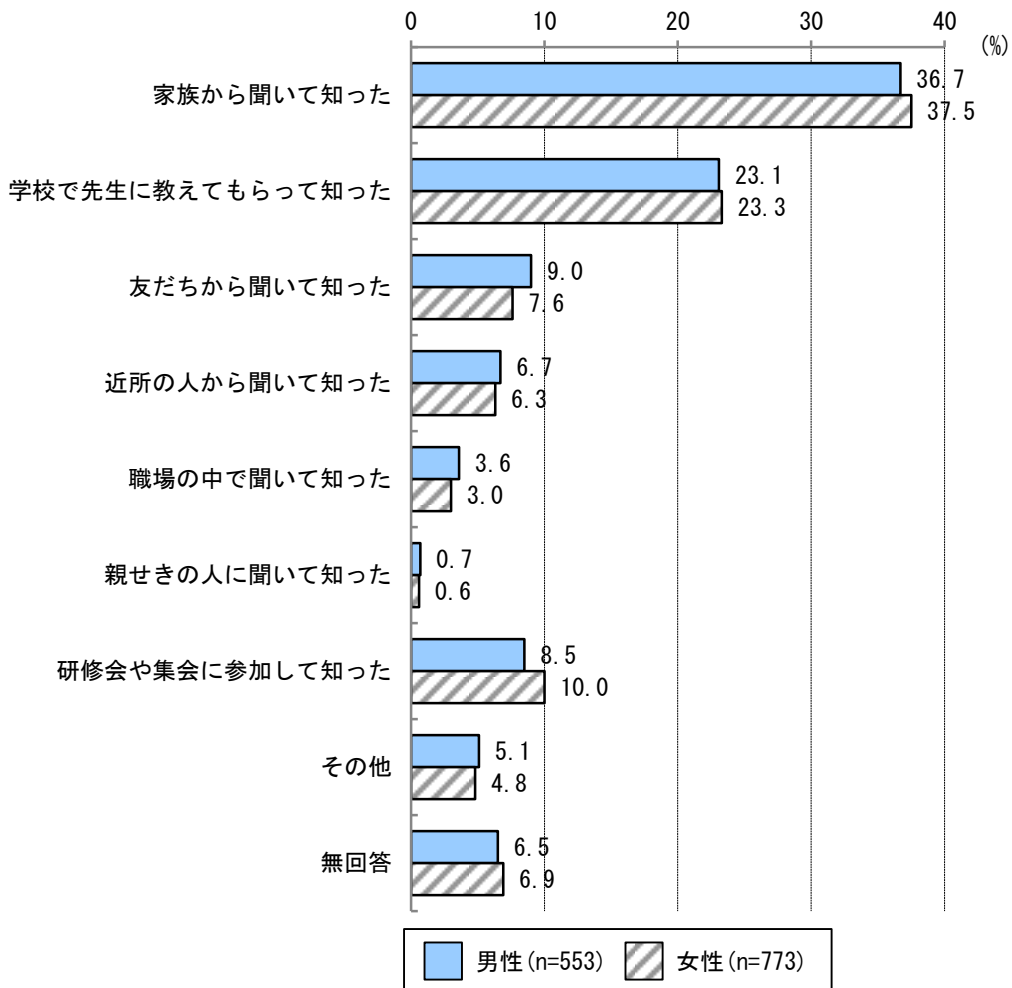
同和地区や部落差別について初めて知ったきっかけについて、「家族から聞いて知った」が36.9%で最も多く、次いで「学校で先生に教えてもらって知った」が22.9%、「研修会や集会に参加して知った」が9.5%となっている。

前回調査と比較すると、「友だちから聞いて知った」は7.4ポイント低下し、「研修会や集会に参加して知った」が3.3ポイント高くなっている。

県調査では質問項目が本町と異なる部分はあるが、参考として比較すると、「学校で教わった」項目は本町のほうが低く、「集会や研修会で知った」項目は本町のほうが高い傾向がうかがえる。(図5-1)

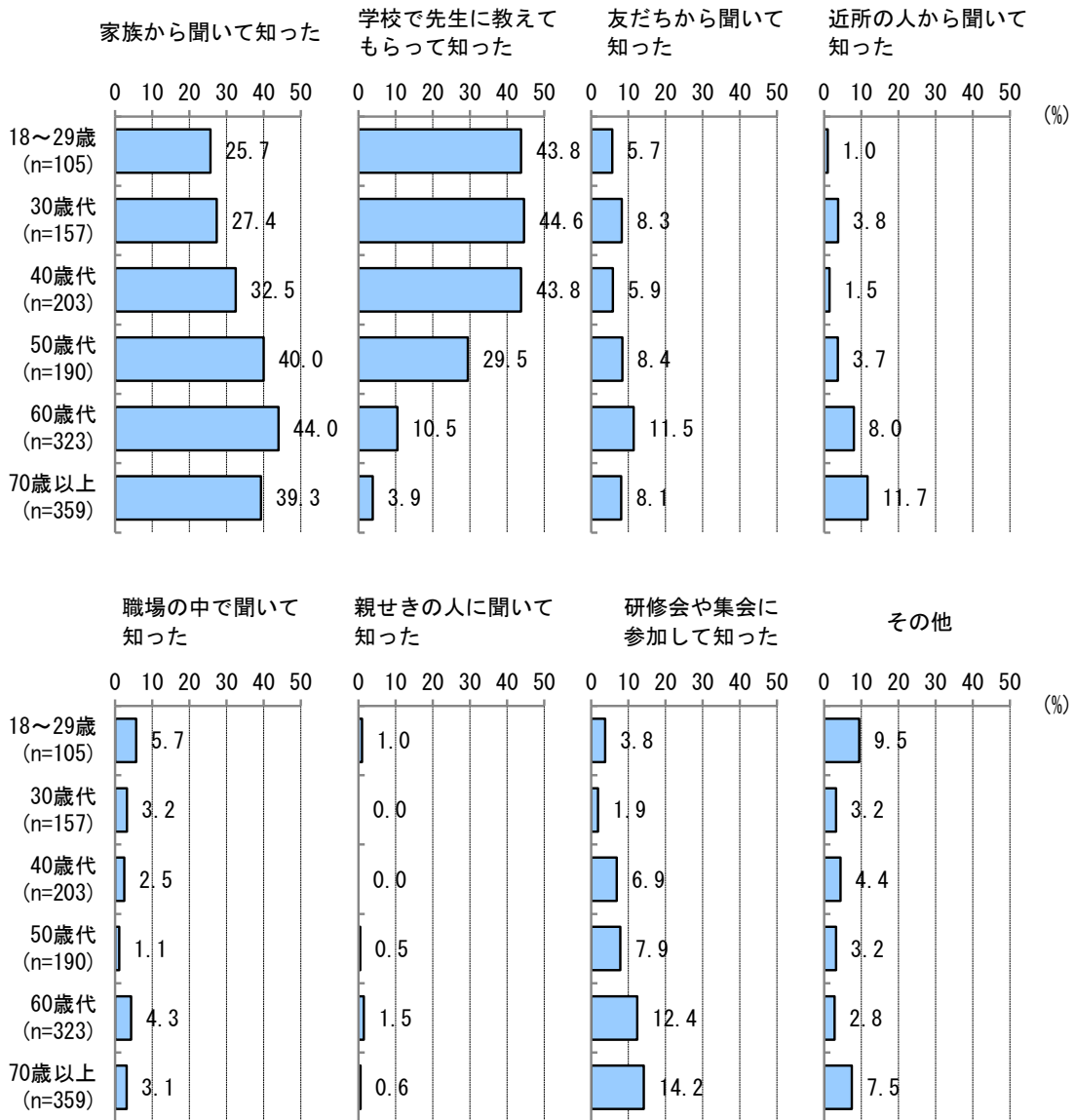
性別で見ると、男女に大きな差はみられないが、「研修会や集会に参加して知った」では、男性が8.5%に対し、女性は10.0%で、女性のほうが1.5ポイント高くなっている。(図5-1-1)

【図5-1-1 性別 同和地区や部落差別について初めて知ったきっかけ】



年代別で見ると、18～40歳代の各年代は「学校で先生に教えてもらって知った」が最も多く、50歳以降になると「家族から聞いて知った」が最も多くなっている。また、「家族から聞いて知った」や「近所の人から聞いて知った」、「研修会や集会に参加して知った」は、年代が上がるほど上昇傾向にある。(図5-1-2)

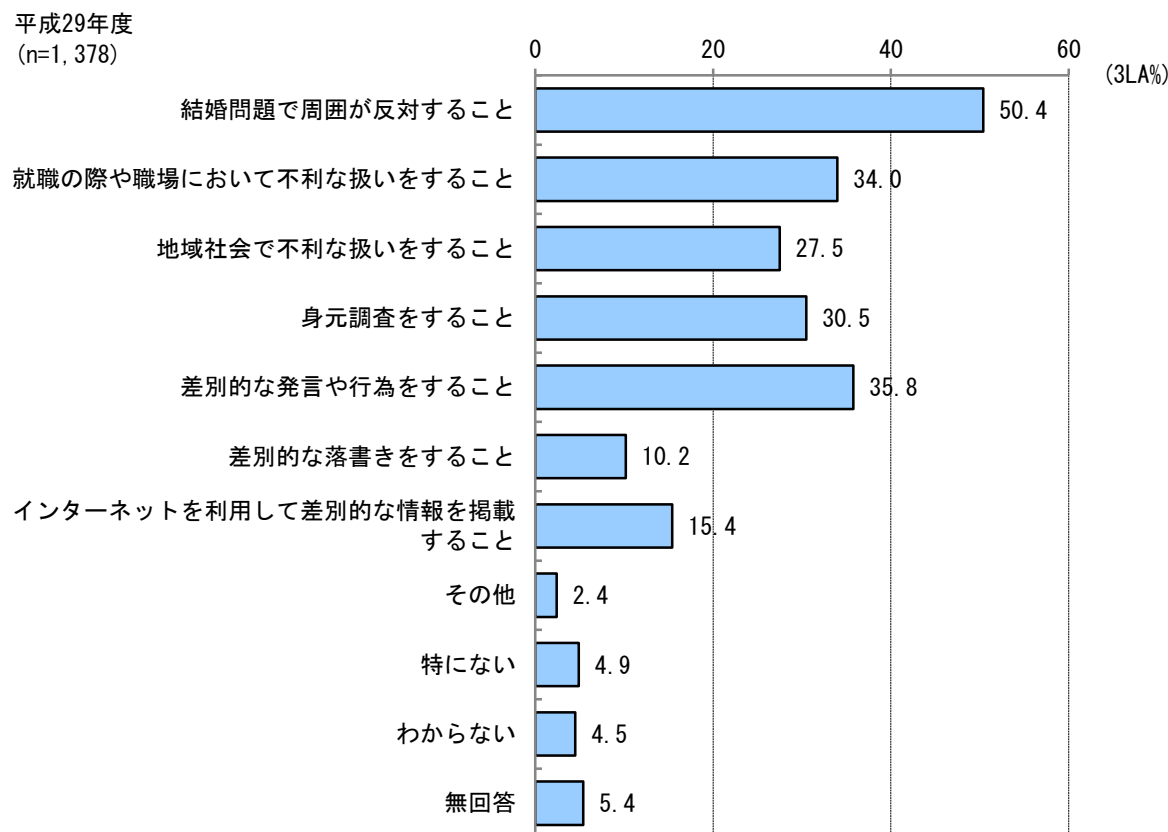
【図5-1-2 年代別 同和地区や部落差別について初めて知ったきっかけ】



(2) 同和問題で人権上特に問題があると思うこと

問11 同和問題で、あなたが人権上特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(〇は3つまで)

【図5-2 同和問題で人権上特に問題があると思うこと】

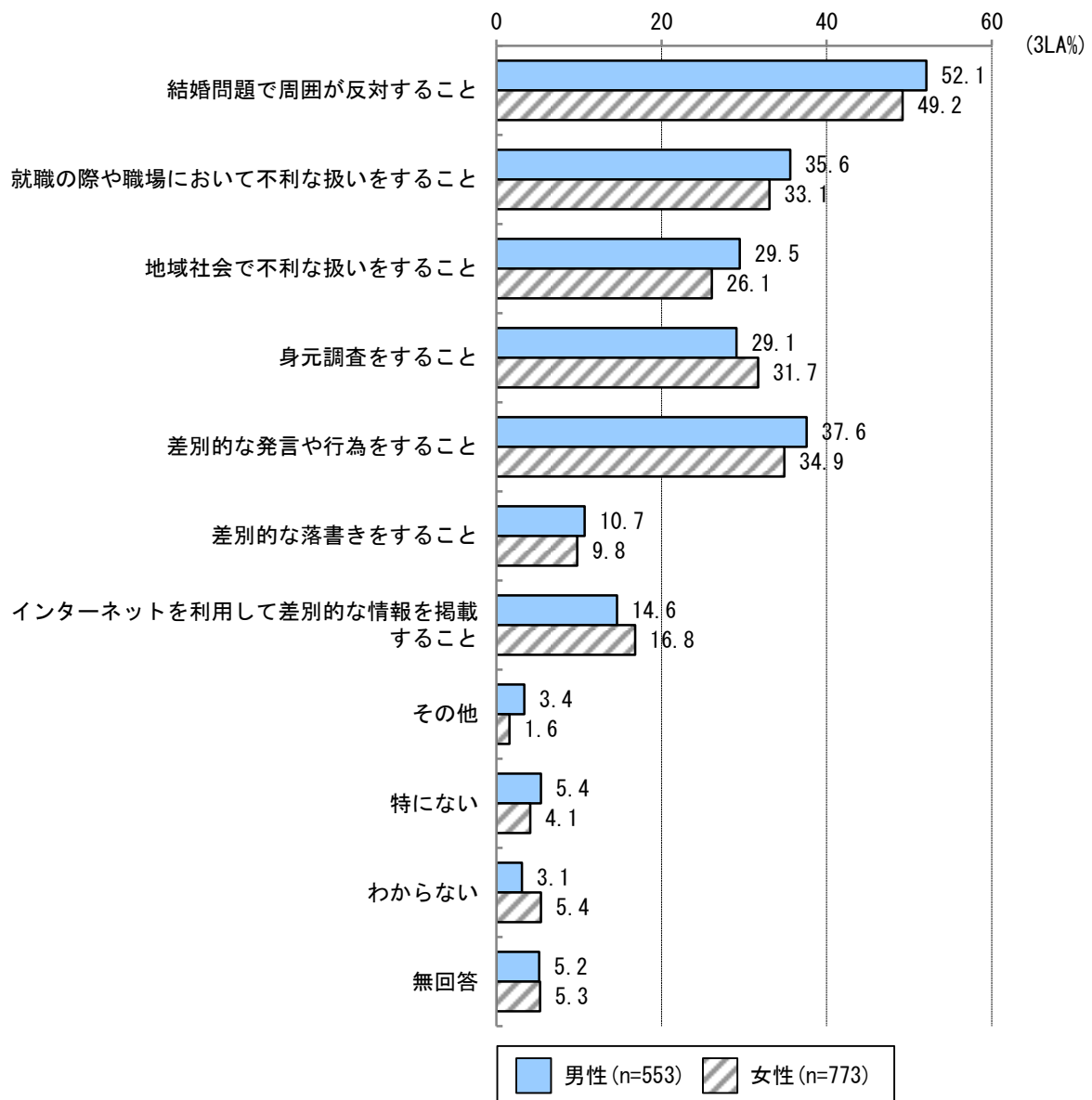


※回答制限数以上の回答もすべて有効としている。

同和問題で人権上特に問題があると思うことについて、「結婚問題で周囲が反対すること」が50.4%で最も多く、次いで「差別的な発言や行為をすること」が35.8%、「就職の際や職場において不利な扱いをすること」が34.0%と続いている。(図5-2)

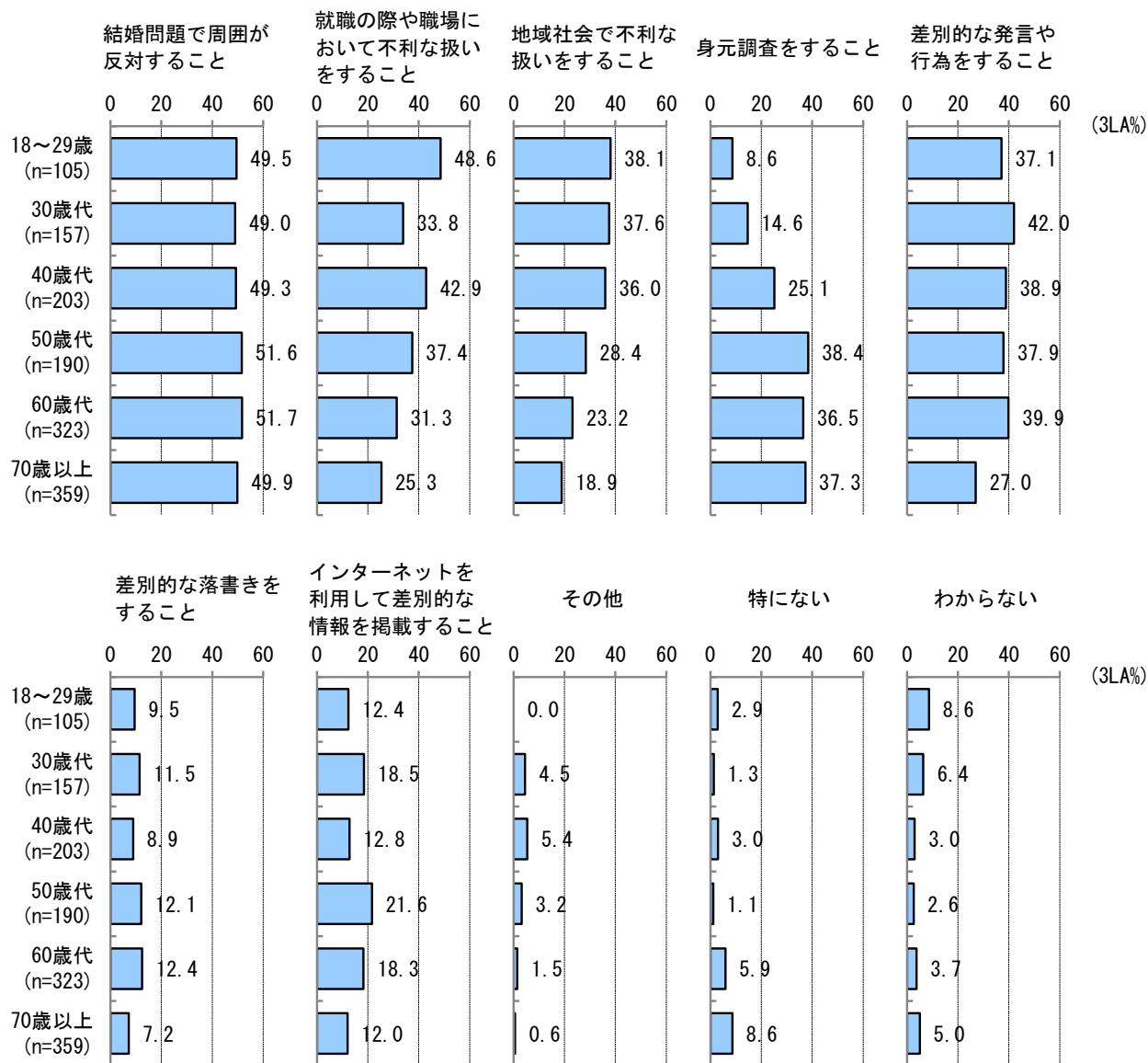
性別で見ると、「身元調査をすること」と「インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること」は女性のほうが高く、それら以外の項目は男性のほうが高くなっている。(図5-2-1)

【図5-2-1 性別 同和問題で人権上特に問題があると思うこと】



年代別でみると、「就職の際や職場において不利な扱いをすること」と「地域社会で不利な扱いをすること」は若い年代ほど高い傾向にある。「身元調査をすること」では、50歳以降になると4割弱に上昇している。(図5-2-2)

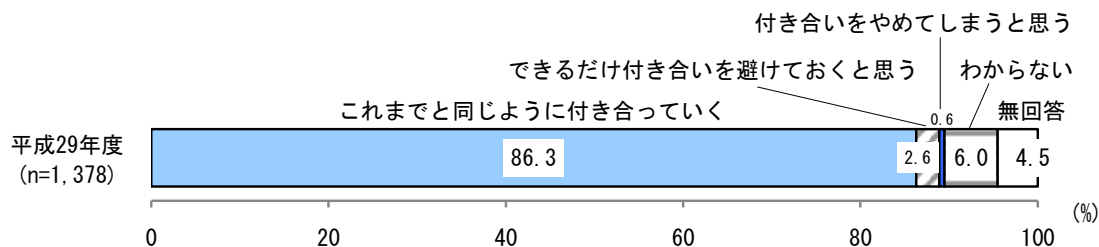
【図5-2-2 年代別 同和問題で人権上特に問題があると思うこと】



(3) 親交のある人が同和地区出身者だとわかった場合の対応

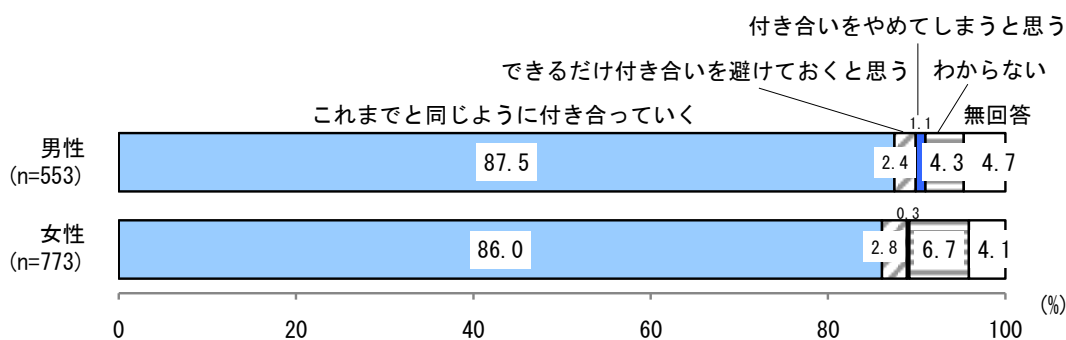
問12 仮にあなたが親しく付き合いしている人（職場の人や近所の人）が「同和地区」出身の人であるとわかった場合、どうだと思いますか。（○は1つ）

【図5-3 親交のある人が同和地区出身者だとわかった場合の対応】



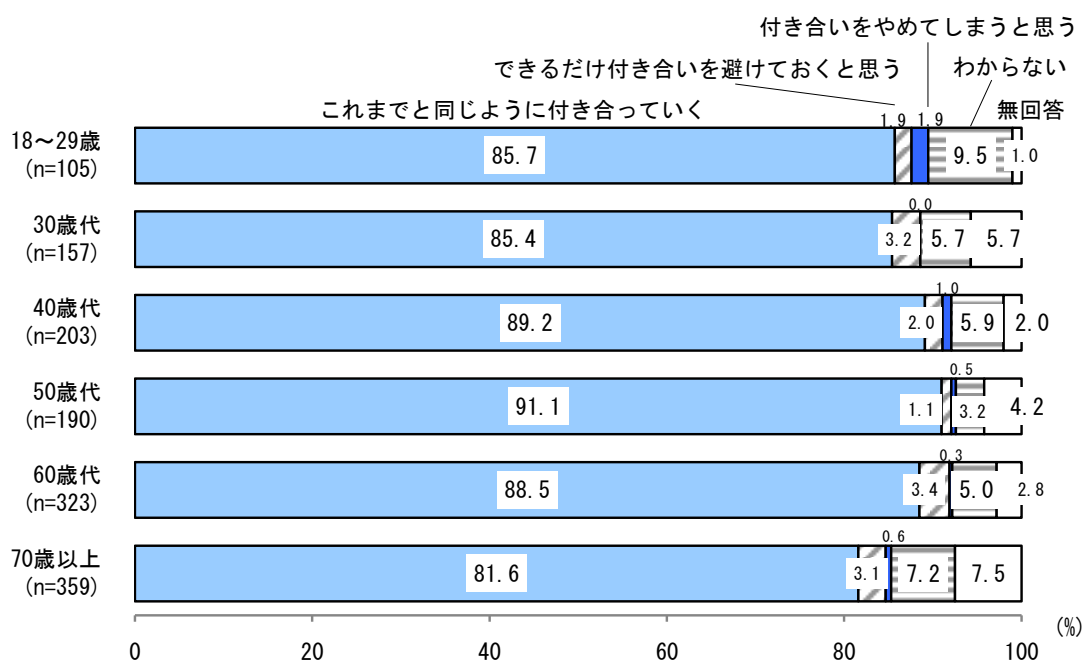
親交のある人が同和地区出身者だとわかった場合の対応として、「これまでと同じように付き合いしていく」が86.3%を占めており、次いで「わからない」が6.0%となっている。(図5-3) 性別でみると、男女に大きな差はみられない。(図5-3-1)

【図5-3-1 性別 親交のある人が同和地区出身者だとわかった場合の対応】



年代別でみると、年代にかかわらず「これまでと同じように付き合いしていく」が8～9割台を占めている。(図5-3-2)

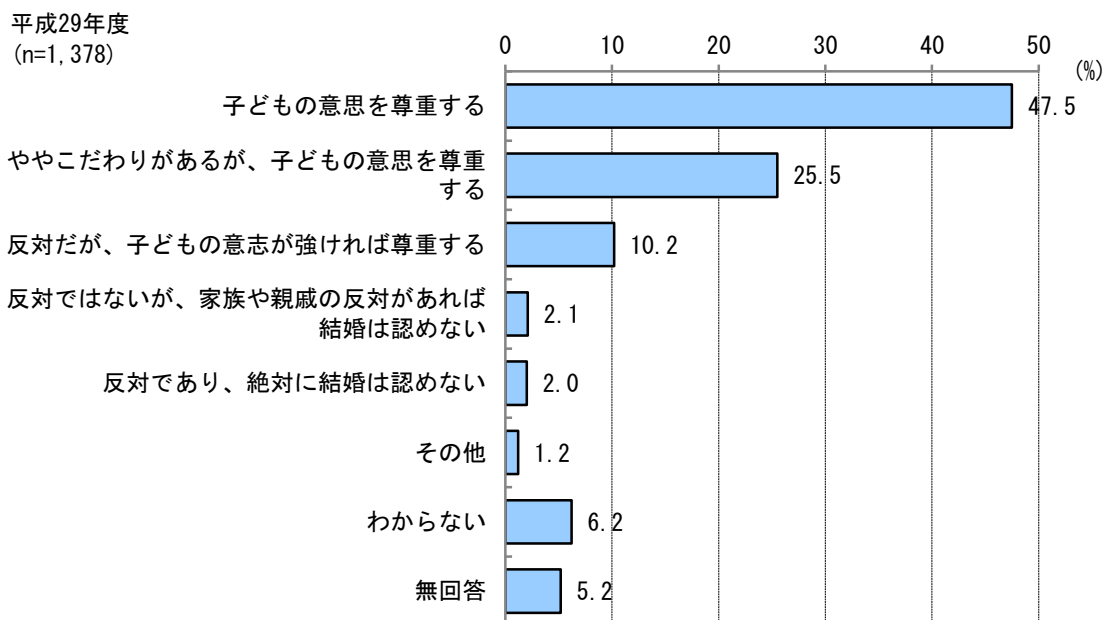
【図5-3-2 年代別 親交のある人が同和地区出身者だとわかった場合の対応】



(4) 自分の子どもの結婚相手が同和地区出身者だとわかった場合の対応

問13 あなたに未婚のお子さんがいるとして、そのお子さんの結婚相手が「同和地区」出身であるとわかった場合、あなたはどのように思いますか。最もお考えに近いものを選んでください。(○は1つ)

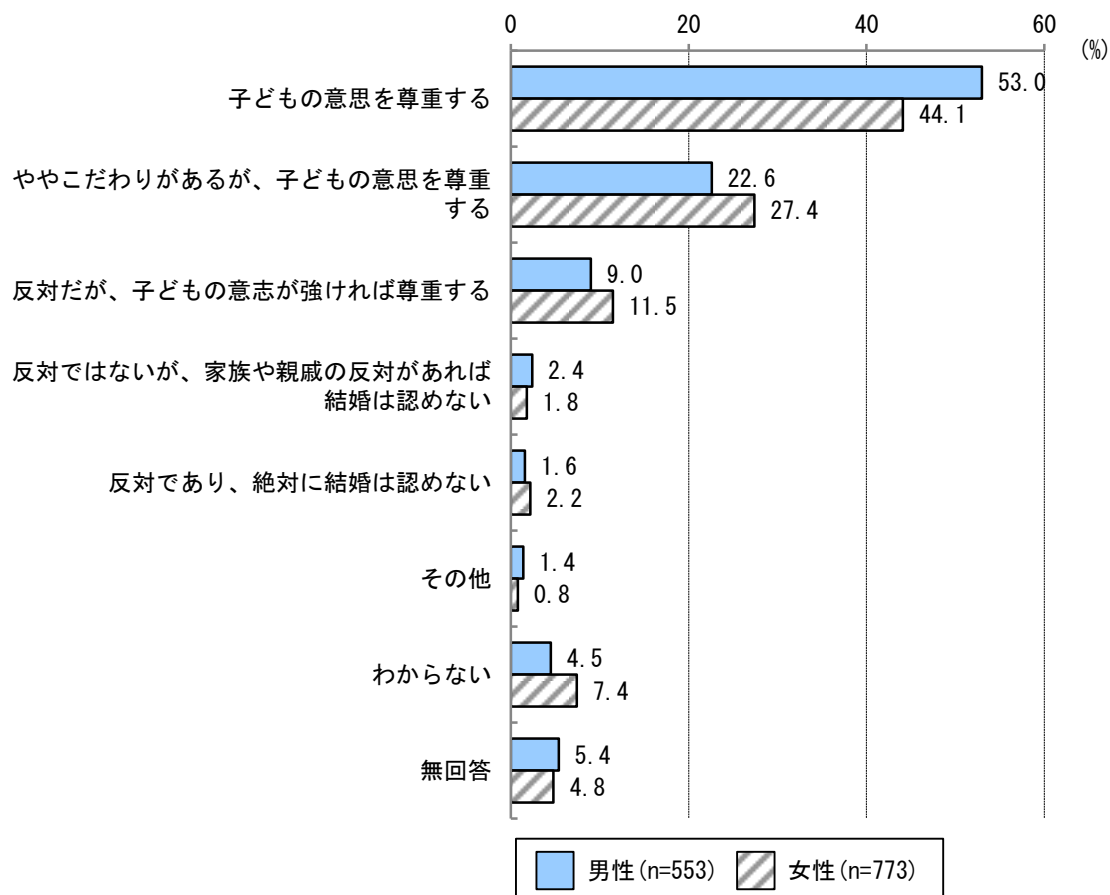
【図5-4 自分の子どもの結婚相手が同和地区出身者だとわかった場合の対応】



自分の子どもの結婚相手が同和地区出身者だとわかった場合の対応として、「子どもの意思を尊重する」が47.5%で最も多く、次いで「ややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」が25.5%、「反対だが、子どもの意志が強ければ尊重する」が10.2%となっている。一方の「反対であり、絶対に結婚は認めない」は2.0%となっている。(図5-4)

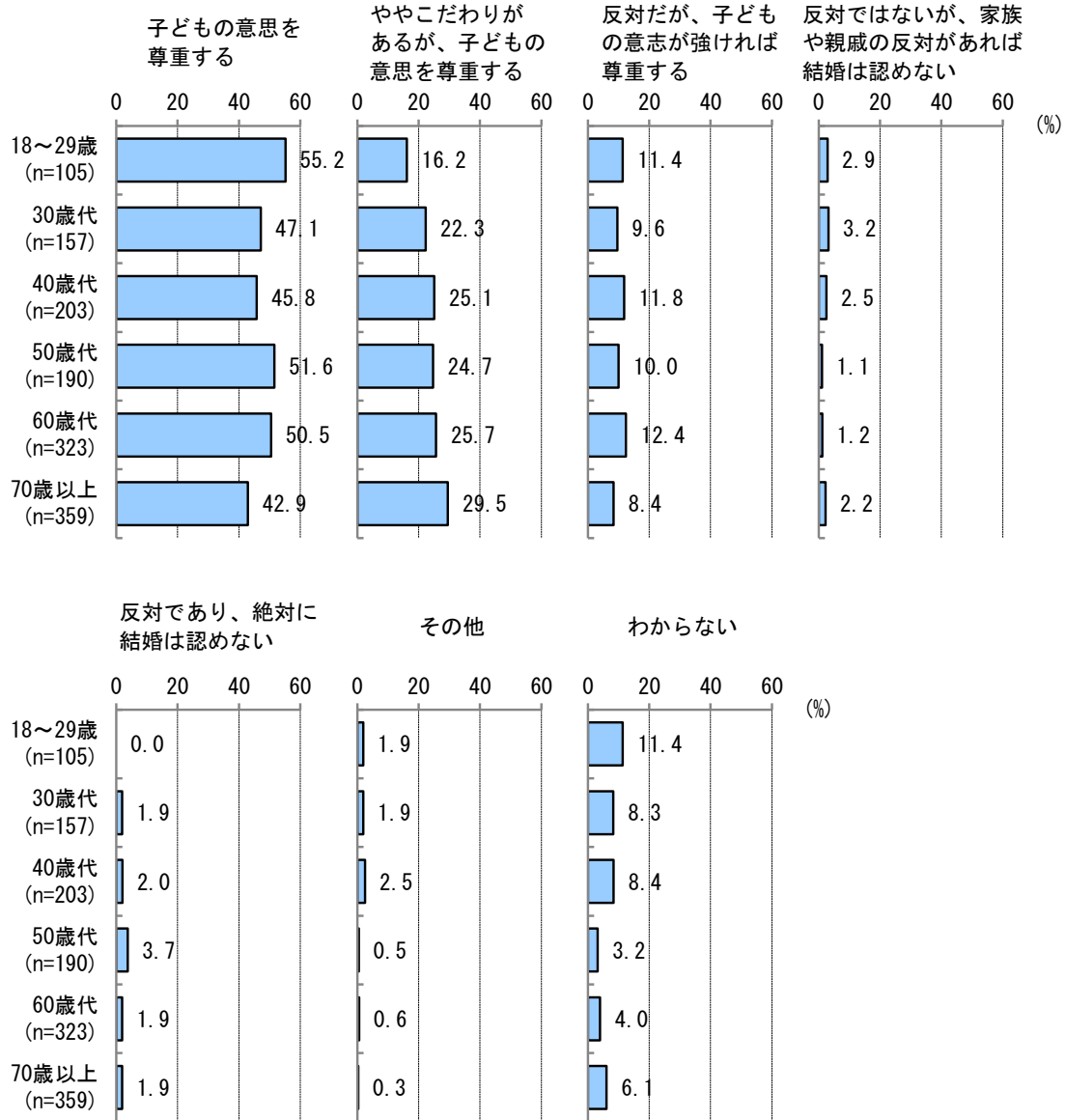
性別で見ると、男女とも「子どもの意思を尊重する」が最も多く、男性が53.0%、女性は44.1%で、男性のほうが8.9ポイント高くなっている。それに対し、「ややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」と「反対だが、子どもの意志が強ければ尊重する」は女性のほうが高くなっている。(図5-4-1)

【図5-4-1 性別 自分の子どもの結婚相手が同和地区出身者だとわかった場合の対応】



年代別でみると、年代にかかわらず「子どもの意思を尊重する」が4～5割台で最も多くなっている。「ややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」は、年代が上がるほど高くなっており、40～60歳代の各年代は25%前後、70歳以上になると29.5%となっている。(図5-4-2)

【図5-4-2 年代別 自分の子どもの結婚相手が同和地区出身者だとわかった場合の対応】

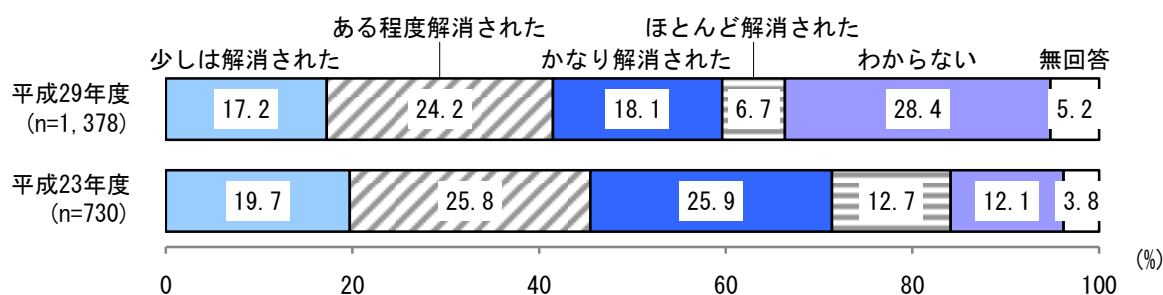


6. 同和問題の解決に向けた考え方について

(1) 部落差別の問題の解消度合

問14 部落差別は、これまでのいろいろな取り組みの中で、どれだけ解消されてきたと思いますか。(〇は1つ)

【図6-1 部落差別の問題の解消度合】

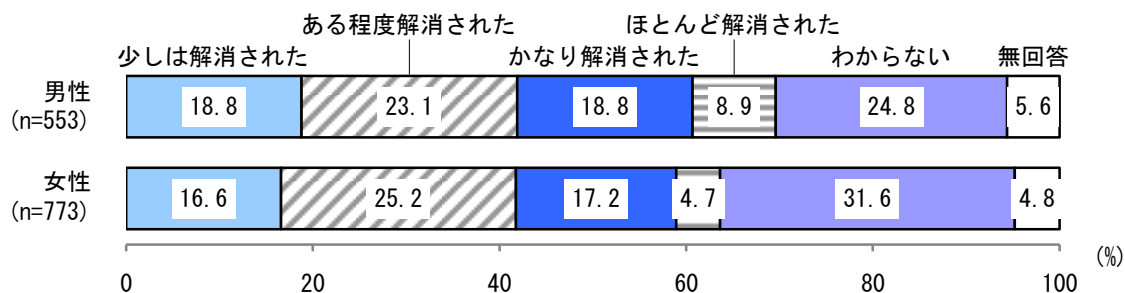


部落差別の問題の解消度合については、「わからない」が28.4%で最も多く、次いで「ある程度解消された」が24.2%、「かなり解消された」が18.1%となっている。

前回調査と比較すると、「かなり解消された」は7.8ポイント、「ほとんど解消された」は6.0ポイント低下しており、「わからない」が16.3ポイント高くなっている。(図6-1)

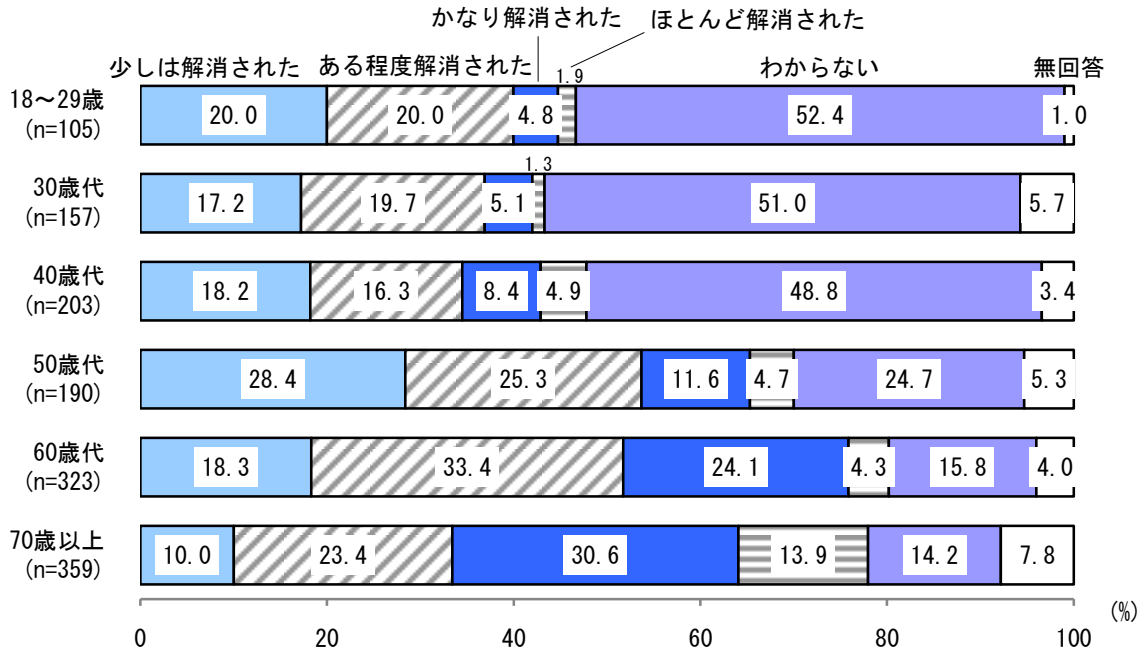
性別でみると、「少しは解消された」「ある程度解消された」「かなり解消された」は男女に大きな差はみられないが、男性は「ほとんど解消された」が女性より4.2ポイント高く、女性は「わからない」が男性より6.8ポイント高くなっている。(図6-1-1)

【図6-1-1 性別 部落差別の問題の解消度合】



年代別で見ると、18～40歳代の各年代は「わからない」が5割前後で最も多くなっている。なお、50歳代は「少しは解消された」(28.4%)、60歳代は「ある程度解消された」(33.4%)、70歳以上は「かなり解消された」(30.6%) が最も多く、年代が上がるほど解消度合が高くなる傾向がうかがえる。(図6-1-2)

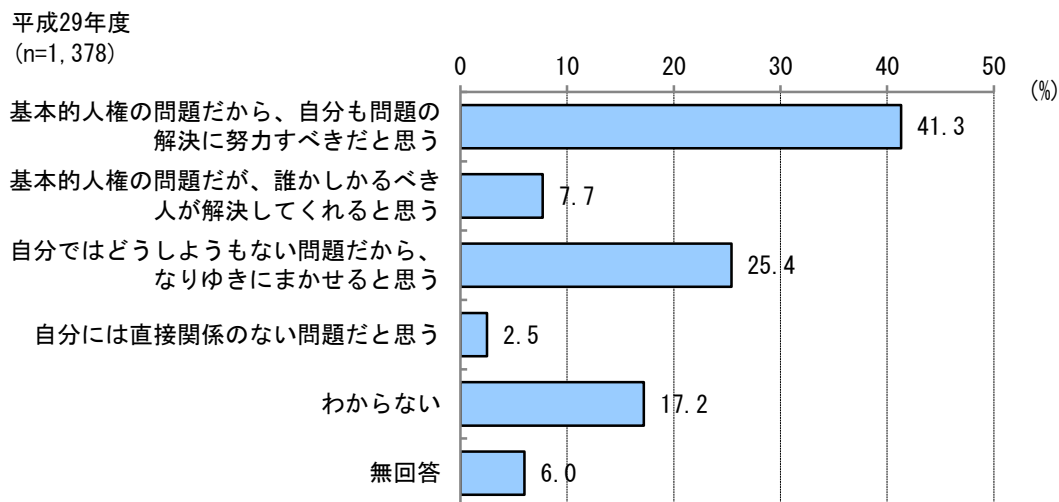
【図6-1-2 年代別 部落差別の問題の解消度合】



(2) 同和問題の解決に対する考え

問15 同和問題の解決について、あなたはどのように考えていますか。お考えに最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

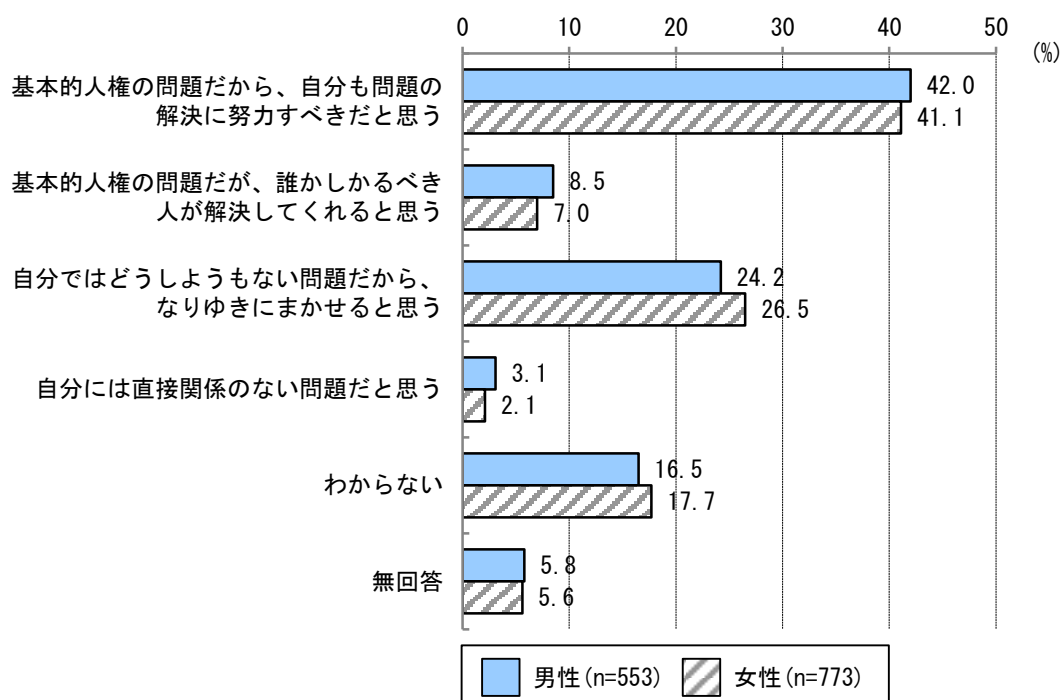
【図6-2 同和問題の解決に対する考え】



同和問題の解決に対する考えについて、「基本的人権の問題だから、自分も問題の解決に努力すべきだと思う」が41.3%で最も多く、次いで「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせると思う」が25.4%、「わからない」が17.2%となっている。(図6-2)

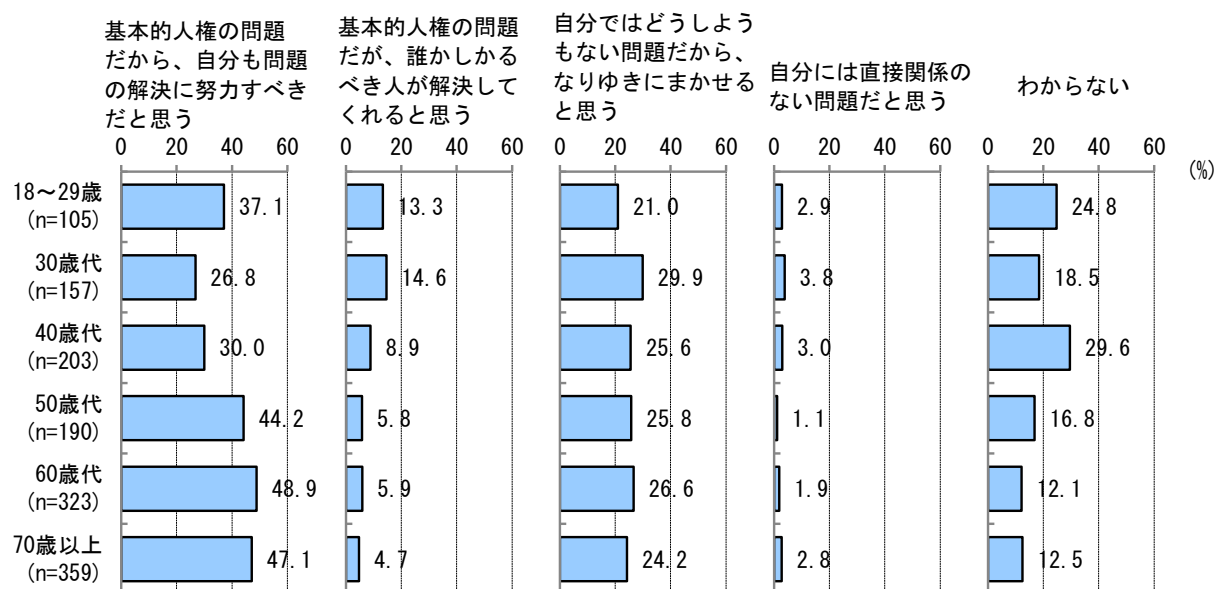
性別でみると、男女に大きな差はみられないが、「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせると思う」は女性のほうが2.3ポイント高くなっている。(図6-2-1)

【図6-2-1 性別 同和問題の解決に対する考え】



年代別でみると、30歳代を除く各年代は「基本的人権の問題だから、自分も問題の解決に努力すべきだと思う」が最も多く、50歳以降の各年代では4割台と高くなっている。30歳代は「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせると思う」が29.9%で最も多く、また、18～29歳と40歳代は「わからない」が他の年代に比べ高くなっている。(図6-2-2)

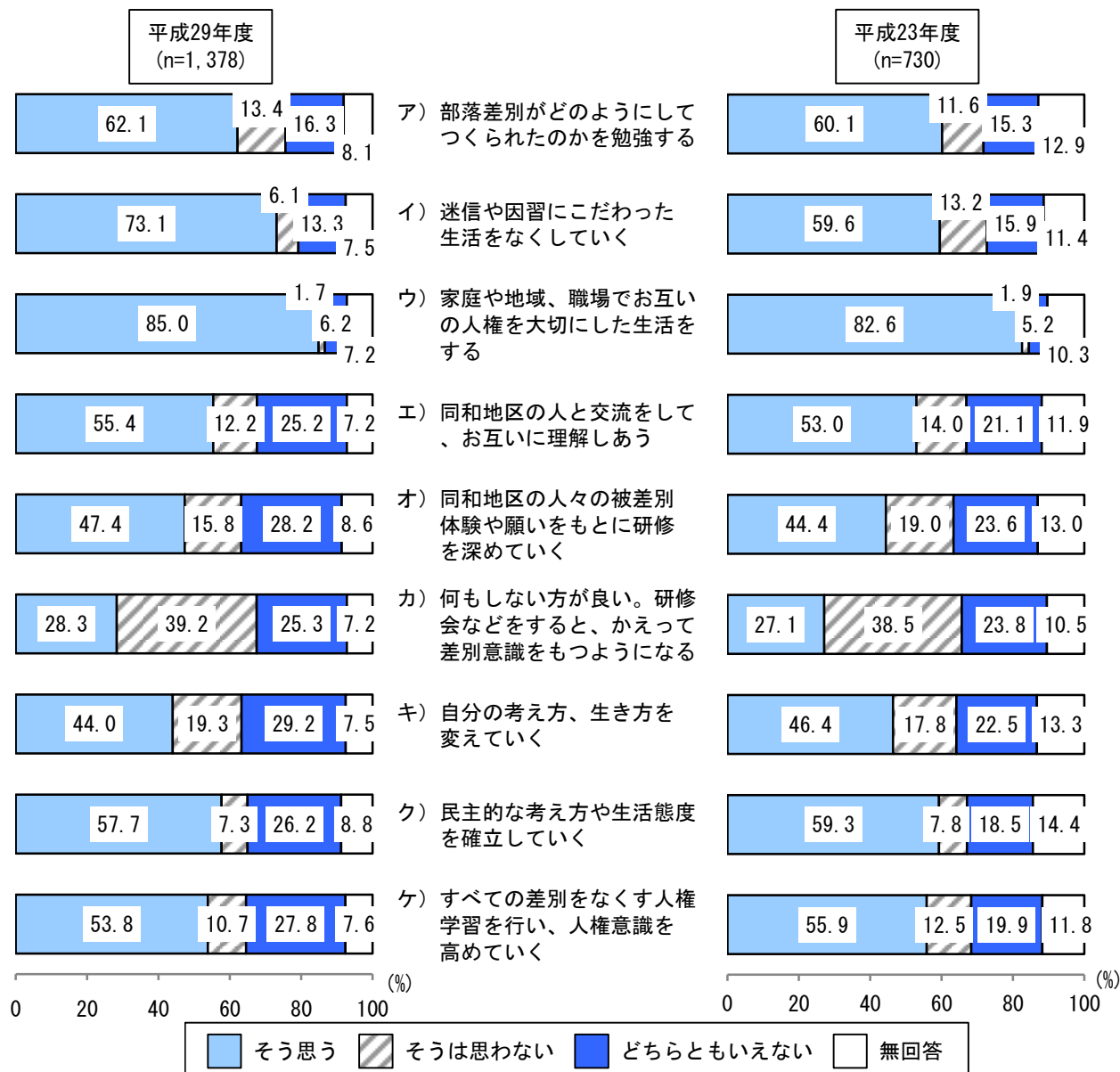
【図6-2-2 年代別 同和問題の解決に対する考え】



(3) 同和問題を解決していくために大切なこと

問16 同和問題を解決していくためには何が大切だと思いますか。ア～ケのそれぞれについて選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

【図6-3 同和問題を解決していくために大切なこと】

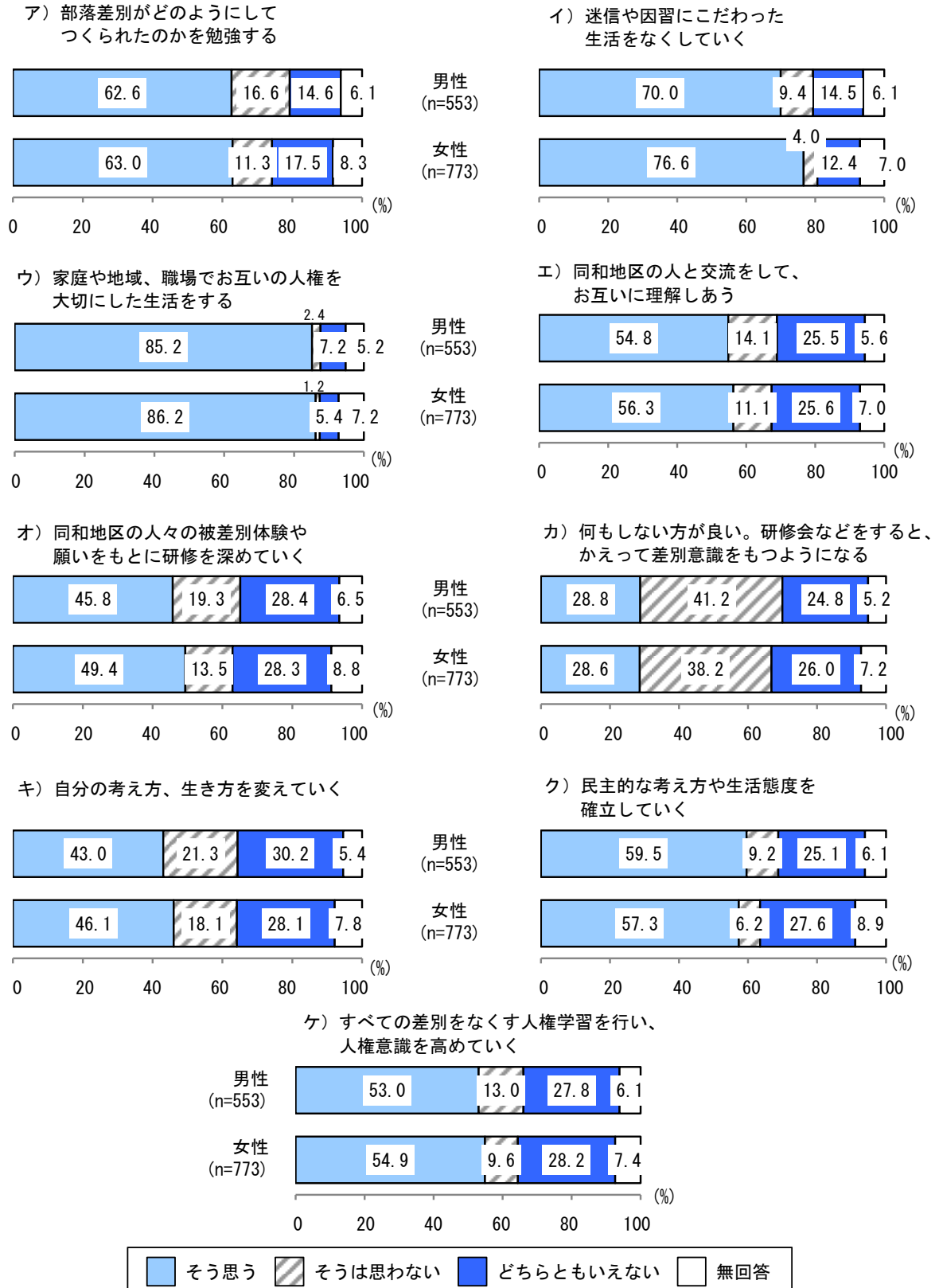


同和問題を解決していくために大切なことについて、“カ) 何もしない方がよい。研修会などをすると、かえって差別意識をもつようになる”は「そうは思わない」が最も多い。それ以外の項目では「そう思う」が最も多く、なかでも“ウ) 家庭や地域、職場でお互いの人権を大切に生活をする”は85.0%、“イ) 迷信や因習にこだわった生活をなくしていく”は73.1%、“ア) 部落差別がどのようにしてつくられたのかを勉強する”は62.1%と高くなっている。

前回調査と比較すると、“イ) 迷信や因習にこだわった生活をなくしていく”について「そう思う」が13.5ポイント高くなっているが、それ以外の項目では大きな変化はみられない。(図6-3)

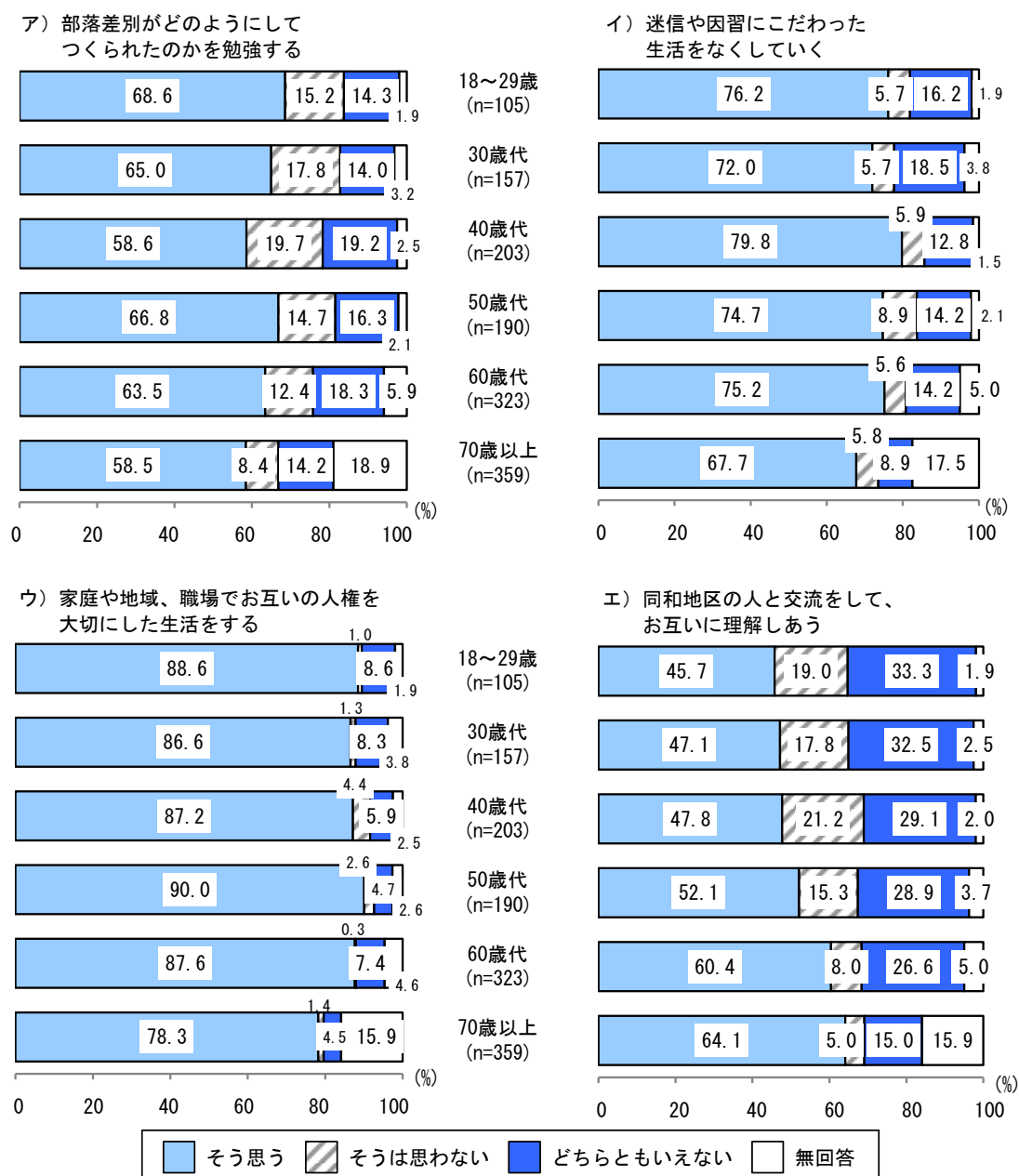
性別で見ると、女性は、「イ）迷信や因習にこだわった生活をなくしていく」について「そう思う」が6.6ポイント、「オ）同和地区の人々の被差別体験や願いをもとに研修を深めていく」について「そう思う」が3.6ポイント、男性に比べ高くなっている。また、「カ）何もしない方が良い。研修会などをすると、かえって差別意識をもつようになる」について「そうは思わない」は男性のほうが3.0ポイント高くなっている。（図6-3-1）

【図6-3-1 性別 同和問題を解決していくために大切なこと】



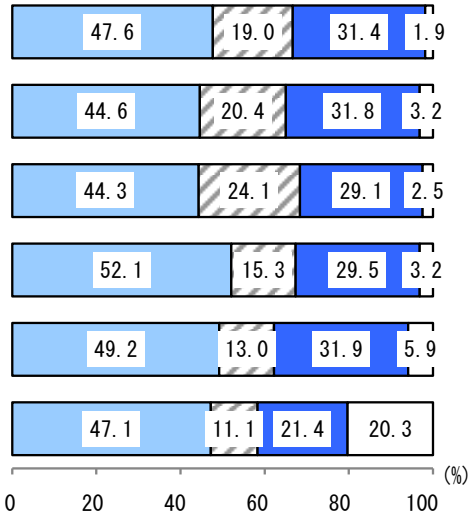
年代別でみると、“ア) 部落差別がどのようにしてつくられたのかを勉強する”や“エ) 同和地区の人と交流をして、お互いに理解しあう”、“オ) 同和地区の人々の被差別体験や願いをもとに研修を深めていく”について、「そうは思わない」が18～40歳代の各年代で2割前後となっており、50歳以降の各割合に比べて高くなっている。また、“カ) 何もしない方がよい。研修会などをすると、かえって差別意識をもつようになる”について「そう思う」が、30歳代と40歳代で4割前後と他の年代に比べ高くなっている。(図6-3-2)

【図6-3-2 年代別 同和問題を解決していくために大切なこと①】

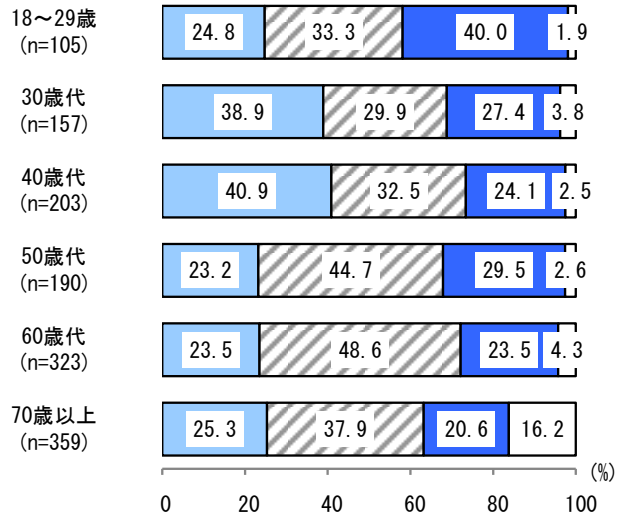


【図6-3-2 年代別 同和問題を解決していくために大切なこと②】

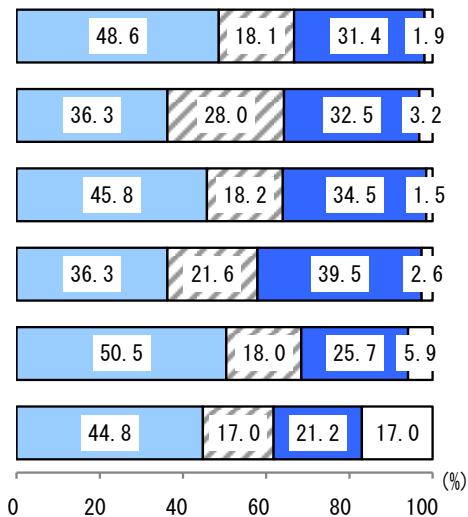
オ) 同和地区の人々の被差別体験や願いをもとに研修を深めていく



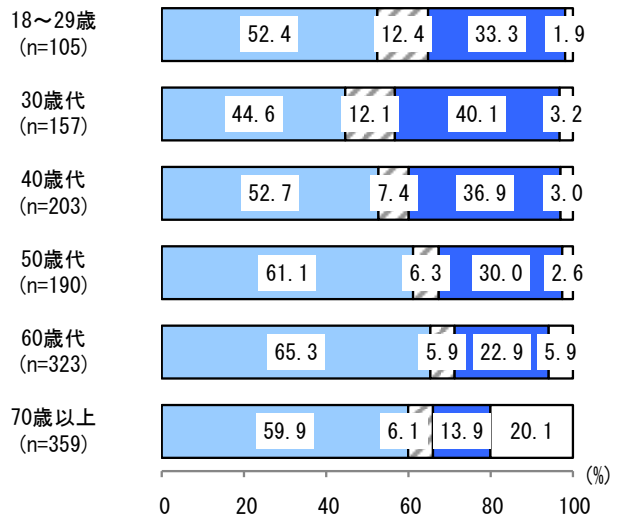
カ) 何もしない方が良い。研修会などをすると、かえって差別意識をもつようになる



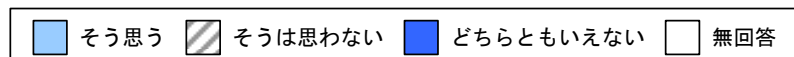
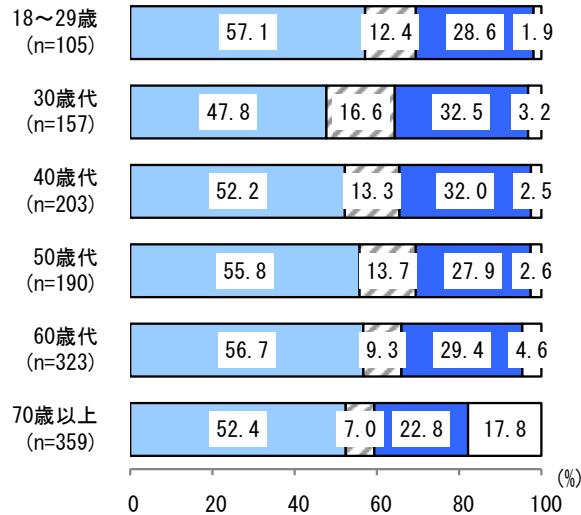
キ) 自分の考え方、生き方を変えていく



ク) 民主的な考え方や生活態度を確立していく



ケ) すべての差別をなくす人権学習を行い、人権意識を高めていく

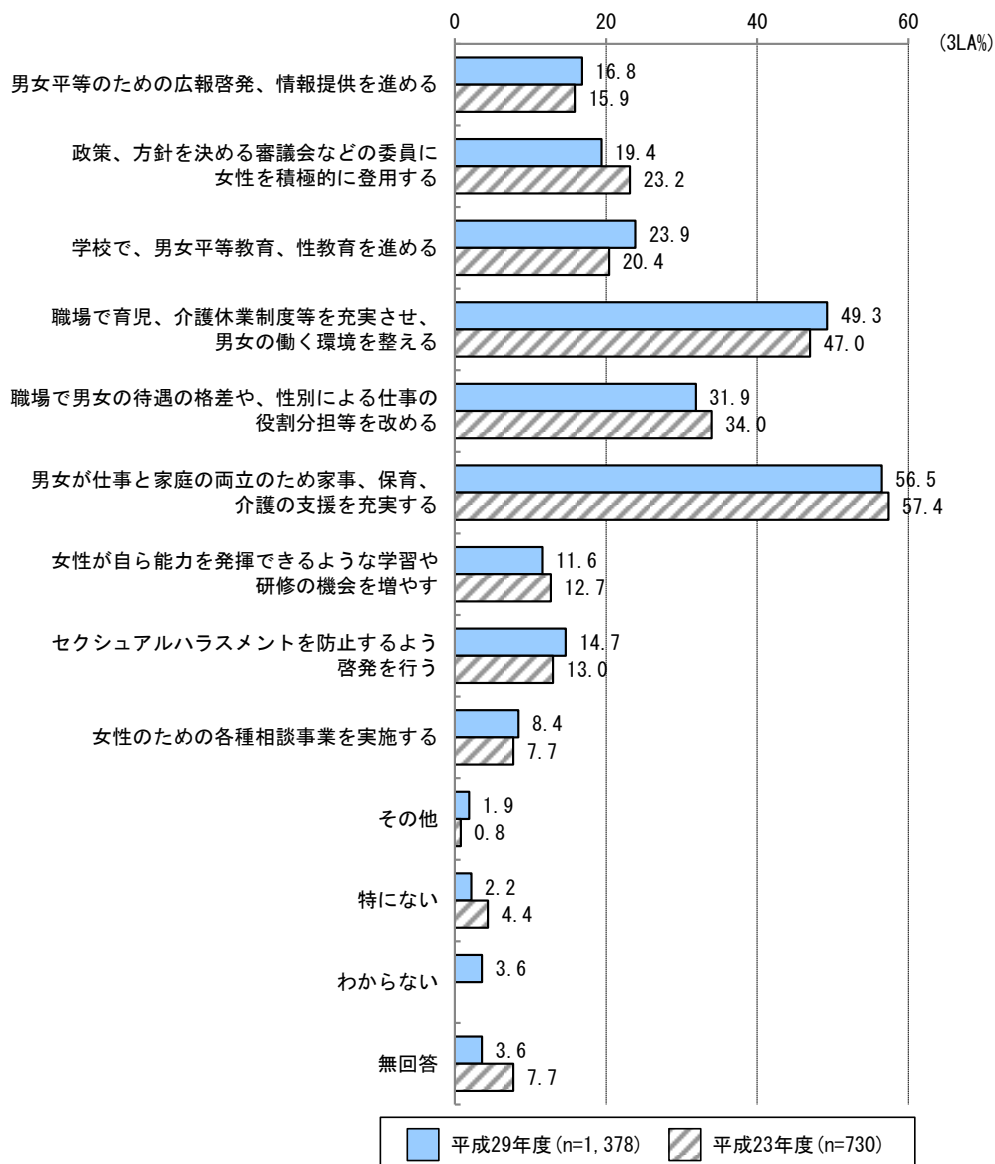


7. さまざまな人権問題について

(1) 女性の人権が尊重されるために必要なこと

問17 女性の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図7-1 女性の人権が尊重されるために必要なこと】



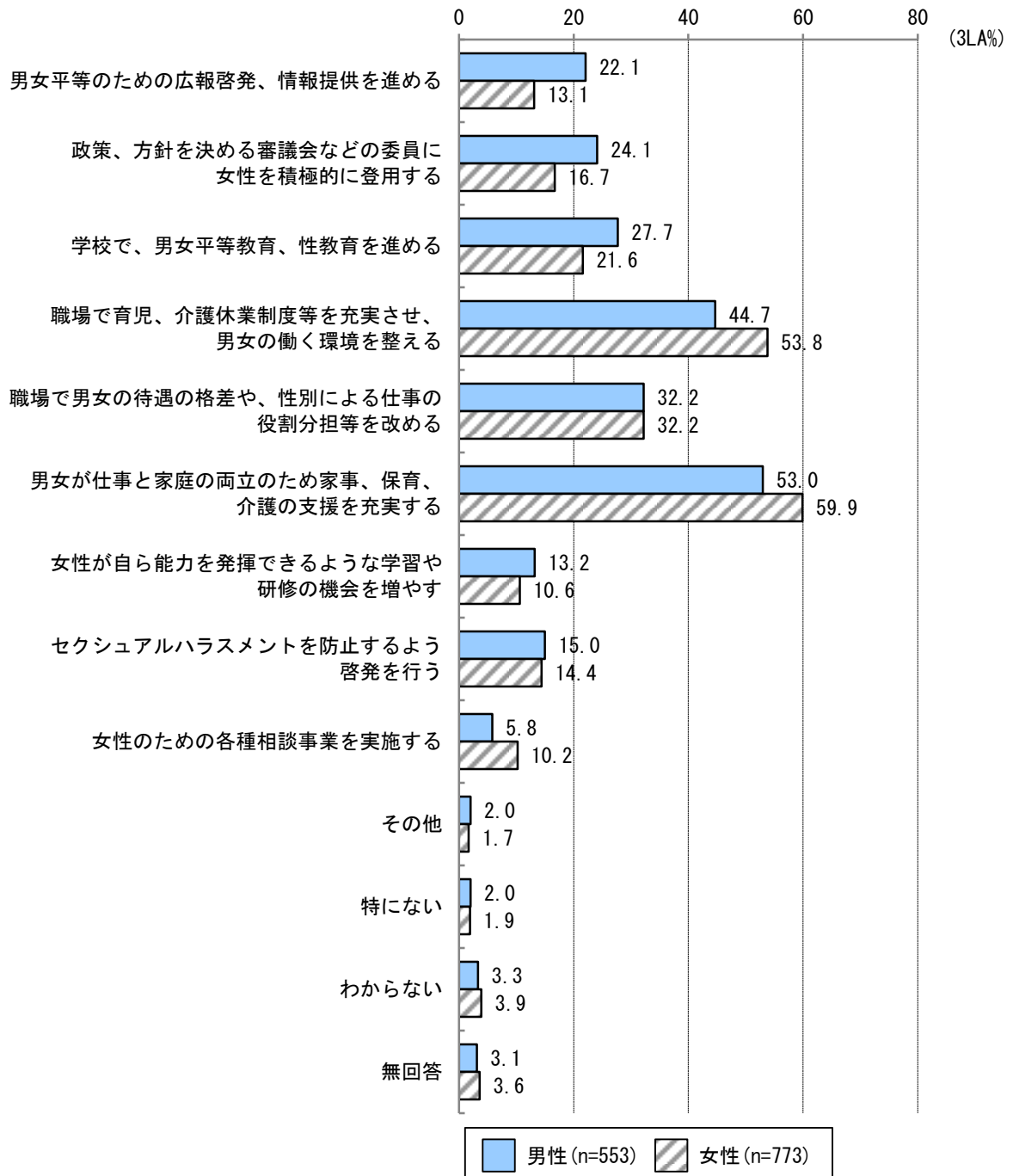
※今回調査では、回答制限数以上の回答もすべて有効としている。

女性の人権が尊重されるために必要なことは、「男女が仕事と家庭の両立のため家事、保育、介護の支援を充実する」が56.5%で最も多く、次いで「職場で育児、介護休業制度等を充実させ、男女の働く環境を整える」が49.3%、「職場で男女の待遇の格差や、性別による仕事の役割分担等を改める」が31.9%と続いている。

前回調査と比較すると、「政策、方針を決める審議会などの委員に女性を積極的に登用する」は3.8ポイント低下し、「学校で、男女平等教育、性教育を進める」が3.5ポイント高くなっている。(図7-1)

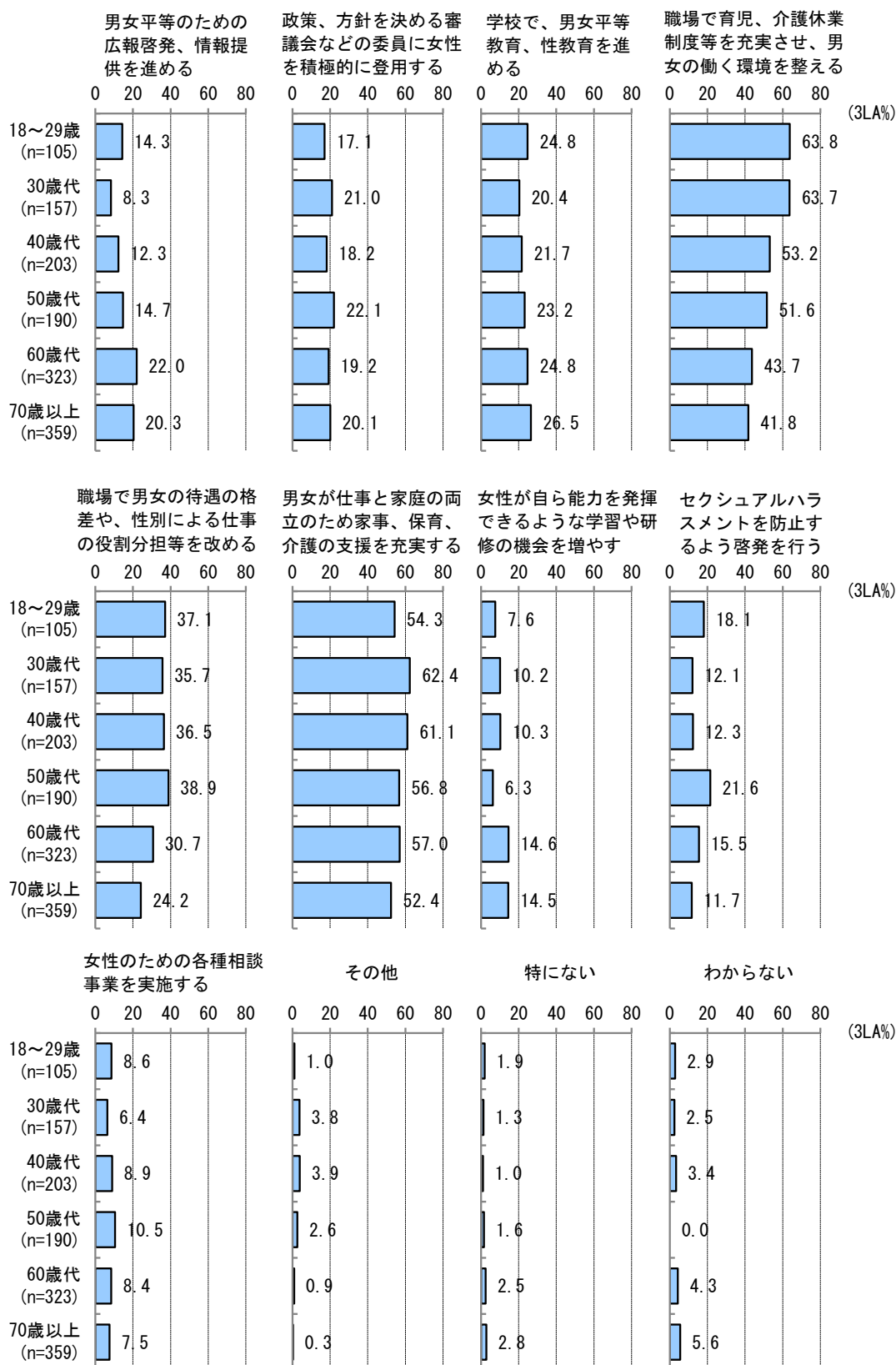
性別で見ると、女性は「職場で育児、介護休業制度等を充実させ、男女の働く環境を整える」で9.1ポイント、「男女が仕事と家庭の両立のため家事、保育、介護の支援を充実する」で6.9ポイント、男性に比べ高くなっており、仕事と家庭の両立に関して女性のほうが高い割合になっている。一方、男性は「男女平等のための広報啓発、情報提供を進める」や「政策、方針を決める審議会などの委員に女性を積極的に登用する」、「学校で、男女平等教育、性教育を進める」が女性より5ポイント以上高くなっている。(図7-1-1)

【図7-1-1 性別 女性の人権が尊重されるために必要なこと】



年代別でみると、若い年代ほど「職場で育児、介護休業制度等を充実させ、男女の働く環境を整える」が高くなっており、特に18～29歳と30歳代は63%台と高くなっている。なお、「男女が仕事と家庭の両立のため家事、保育、介護の支援を充実する」も若い年代ほど高い傾向にあるが、30歳代が62.4%で最も高く、18～29歳は54.3%と下がっている。(図7-1-2)

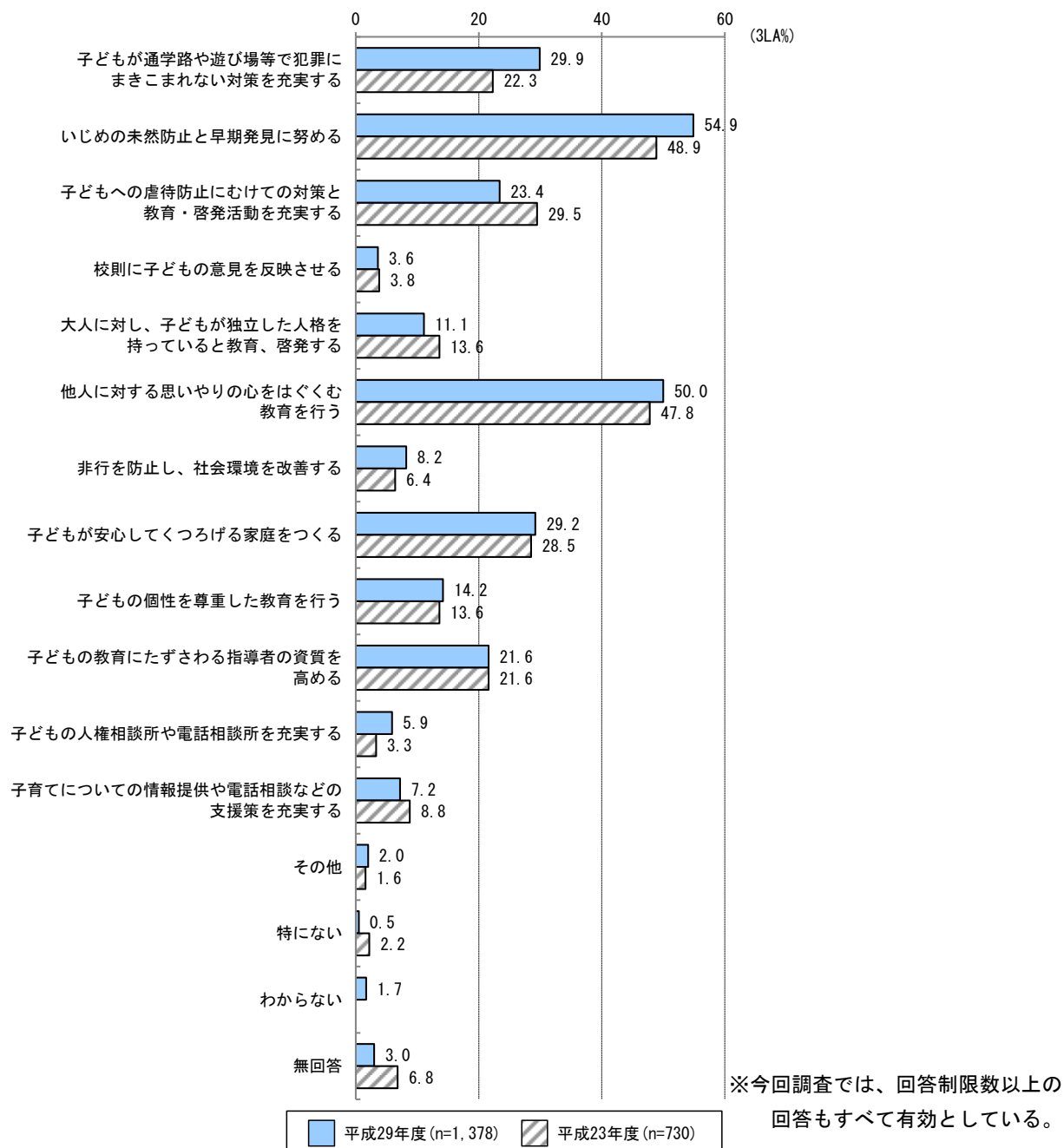
【図7-1-2 年代別 女性の人権が尊重されるために必要なこと】



(2) 子どもの人権が尊重されるために必要なこと

問18 子どもの人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

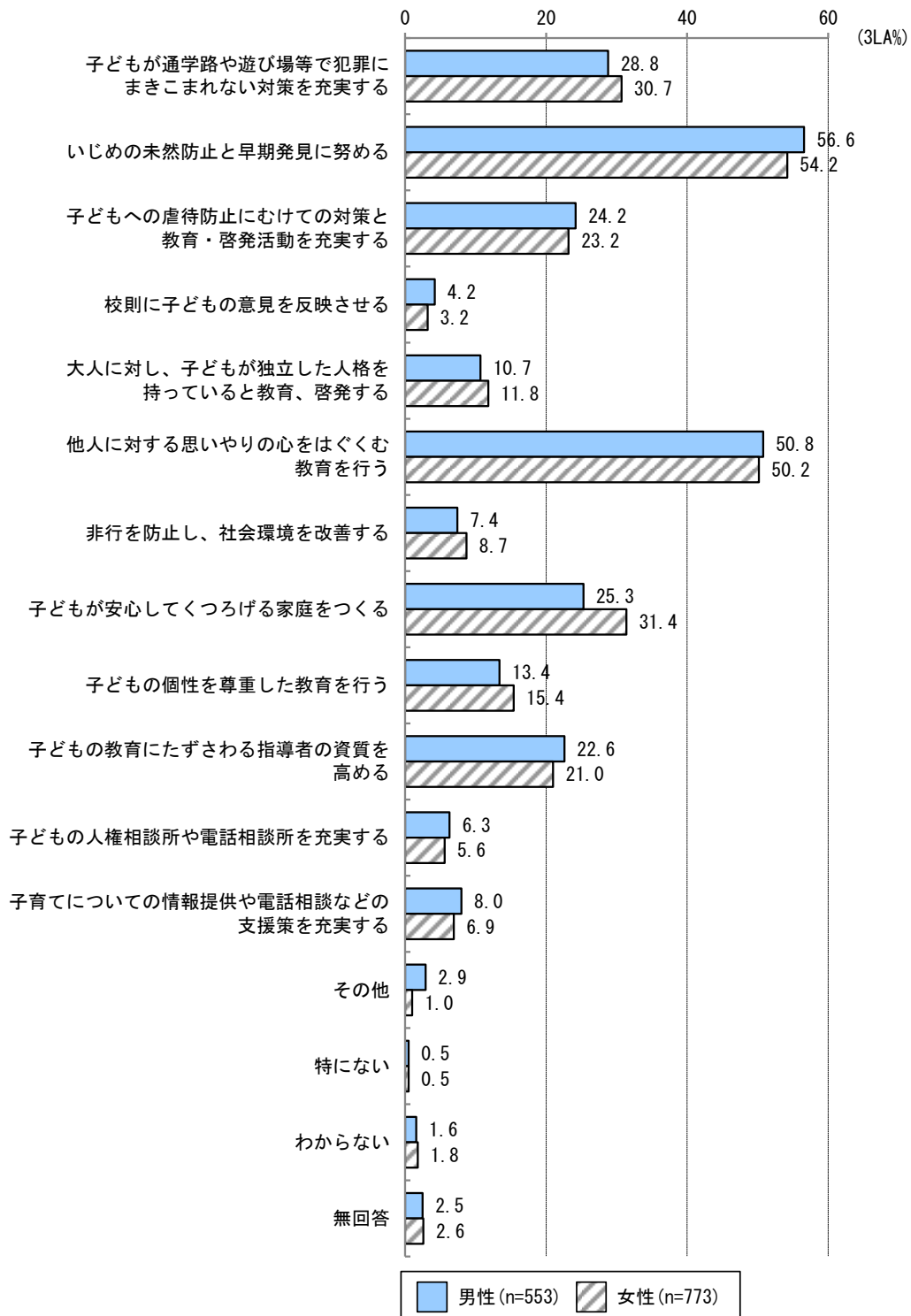
【図7-2 子どもの人権が尊重されるために必要なこと】



子どもの人権が尊重されるために必要なことは、「いじめの未然防止と早期発見に努める」が54.9%で最も多く、次いで「他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う」が50.0%、「子どもが通学路や遊び場等で犯罪にまきこまれない対策を充実する」が29.9%と続いている。前回調査と比較すると、「子どもが通学路や遊び場等で犯罪にまきこまれない対策を充実する」が7.6ポイント、「いじめの未然防止と早期発見に努める」が6.0ポイント高くなっており、「子どもへの虐待防止にむけての対策と教育・啓発活動を充実する」は6.1ポイント低下している。(図7-2)

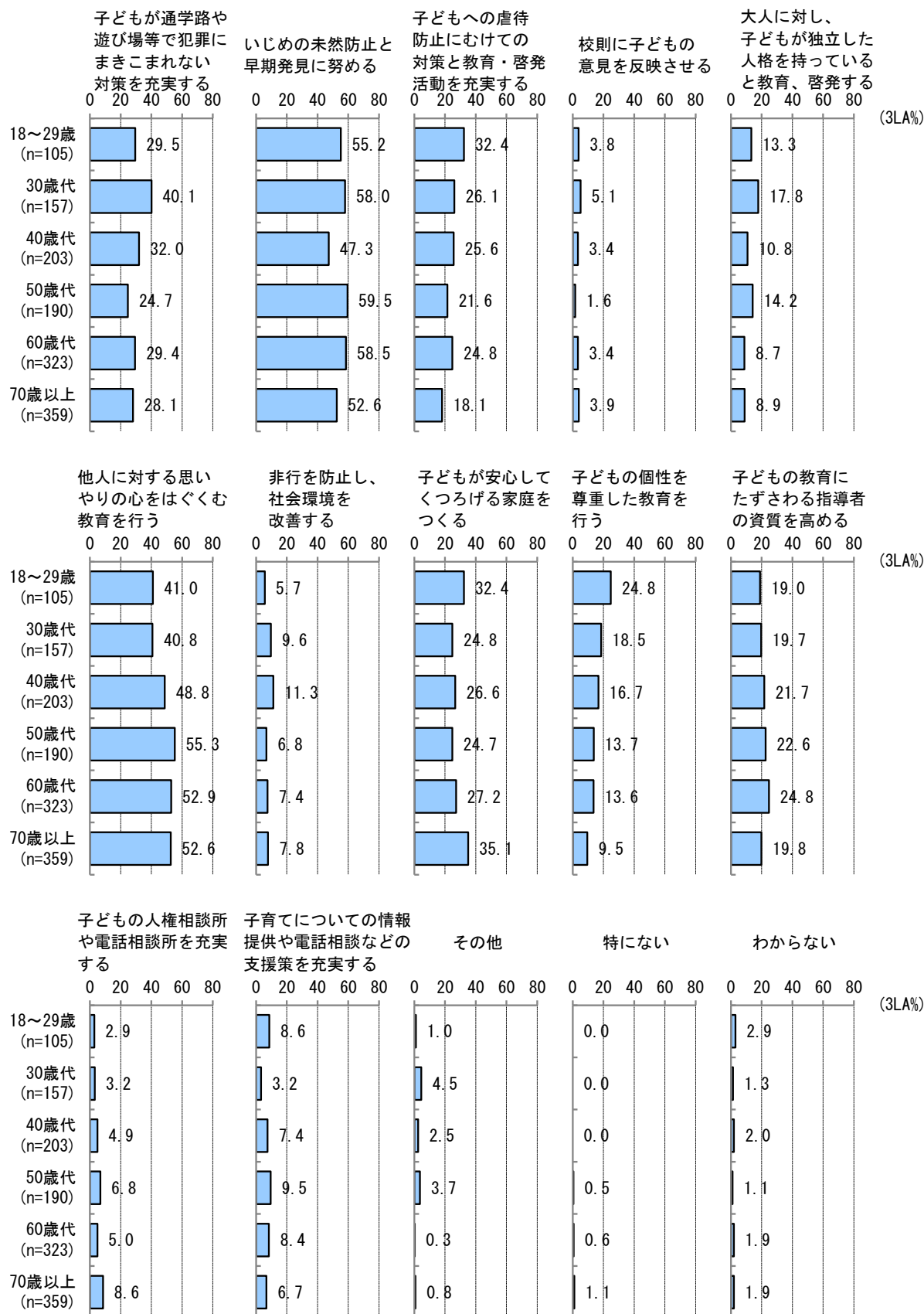
性別で見ると、男女とも「いじめの未然防止と早期発見に努める」が最も多く、次いで「他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う」となっており、両項目とも5割台と高くなっている。これに続いて、男性は「子どもが通学路や遊び場等で犯罪にまきこまれない対策を充実する」で28.8%となっており、女性は「子どもが安心してくつろげる家庭をつくる」が31.4%で男性より6.1ポイント高くなっている。(図7-2-1)

【図7-2-1 性別 子どもの人権が尊重されるために必要なこと】



年代別でみると、「子どもへの虐待防止にむけての対策と教育・啓発活動を充実する」と「子どもの個性を尊重した教育を行う」は若い年代ほど高い傾向がみられる。また、「他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う」は50歳以降になると5割台に上昇している。(図7-2-2)

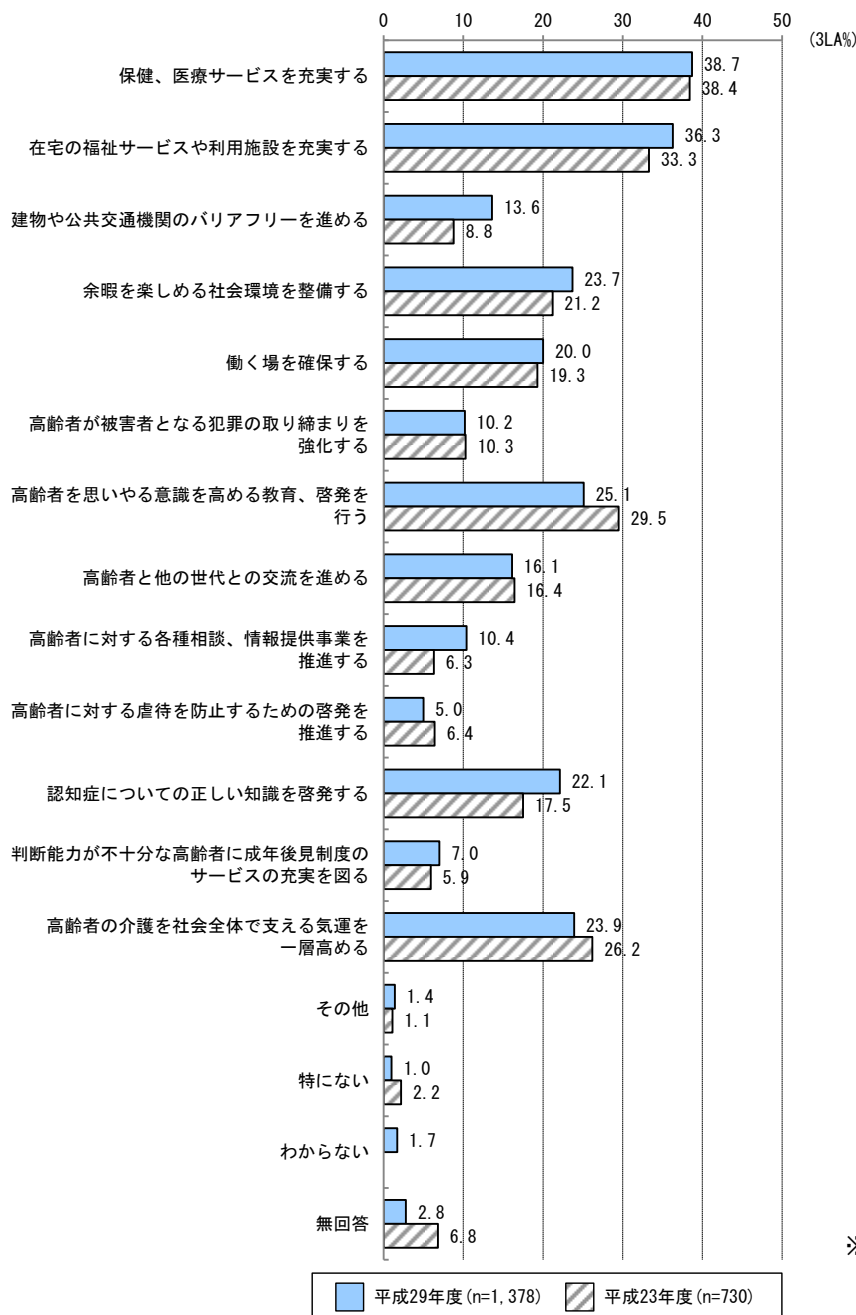
【図7-2-2 年代別 子どもの人権が尊重されるために必要なこと】



(3) 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと

問19 高齢者の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図7-3 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと】

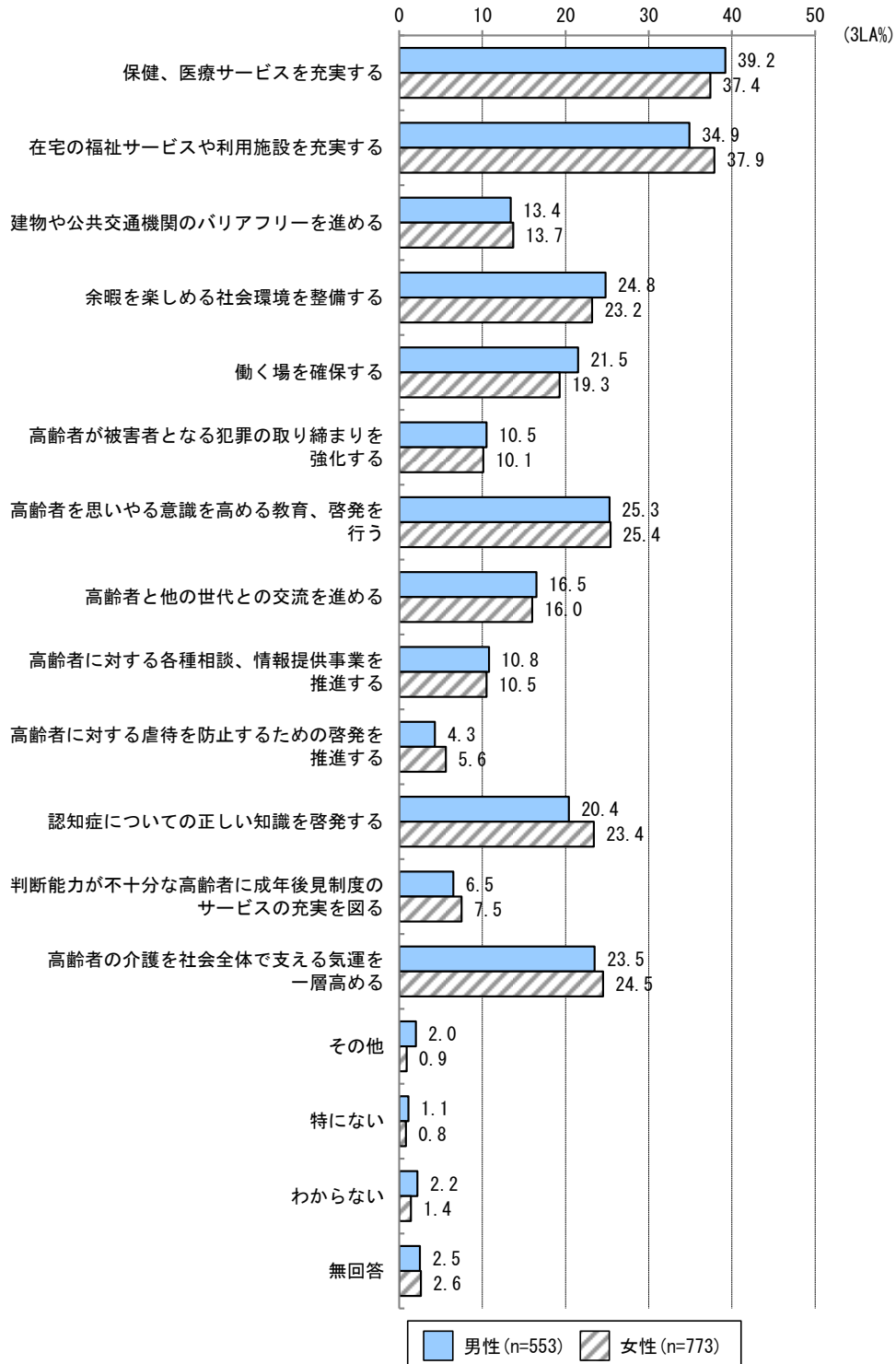


高齢者の人権が尊重されるために必要なことは、「保健、医療サービスを充実する」が38.7%で最も多く、次いで「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」が36.3%、「高齢者を思いやる意識を高める教育、啓発を行う」が25.1%と続いている。

前回調査と比較すると、「高齢者を思いやる意識を高める教育、啓発を行う」は4.4ポイント低下している。一方、「建物や公共交通機関のバリアフリーを進める」や「高齢者に対する各種相談、情報提供事業を推進する」、「認知症についての正しい知識を啓発する」が4ポイント台で高くなっている。(図7-3)

性別でみると、男女に大きな差はみられないが、「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」と「認知症についての正しい知識を啓発する」は、どちらも女性のほうが3.0ポイント高くなっている。(図7-3-1)

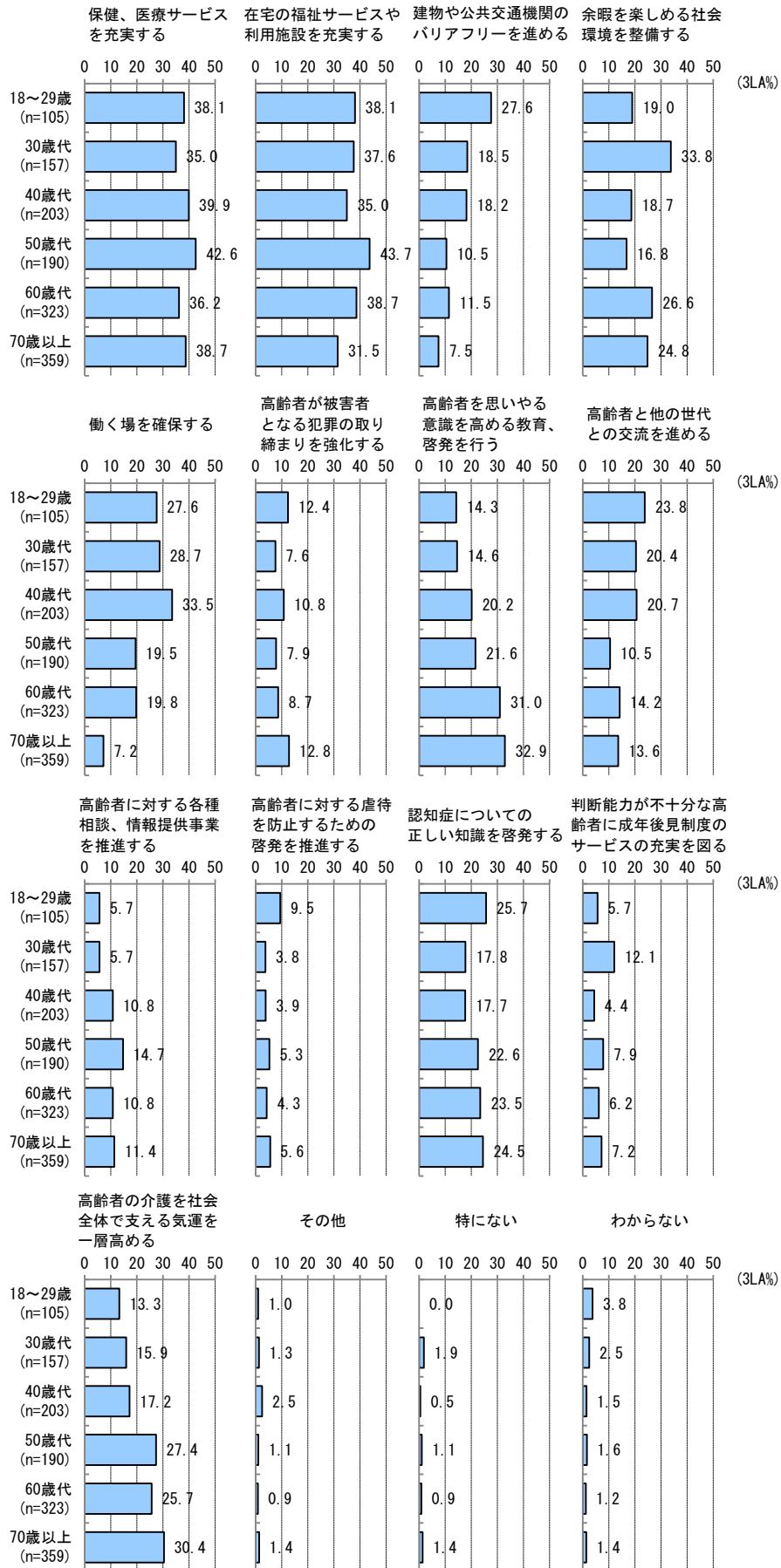
【図7-3-1 性別 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと】



年代別でみると、「建物や公共交通機関のバリアフリーを進める」や「働く場を確保する」、「高齢者和其他の世代との交流を進める」は若い年代で高く、50歳以降になると低下している。

一方、50歳以降になると「高齢者の介護を社会全体で支える気運を一層高める」、60歳以降になると「高齢者を思いやる意識を高める教育、啓発を行う」が上昇している。(図7-3-2)

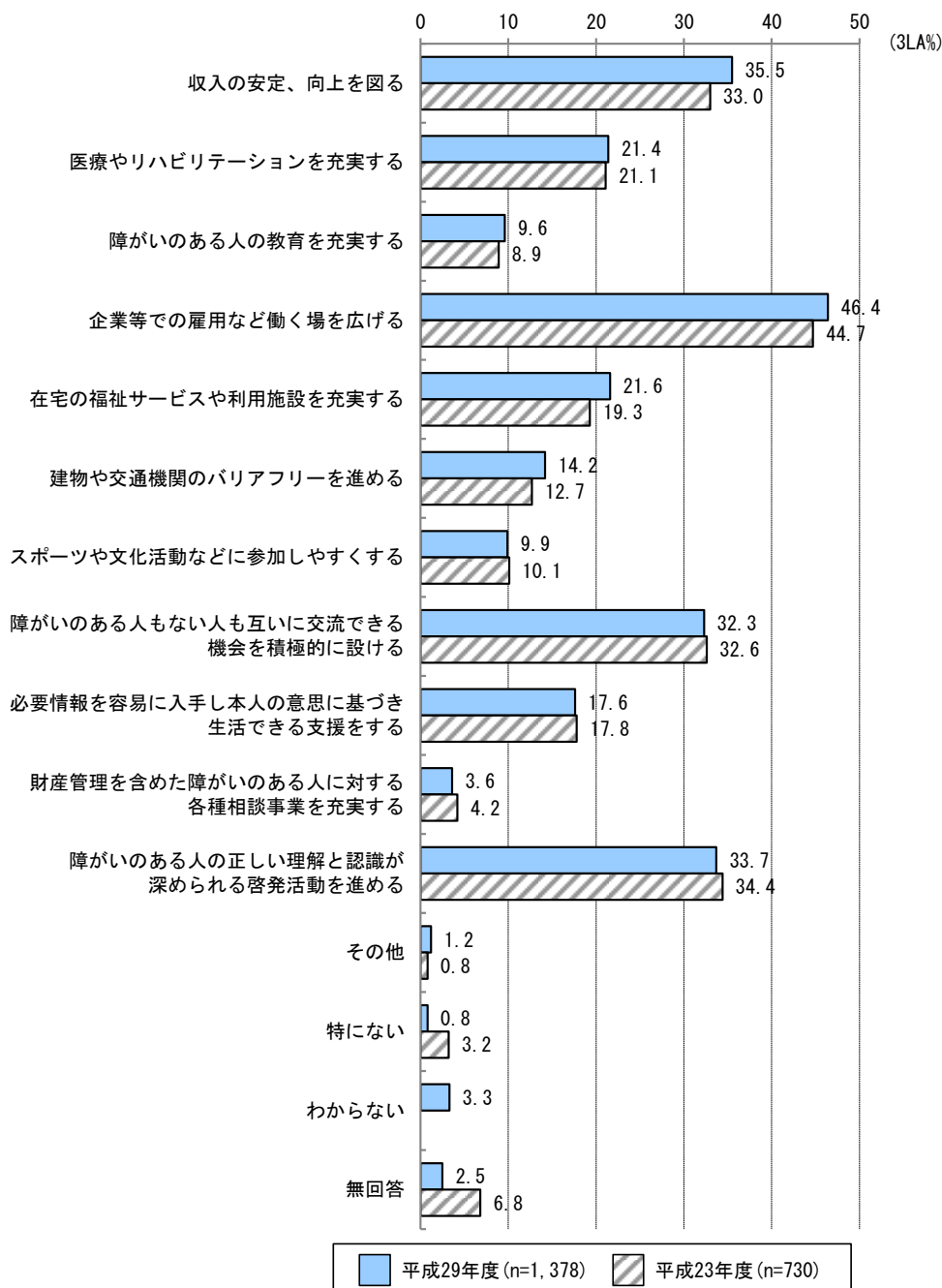
【図7-3-2 年代別 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと】



(4) 障がいのある人の人権が尊重されるために必要なこと

問20 障がいのある人の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図7-4 障がいのある人の人権が尊重されるために必要なこと】



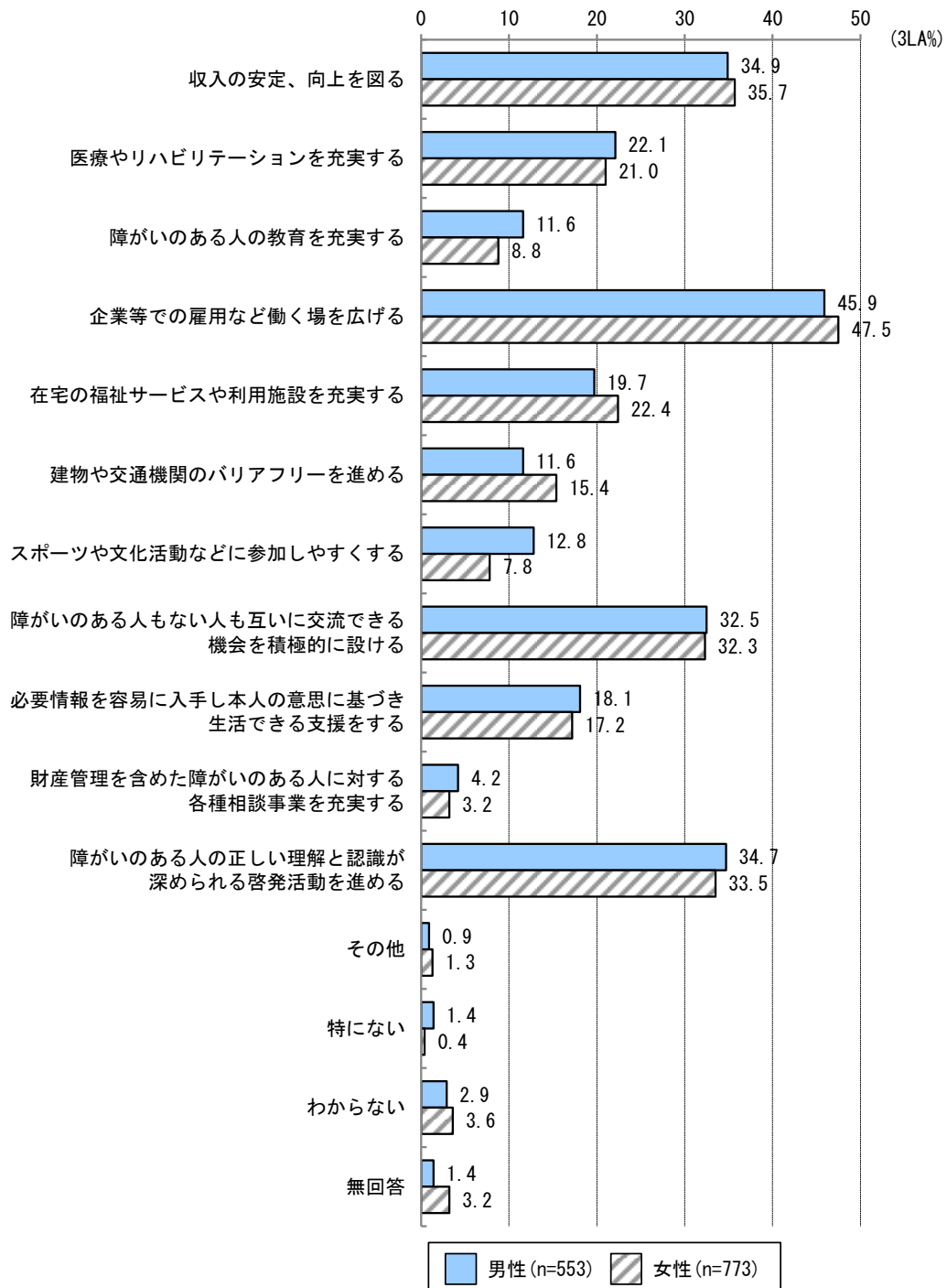
※今回調査では、回答制限数以上の回答もすべて有効としている。

障がいのある人の人権が尊重されるために必要なことは、「企業等での雇用など働く場を広げる」が46.4%で最も多く、次いで「収入の安定、向上を図る」が35.5%、「障がいのある人の正しい理解と認識が深められる啓発活動を進める」が33.7%と続いている。

前回調査と比較すると、「収入の安定、向上を図る」が2.5ポイント、「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」が2.3ポイント高くなっている。(図7-4)

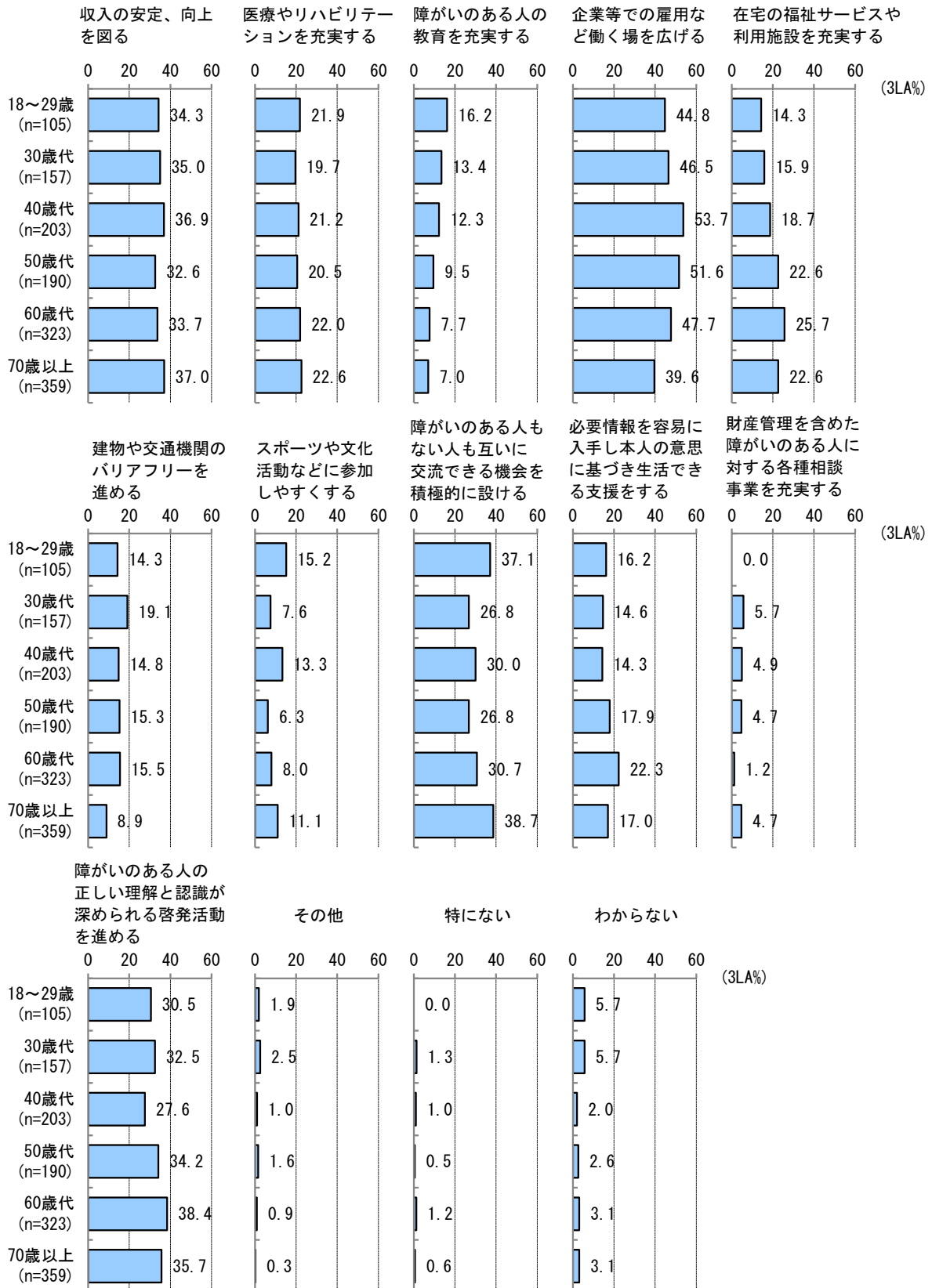
性別で見ると、男性は「障がいのある人の教育を充実する」で2.8ポイント、「スポーツや文化活動などに参加しやすくする」で5.0ポイント、女性に比べ高くなっている。一方、女性は「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」で2.7ポイント、「建物や交通機関のバリアフリーを進める」で3.8ポイント、男性に比べ高くなっている。(図7-4-1)

【図7-4-1 性別 障がいのある人の人権が尊重されるために必要なこと】



年代別でみると、若い年代ほど「障がいのある人の教育を充実する」は高くなっている。一方、年代が上がるほど「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」と「障がいのある人の正しい理解と認識が深められる啓発活動を進める」が高い傾向にある。

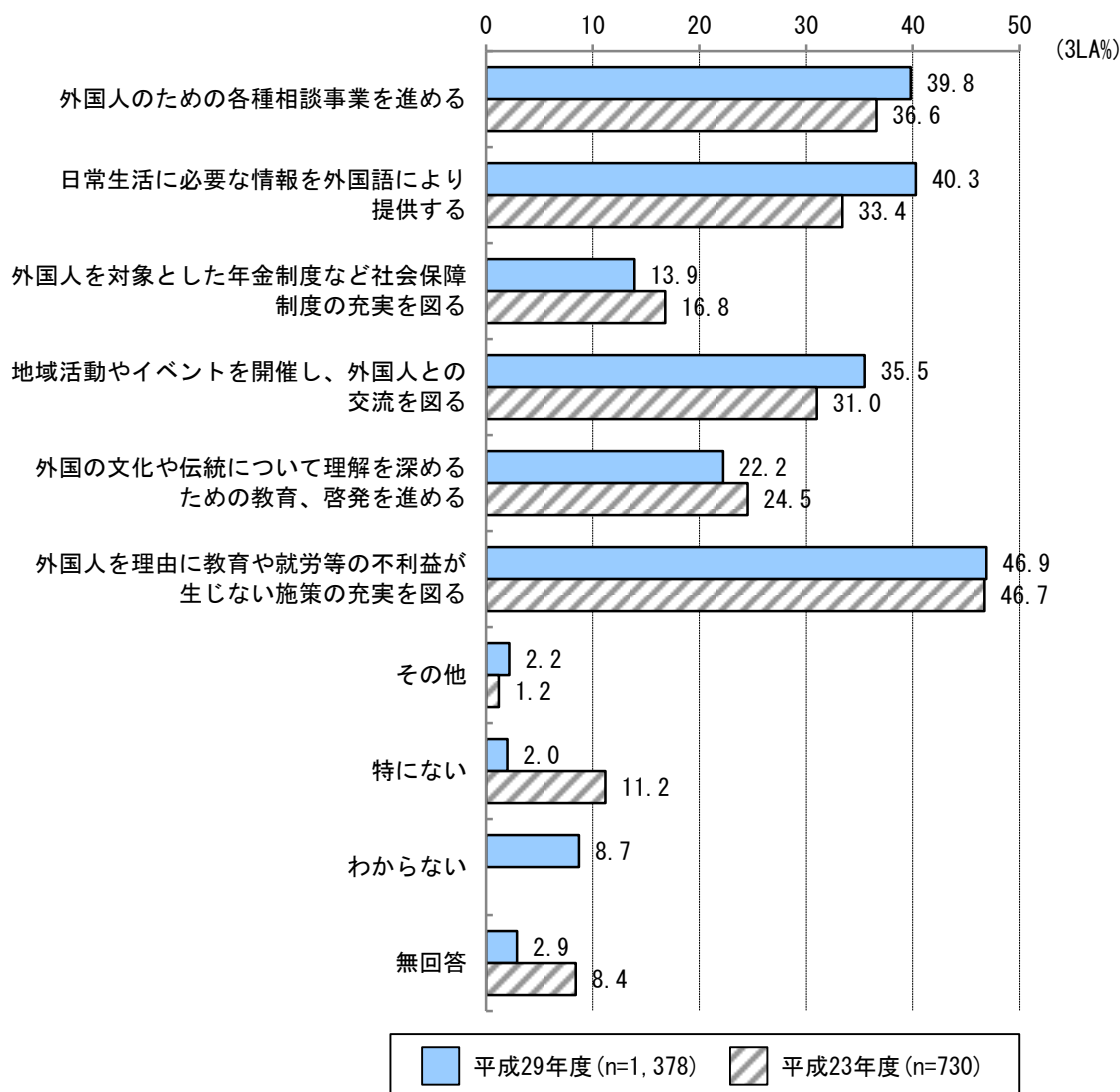
【図7-4-2 年代別 障がいのある人の人権が尊重されるために必要なこと】



(5) 日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なこと

問21 日本に居住している外国人の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(○は3つまで)

【図7-5 日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なこと】

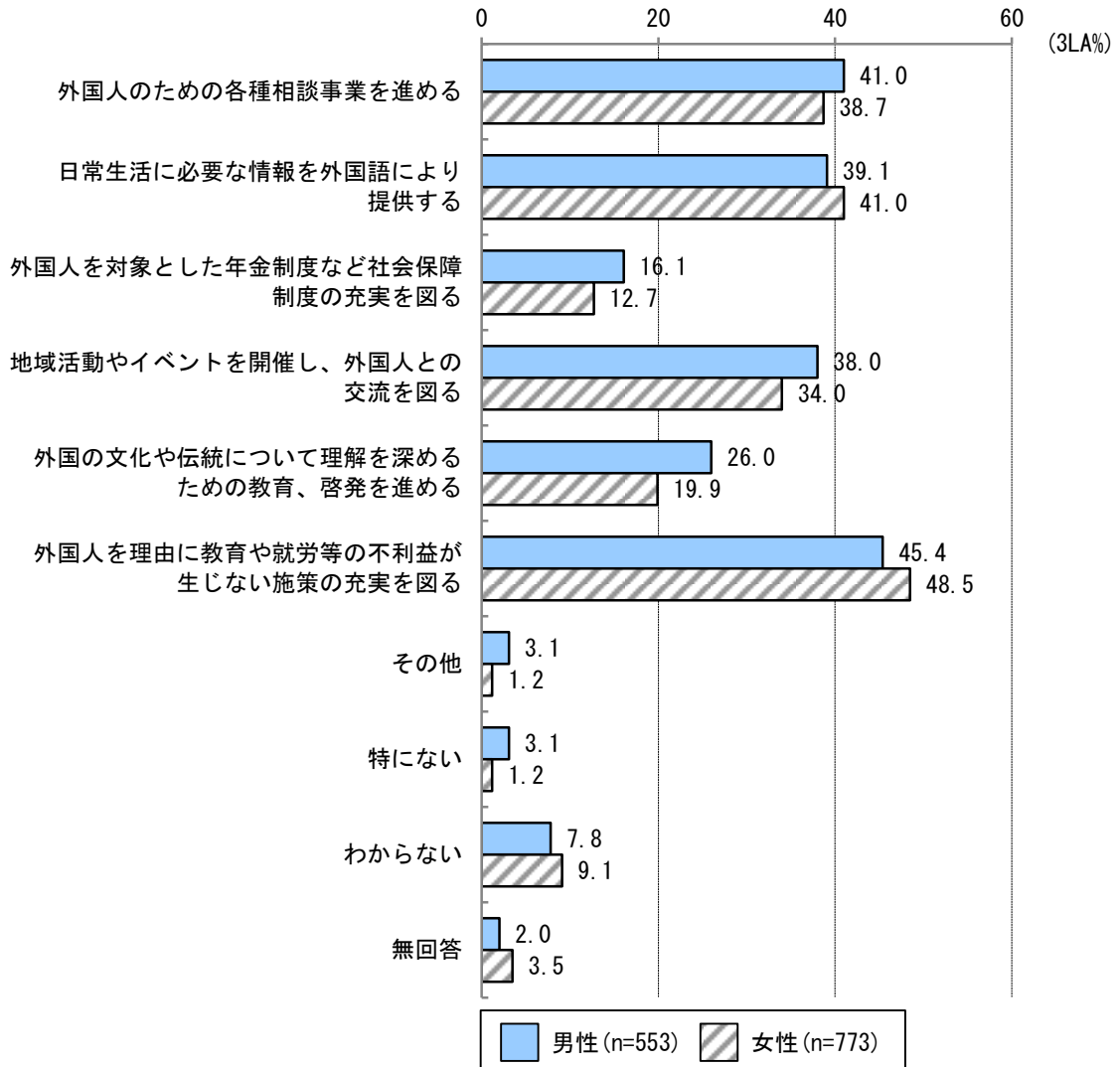


日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なことは、「外国人を理由に教育や就労等の不利益が生じない施設の充実を図る」が46.9%で最も多く、次いで「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が40.3%、「外国人のための各種相談事業を進める」が39.8%と続いている。

前回調査と比較すると、「外国人のための各種相談事業を進める」が3.2ポイント、「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が6.9ポイント、「地域活動やイベントを開催し、外国人との交流を図る」が4.5ポイント高くなっている。(図7-5)

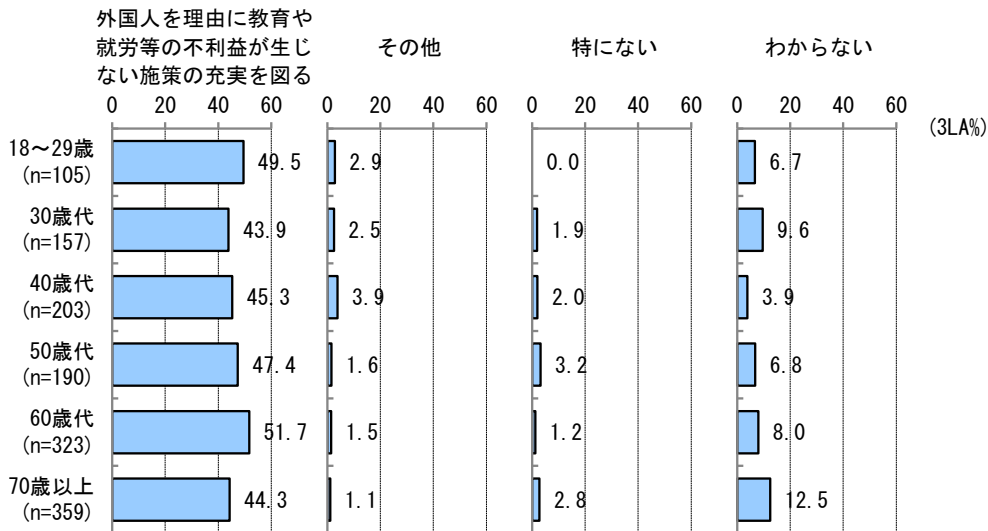
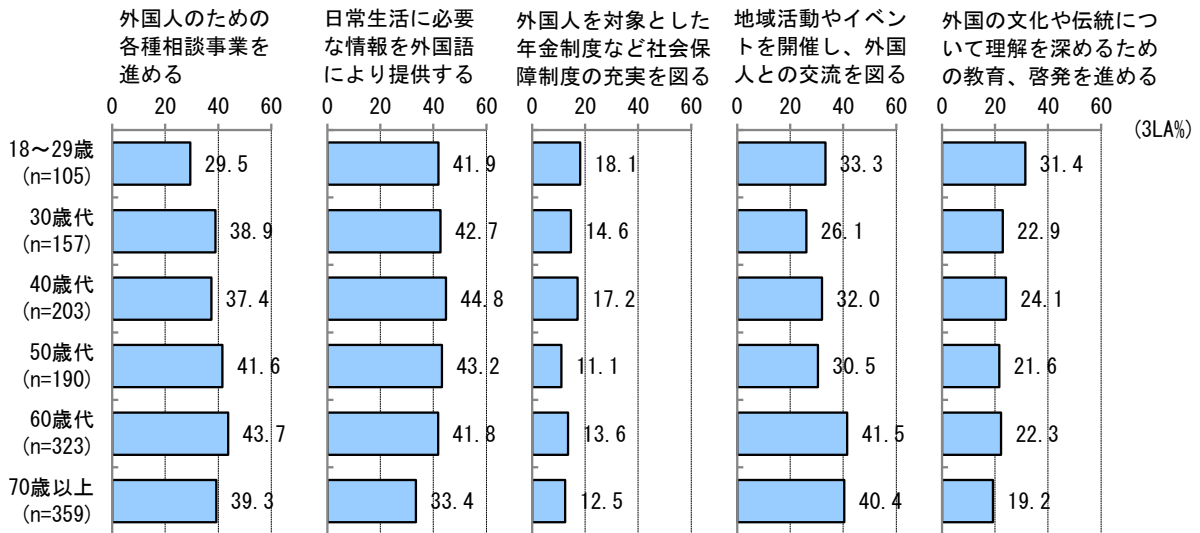
性別で見ると、男性は「外国人を対象とした年金制度など社会保障制度の充実を図る」で3.4ポイント、「地域活動やイベントを開催し、外国人との交流を図る」で4.0ポイント、「外国の文化や伝統について理解を深めるための教育、啓発を進める」で6.1ポイント、女性に比べ高くなっている。一方、女性は「外国人を理由に教育や就労等の不利益が生じない施策の充実を図る」が男性より3.1ポイント高くなっている。(図7-5-1)

【図7-5-1 性別 日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なこと】



年代別でみると、18～29歳は他の年代に比べて「外国人のための各種相談事業を進める」は低くなっており、「外国の文化や伝統について理解を深めるための教育、啓発を進める」が高くなっている。また、60歳以降になると「地域活動やイベントを開催し、外国人との交流を図る」が4割強に上昇している。(図7-5-2)

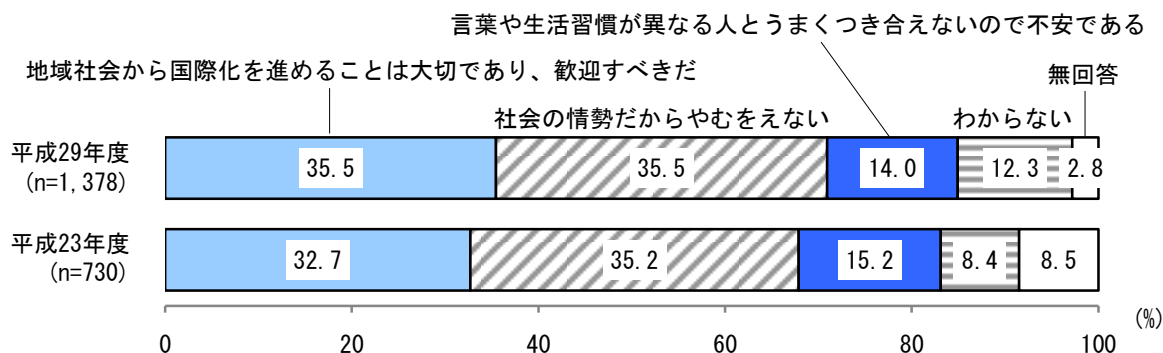
【図7-5-2 年代別 日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なこと】



(6) 日本に居住している外国人の増加に対する考え

問22 日本に居住している外国人が増加していることについて、あなたの思いに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

【図7-6 日本に居住している外国人の増加に対する考え】

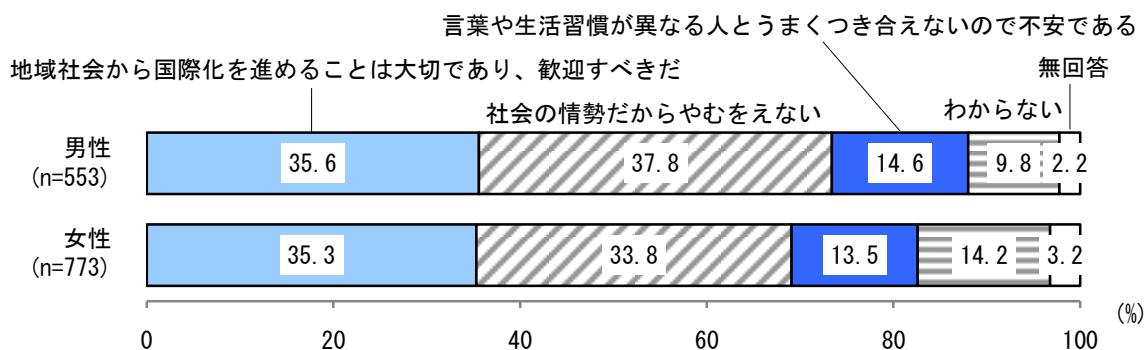


日本に居住している外国人の増加に対する考えについて、「地域社会から国際化を進めることは大切であり、歓迎すべきだ」と「社会の情勢だからやむをえない」がともに35.5%で最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「地域社会から国際化を進めることは大切であり、歓迎すべきだ」は2.8ポイント高くなっているが、「わからない」も3.9ポイント高くなっている。(図7-6)

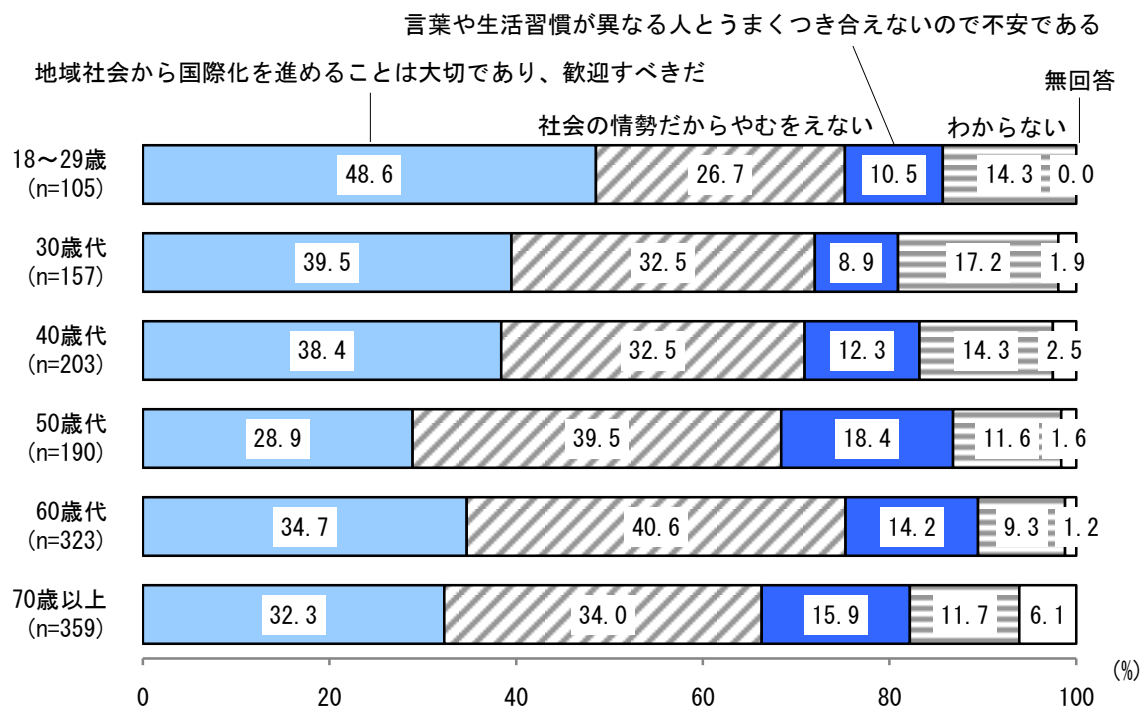
性別で見ると、男性は「社会の情勢だからやむをえない」が37.8%で最も多く、女性(33.8%)に比べ4.0ポイント高くなっている。一方、女性は「地域社会から国際化を進めることは大切であり、歓迎すべきだ」が35.3%で最も多く、男性(35.6%)と比べても大差はないが、「わからない」が男性より4.4ポイント高くなっている。(図7-6-1)

【図7-6-1 性別 日本に居住している外国人の増加に対する考え】



年代別で見ると、「地域社会から国際化を進めることは大切であり、歓迎すべきだ」は若い年代ほど高い傾向にあり、特に18～29歳は48.6%と高くなっている。一方、50歳以降になると「社会の情勢だからやむをえない」が最も多くなっている。(図7-6-2)

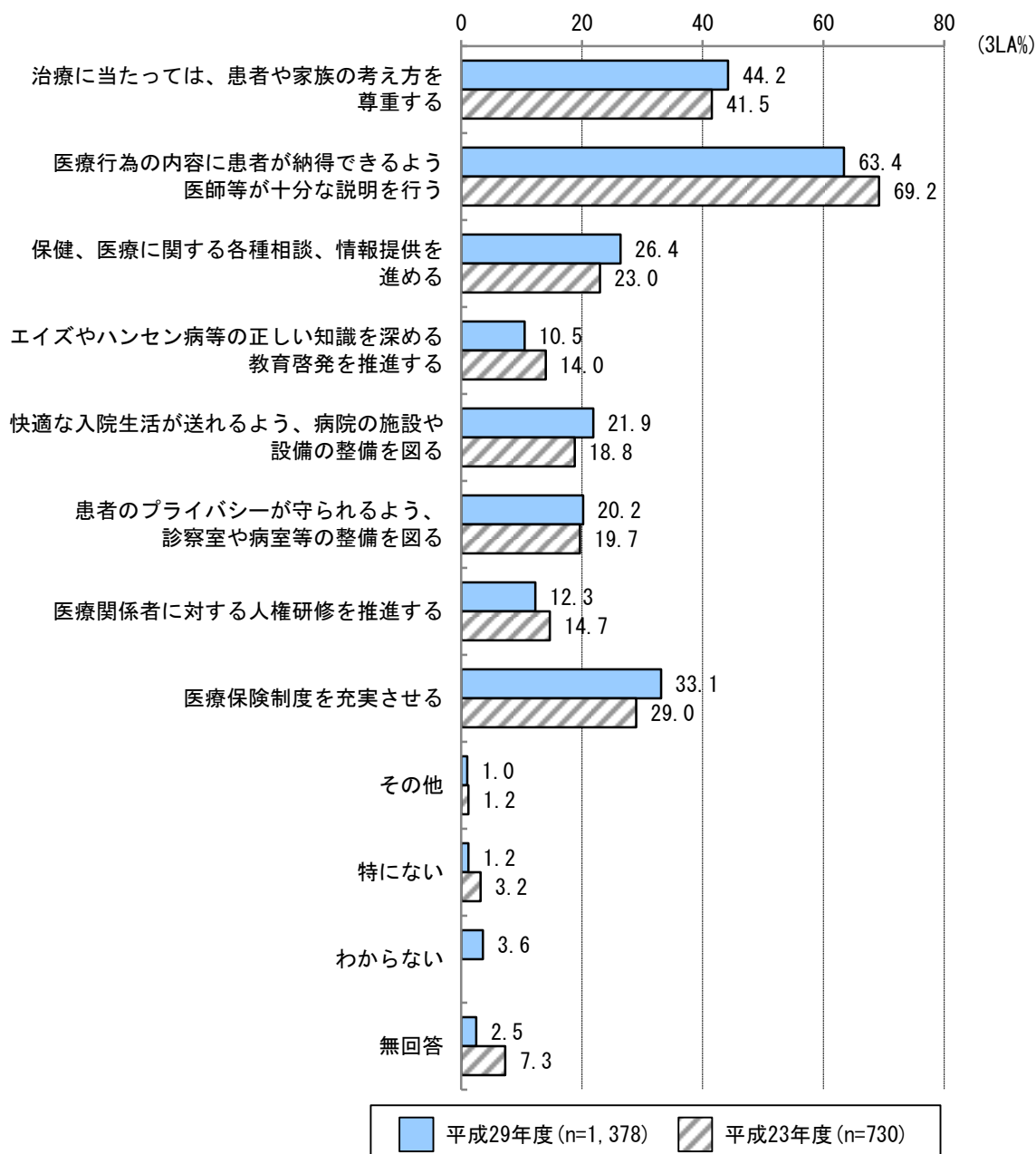
【図7-6-2 年代別 日本に居住している外国人の増加に対する考え】



(7) 患者の人権が尊重されるために必要なこと

問23 患者の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図7-7 患者の人権が尊重されるために必要なこと】

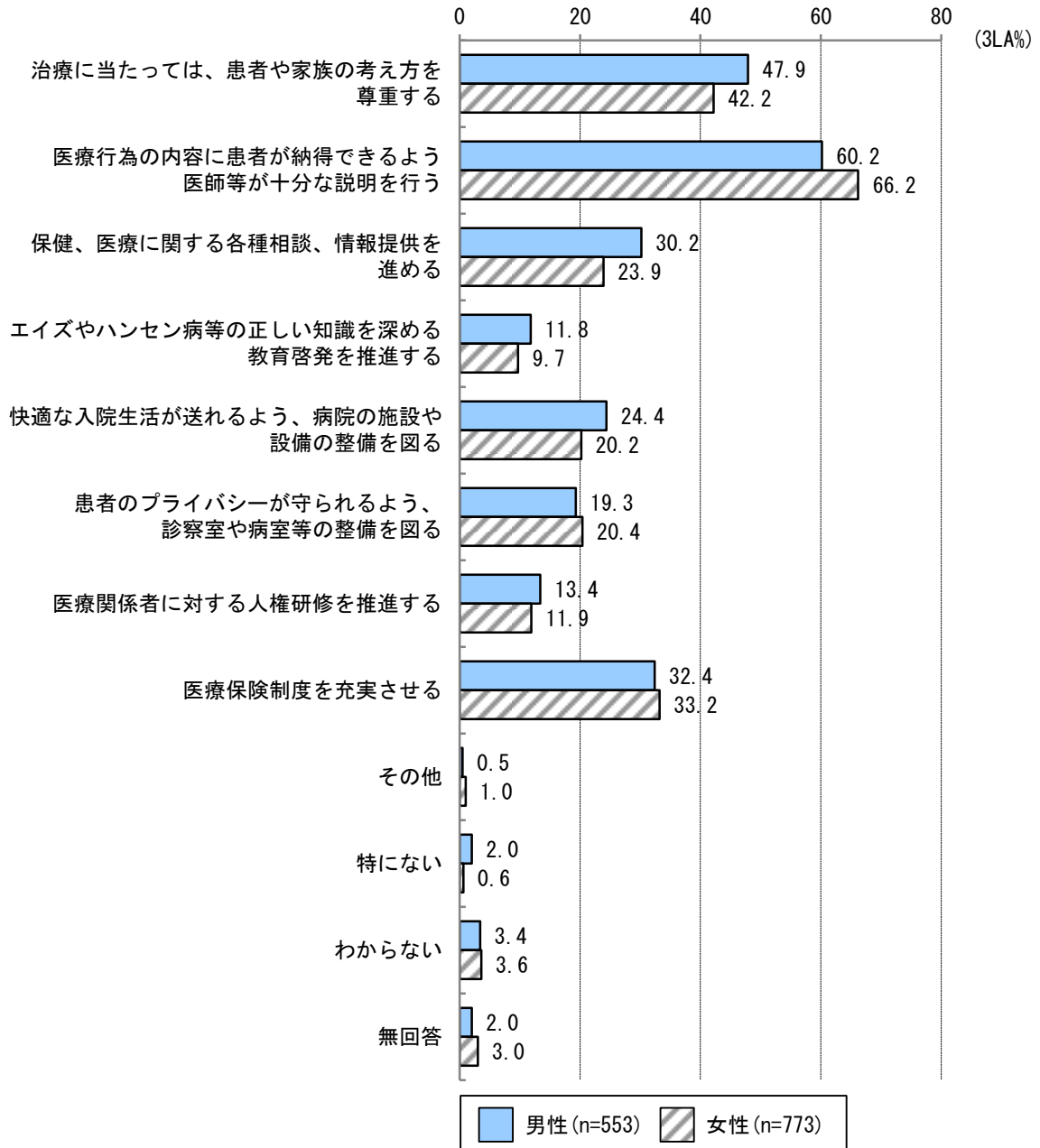


患者の人権が尊重されるために必要なことは、「医療行為の内容に患者が納得できるよう医師等が十分な説明を行う」が63.4%で最も多く、次いで「治療に当たっては、患者や家族の考え方を尊重する」が44.2%、「医療保険制度を充実させる」が33.1%と続いている。

前回調査と比較すると、「医療行為の内容に患者が納得できるよう医師等が十分な説明を行う」は5.8ポイント、「エイズやハンセン病等の正しい知識を深める教育啓発を推進する」は3.5ポイント低下しており、「保健、医療に関する各種相談、情報提供を進める」が3.4ポイント、「快適な入院生活が送れるよう、病院の施設や設備の整備を図る」が3.1ポイント、「医療保険制度を充実させる」が4.1ポイント高くなっている。(図7-7)

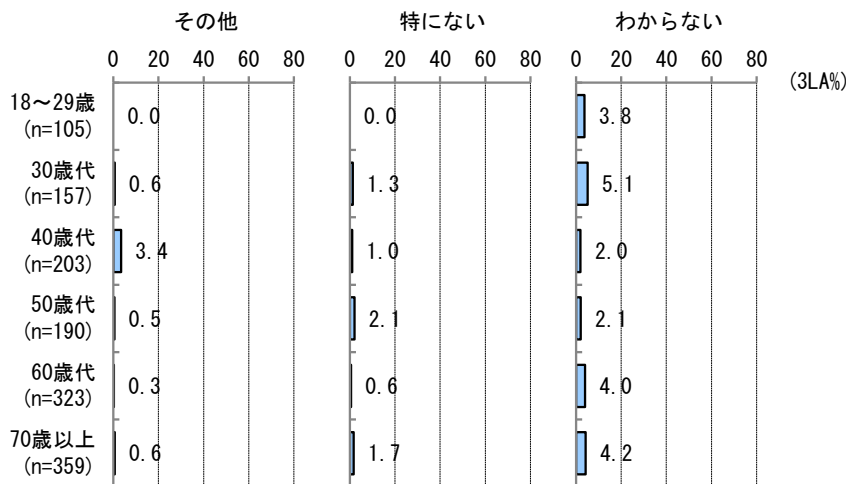
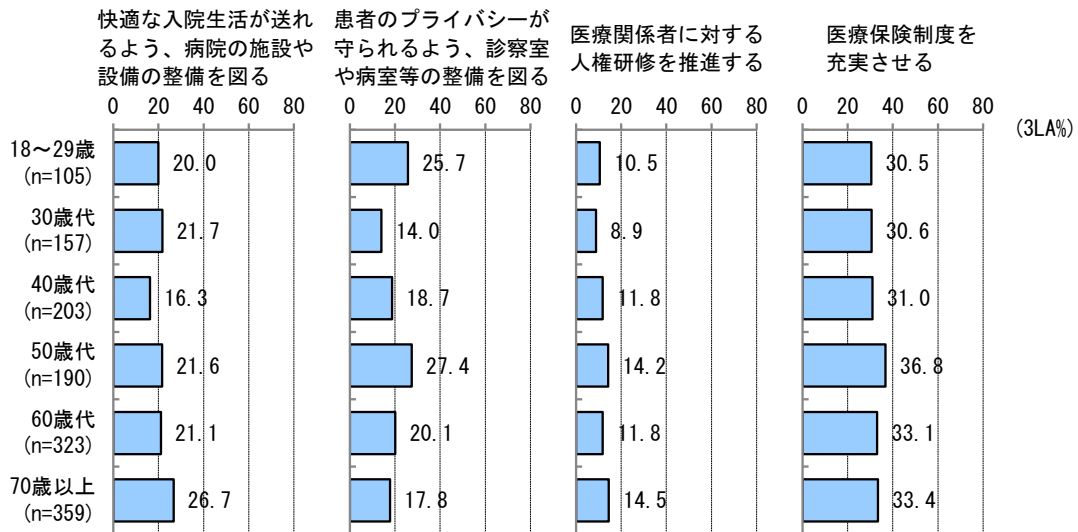
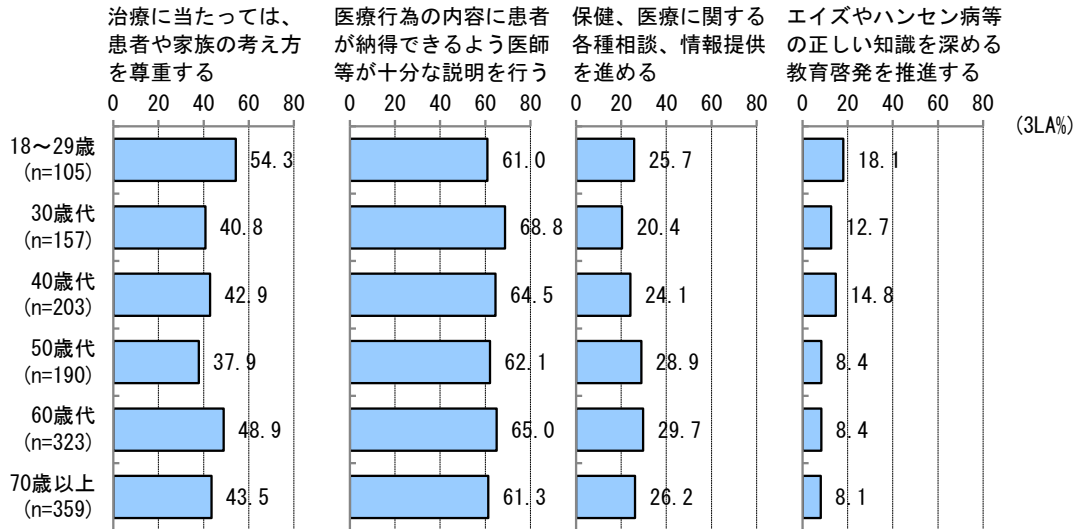
性別で見ると、男性は「治療に当たっては、患者や家族の考え方を尊重する」で5.7ポイント、「保健、医療に関する各種相談、情報提供を進める」で6.3ポイント、「快適な入院生活が送れるよう、病院の施設や設備の整備を図る」で4.2ポイント、女性に比べ高くなっている。一方、女性は「医療行為の内容に患者が納得できるよう医師等が十分な説明を行う」が男性より6.0ポイント高くなっている。(図7-7-1)

【図7-7-1 性別 患者の人権が尊重されるために必要なこと】



年代別でみると、「治療に当たっては、患者や家族の考え方を尊重する」が18～29歳で54.3%と他の年代に比べ高くなっている。また、「エイズやハンセン病等の正しい知識を深める教育啓発を推進する」は若い年代ほど高い傾向がある。(図7-7-2)

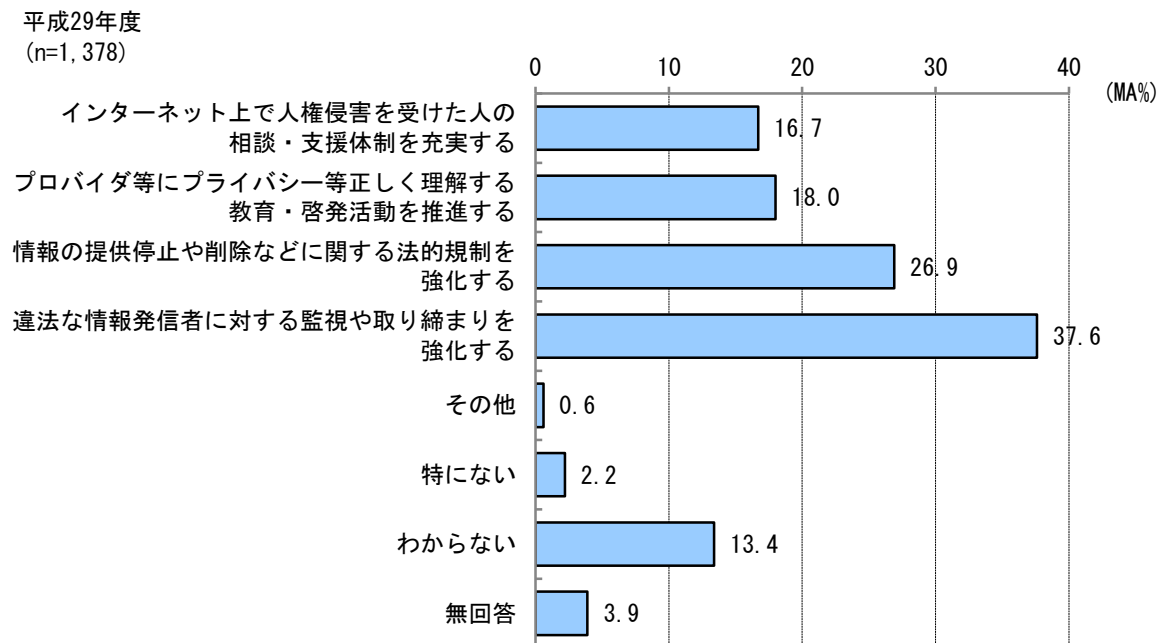
【図7-7-2 年代別 患者の人権が尊重されるために必要なこと】



(8) インターネット上の人権侵害防止のために必要なこと

問24 インターネット上の人権侵害を防ぐために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。特に必要であると思われるものを選んでください。(〇は1つ)

【図7-8 インターネット上の人権侵害防止のために必要なこと】

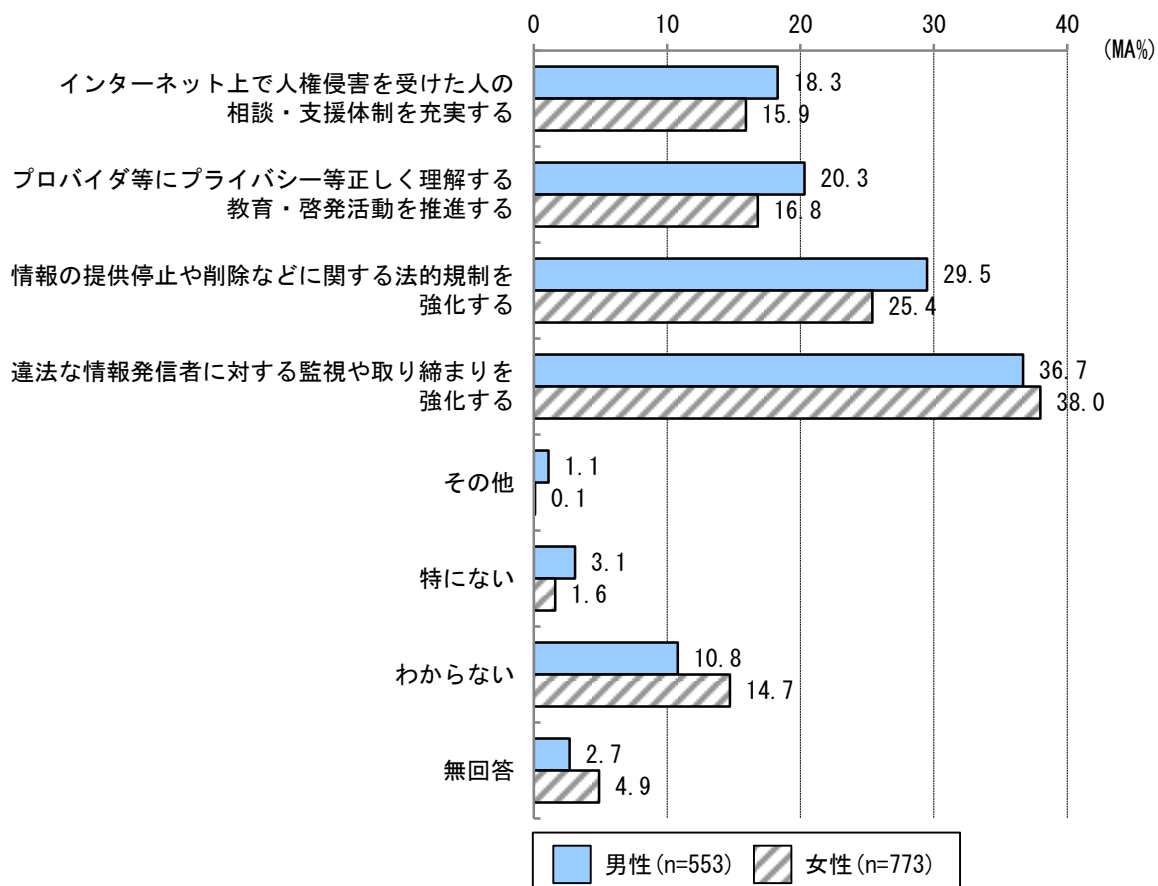


※複数回答をしている回答者が多いため、すべての回答を有効とする。

インターネット上の人権侵害防止のために必要なことは、「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」が37.6%で最も多く、次いで「情報の提供停止や削除などに関する法的規制を強化する」が26.9%、「プロバイダ等にプライバシー等正しく理解する教育・啓発活動を推進する」が18.0%、「インターネット上で人権侵害を受けた人の相談・支援体制を充実する」が16.7%となっている。(図7-8)

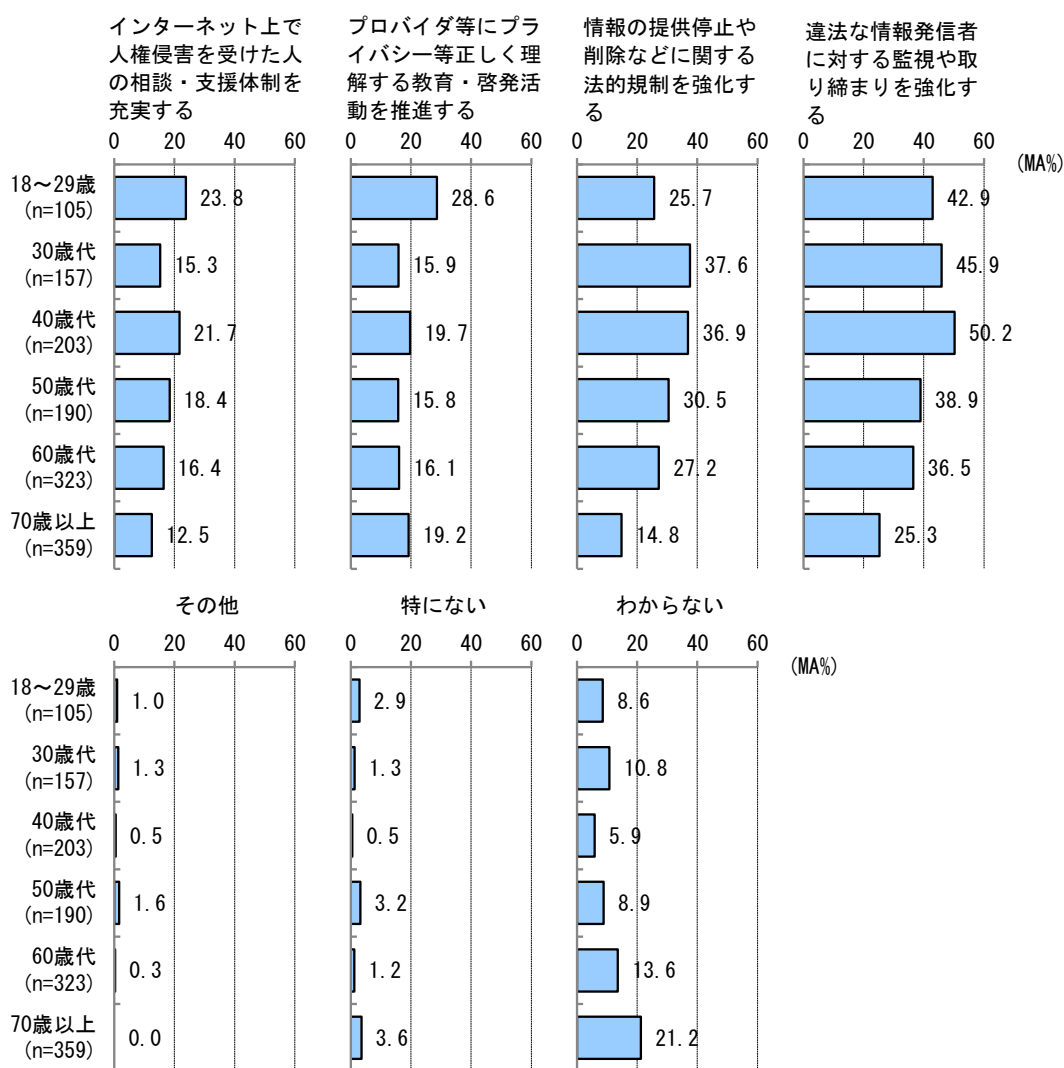
性別で見ると、男性は「インターネット上で人権侵害を受けた人の相談・支援体制を充実する」で2.4ポイント、「プロバイダ等にプライバシー等正しく理解する教育・啓発活動を推進する」で3.5ポイント、「情報の提供停止や削除などに関する法的規制を強化する」で4.1ポイント、女性に比べ高くなっている。一方、女性は「わからない」が14.7%で男性（10.8%）に比べ3.9ポイント高くなっている。（図7-8-1）

【図7-8-1 性別 インターネット上の人権侵害防止のために必要なこと】



年代別でみると、18～29歳は「プロバイダ等にプライバシー等正しく理解する教育・啓発活動を推進する」が28.6%で他の年代に比べ高く、30歳代と40歳代は「情報の提供停止や削除などに関する法的規制を強化する」が4割弱と高くなっている。また、18～40歳代の各年代は「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」が4～5割台と高くなっている。一方、70歳以上では「わからない」が21.2%と他の年代に比べ高くなっている。(図7-8-2)

【図7-8-2 年代別 インターネット上の人権侵害防止のために必要なこと】

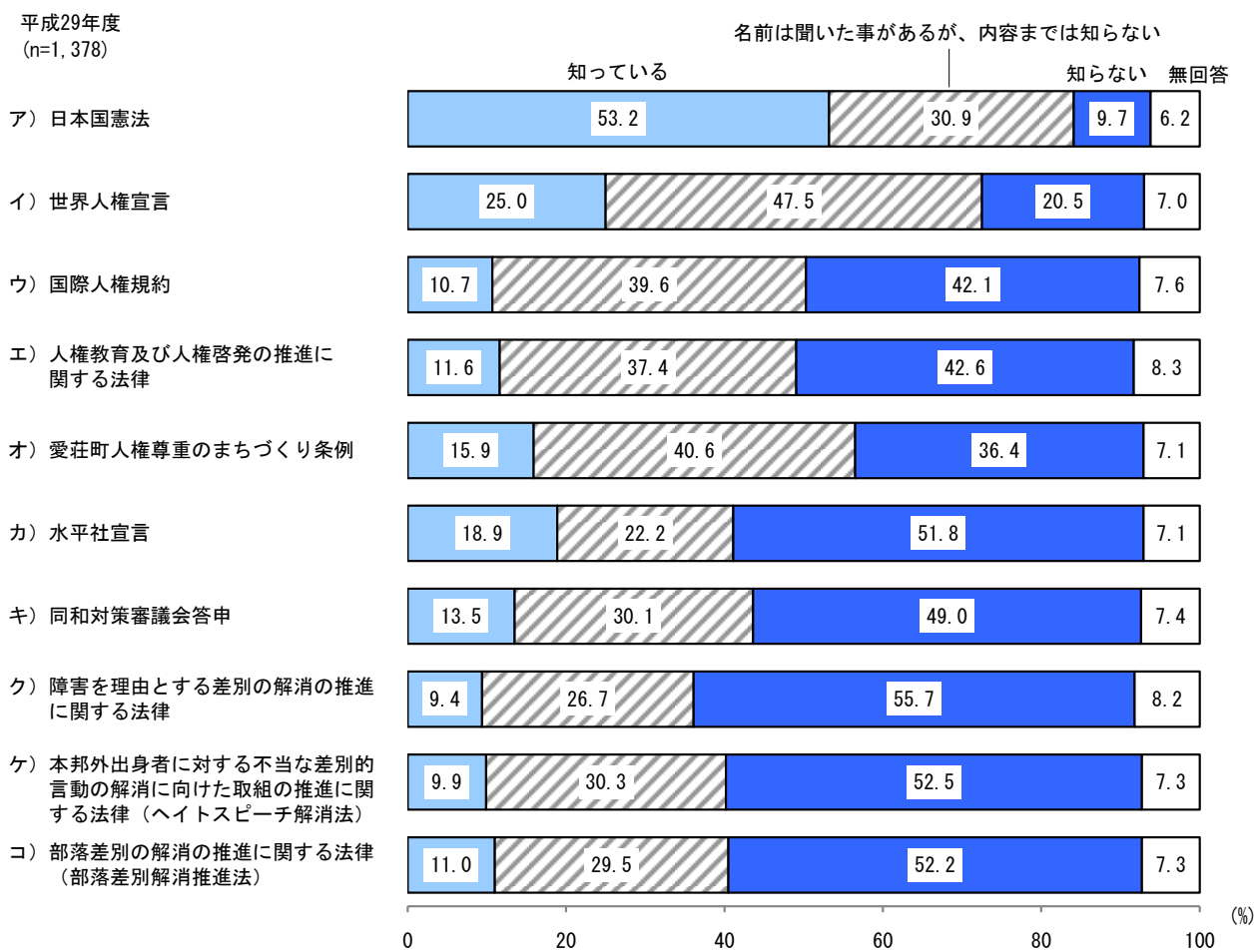


8. 人権に関する条例や法律等について

(1) 人権に関わる条約や法律等の認知度

問25 私たちの人権を保障するさまざまな取り組みが、国の内外において進められています。あなたは、ア～コの人権に関わる条約や法律等についてご存知ですか。ア～コのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

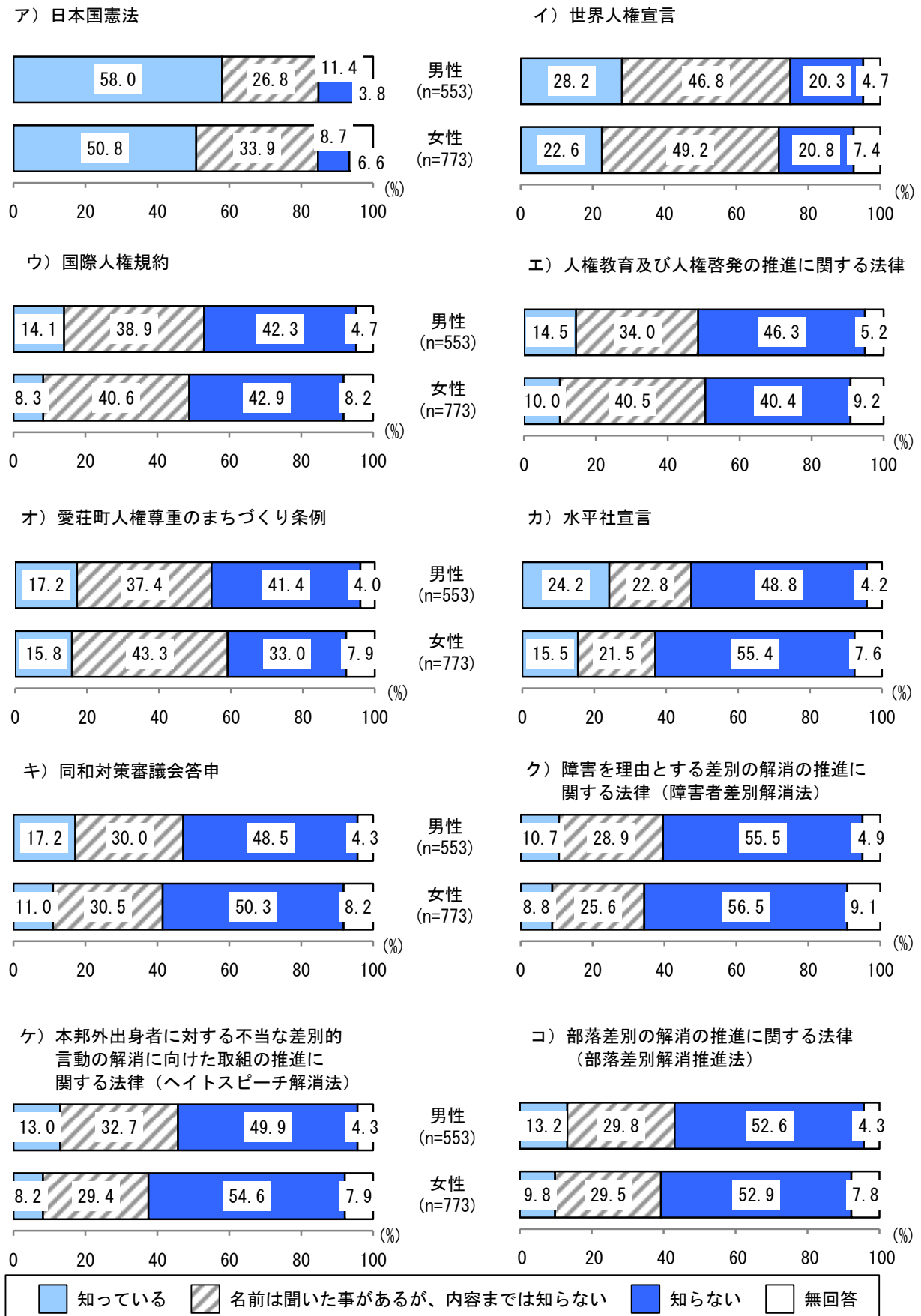
【図8-1 人権に関わる条約や法律等の認知度】



人権に関わる条約や法律等の認知度について、“ア) 日本国憲法”は「知っている」が53.2%で最も多くなっている。“イ) 世界人権宣言”と“オ) 愛荘町人権尊重のまちづくり条例”は「名前は聞いた事があるが、内容までは知らない」が4割台で最も多くなっている。それら以外の条約や法律等では「知らない」が4～5割台で最も多くなっている。(図8-1)

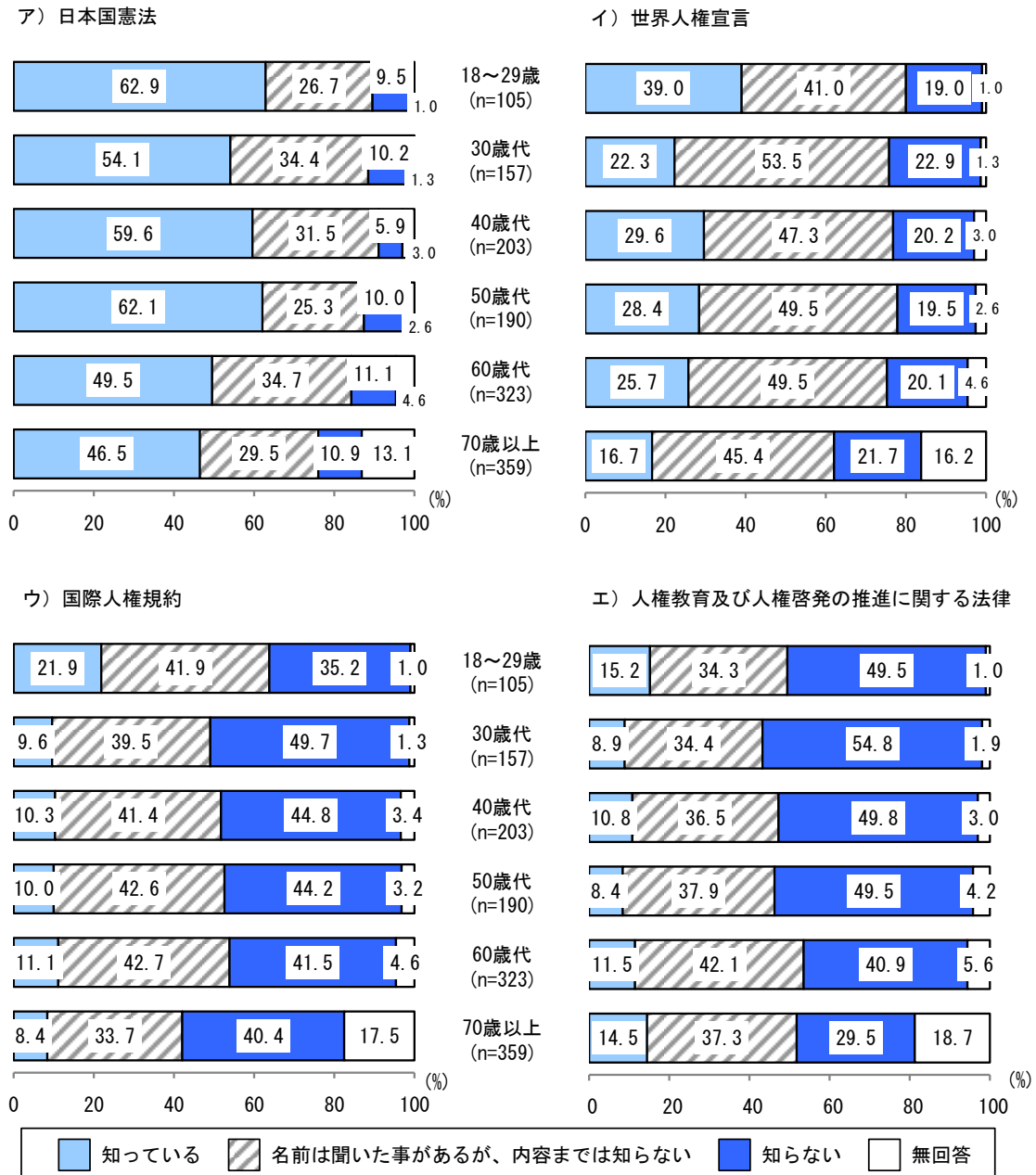
性別で見ると、「知っている」は、いずれの条約や法律等も男性のほうが高くなっており、男女の差で最も大きい項目は「カ）水平社宣言」で8.7ポイント差となっている。（図8-1-1）

【図8-1-1 性別 人権に関わる条約や法律等の認知度】



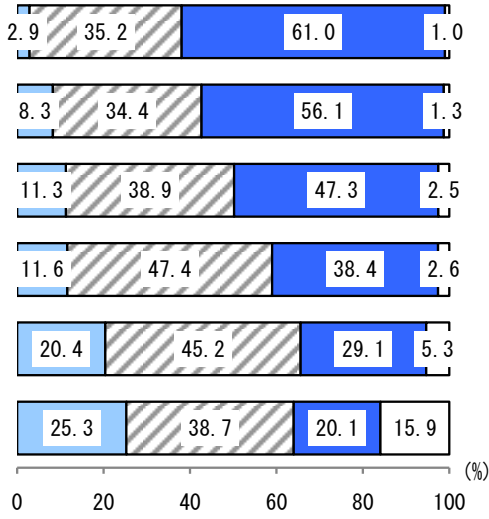
年代別でみると、「知っている」では、18～29歳が“ア) 日本国憲法”（62.9%）や“イ) 世界人権宣言”（39.0%）、“ウ) 国際人権規約”（21.9%）、“エ) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律”（15.2%）で最も高くなっている。一方、年代が上がるほど“オ) 愛荘町人権尊重のまちづくり条例”や“カ) 水平社宣言”、“キ) 同和対策審議会答申”、“ク) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）”、“コ) 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）”は高い傾向にある。また、30歳代は他の年代に比べて「知らない」割合が高い傾向にある。（図8-1-2）

【図8-1-2 年代別 人権に関わる条約や法律等の認知度①】

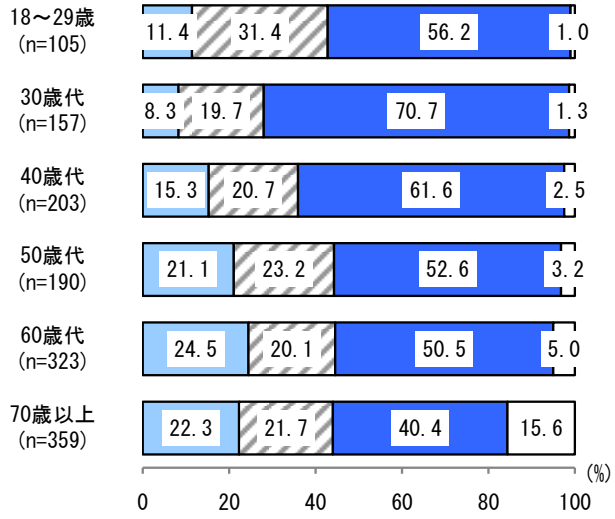


【図8-1-2 年代別 人権に関わる条約や法律等の認知度②】

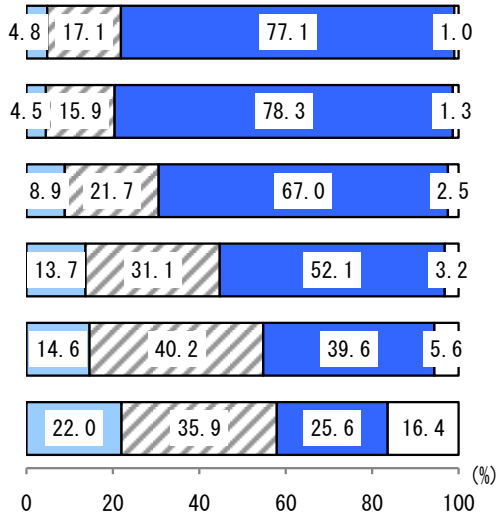
オ) 愛荘町人権尊重のまちづくり条例



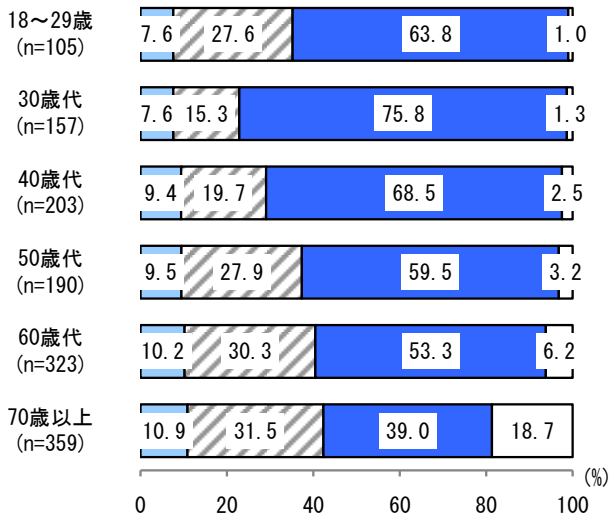
カ) 水平社宣言



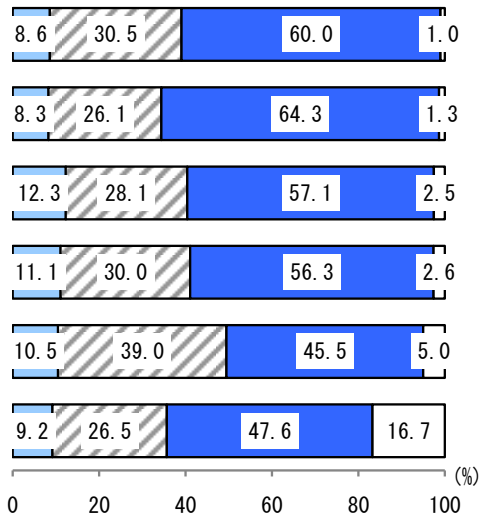
キ) 同和対策審議会答申



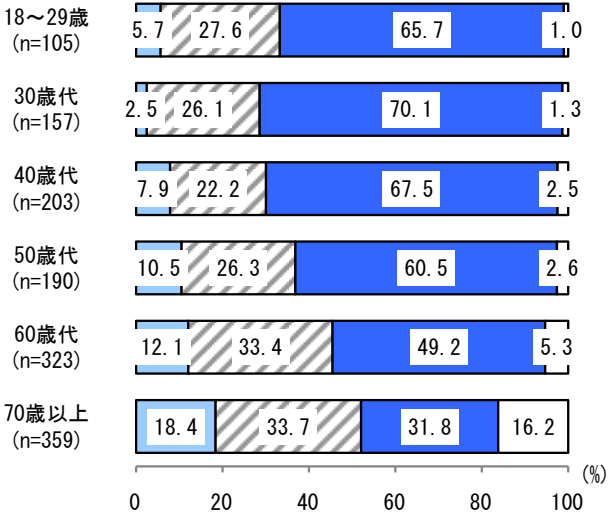
ク) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 (障害者差別解消法)



ケ) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律 (ヘイトスピーチ解消法)



コ) 部落差別の解消の推進に関する法律 (部落差別解消推進法)



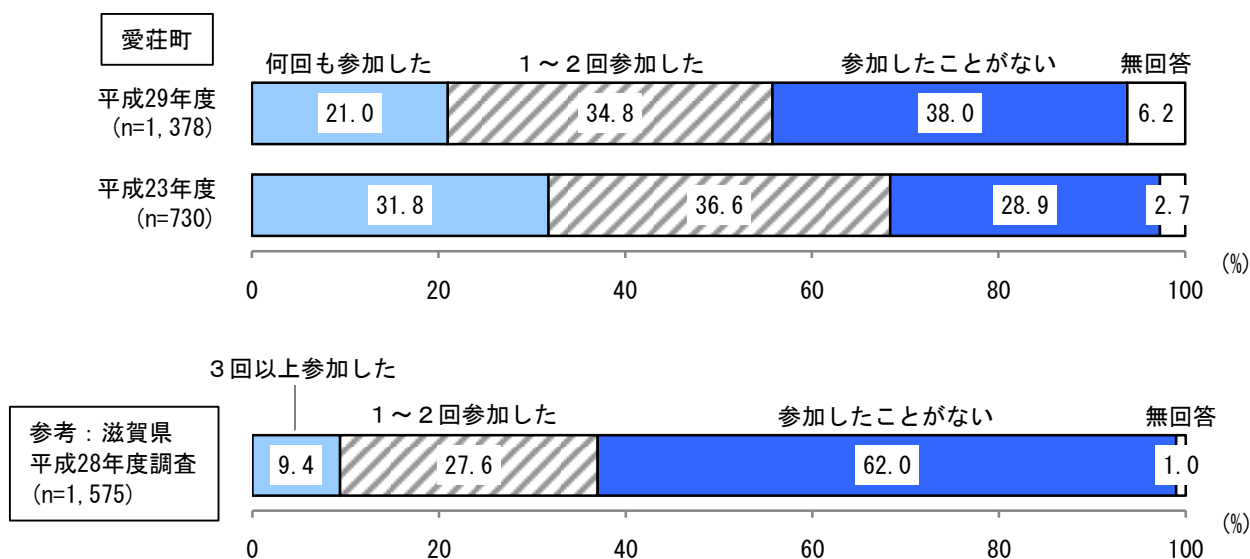
知っている
 名前は聞いた事があるが、内容までは知らない
 知らない
 無回答

9. 人権啓発の取り組みについて

(1) 講演会・研修会等への参加状況

問26 過去3年ぐらいの間に、職場、地域、町で行われた人権・同和問題に関する講演会や研修会等へあなたはどの程度参加しましたか。(〇は1つ)

【図9-1 講演会・研修会等への参加状況】



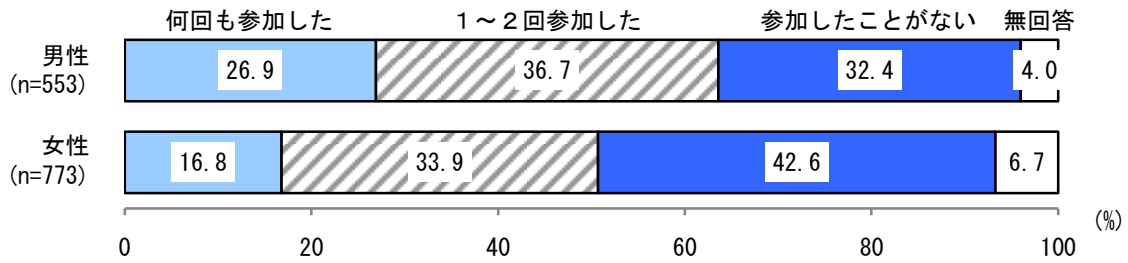
講演会・研修会等への参加状況について、「参加したことがない」が38.0%で最も多くなっている。これに次いで「1～2回参加した」が34.8%、「何回も参加した」は21.0%となっており、両者を合わせた参加経験者の割合は55.8%を占めている。

前回調査と比較すると、「何回も参加した」は10.8ポイント、「1～2回参加した」は1.8ポイント低下している。

参考に県調査と比較すると、県の参加経験者の割合（「3回以上参加した」と「1～2回参加した」の和）は37.0%で、本町のほうが18.8ポイント高くなっている。(図9-1)

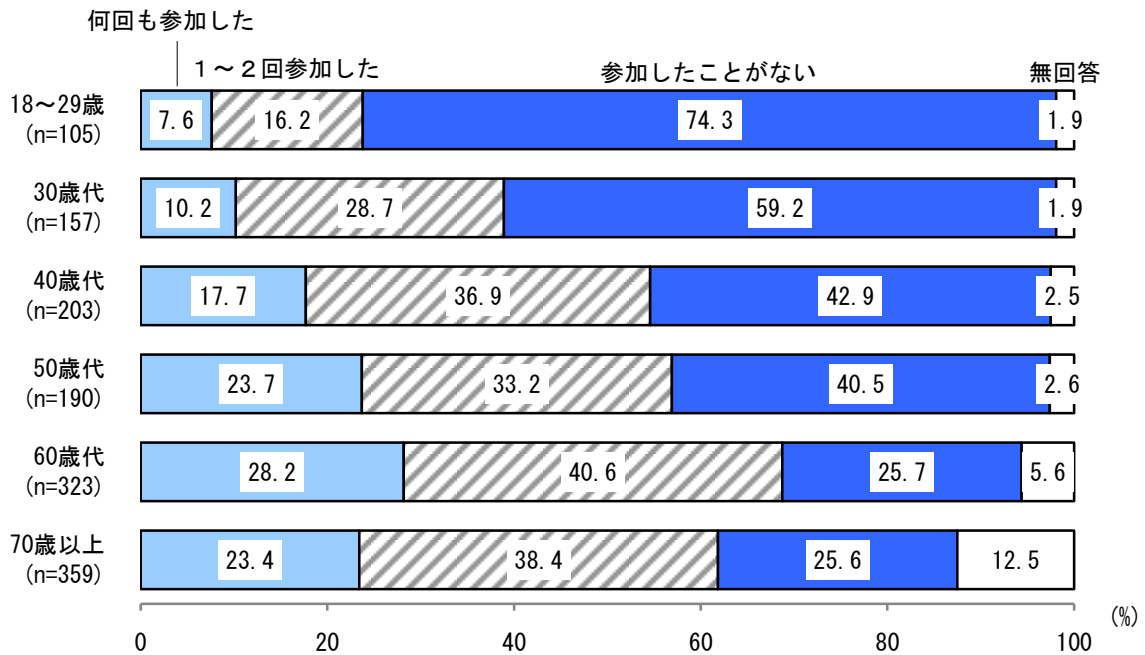
性別で見ると、男性は「1～2回参加した」が36.7%で最も多く、参加経験者の割合は63.6%で女性（50.7%）より12.9ポイント高くなっている。一方、女性は「参加したことがない」が42.6%で最も多くなっている。（図9-1-1）

【図9-1-1 性別 講演会・研修会等への参加状況】



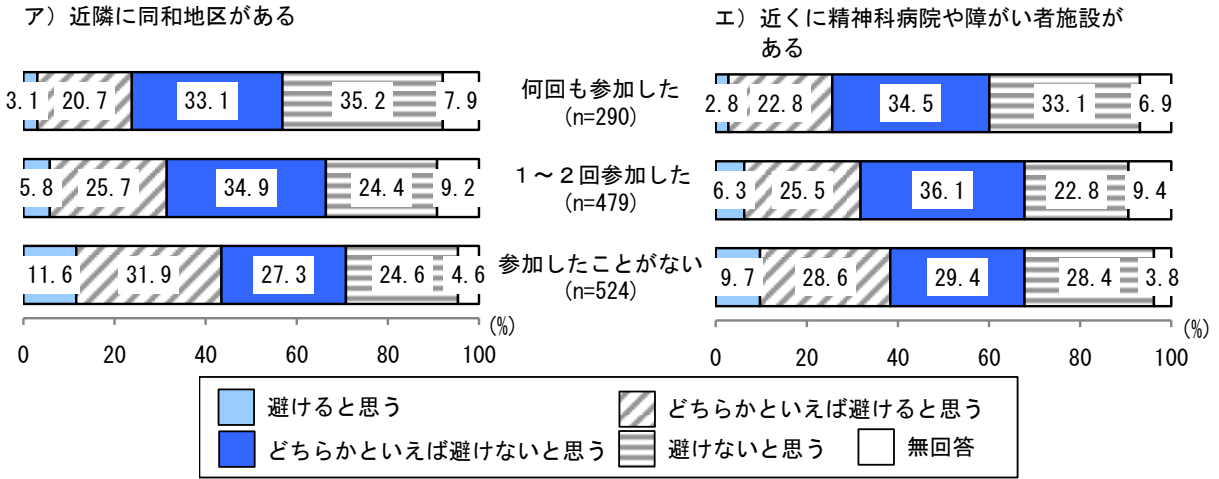
年代別で見ると、参加経験者の割合は、年代が上がるほど高い傾向にあり、40歳以降になると過半数を占めている。なお、「何回も参加した」と「1～2回参加した」とも60歳代が最も高くなっている。（図9-1-2）

【図9-1-2 年代別 講演会・研修会等への参加状況】



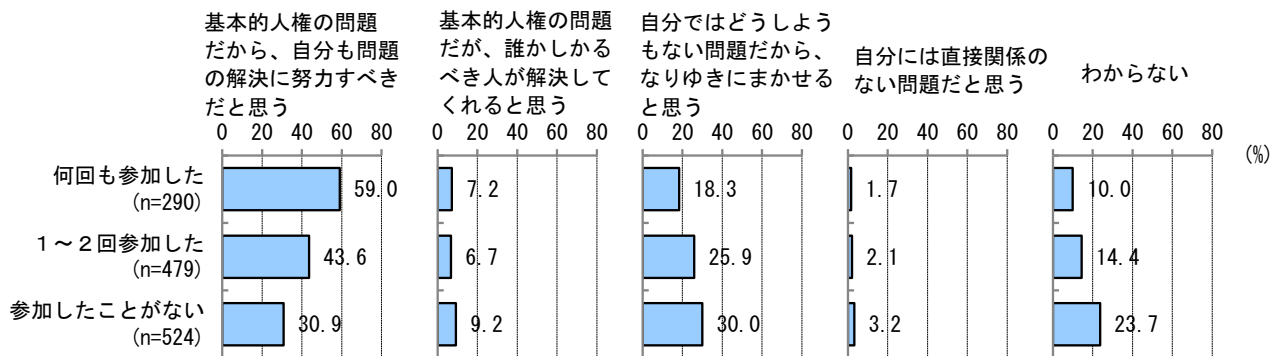
住宅を選ぶ際に忌避する条件を、講演会・研修会等への参加状況別でみると、「どちらかといえば避けたいと思う」と「避けたいと思う」を合わせた『避けたいと思う』割合は、参加回数が多い人ほど高くなっている。(図9-1-3)

【図9-1-3 講演会・研修会等への参加状況別 住宅を選ぶ際に忌避する条件】



同和問題の解決に対する考えを、講演会・研修会等への参加状況別でみると、参加回数が多い人ほど「基本的人権の問題だから、自分も問題の解決に努力すべきだと思う」が高くなっており、「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせると思う」は低下している。(図9-1-4)

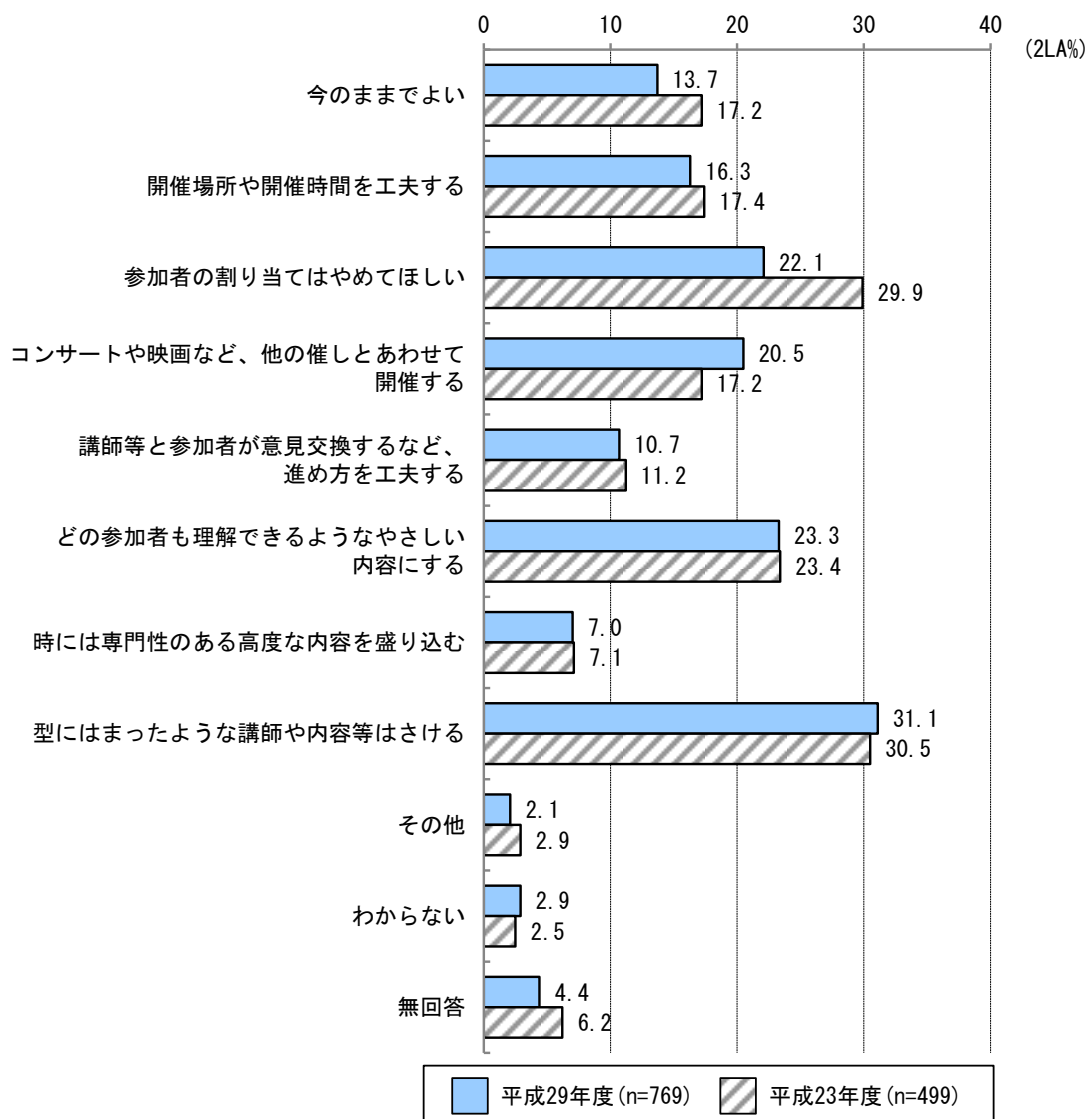
【図9-1-4 講演会・研修会等への参加状況別 同和問題の解決に対する考え】



(2) 講演・研修内容について工夫してほしいこと

問26-1 問26で「何回も参加した」「1～2回参加した」とお答えになった方におたずねします。
その方法や内容について、今後どのようにすればよいと思いますか。
(○は2つまで)

【図9-2 講演・研修内容について工夫してほしいこと】



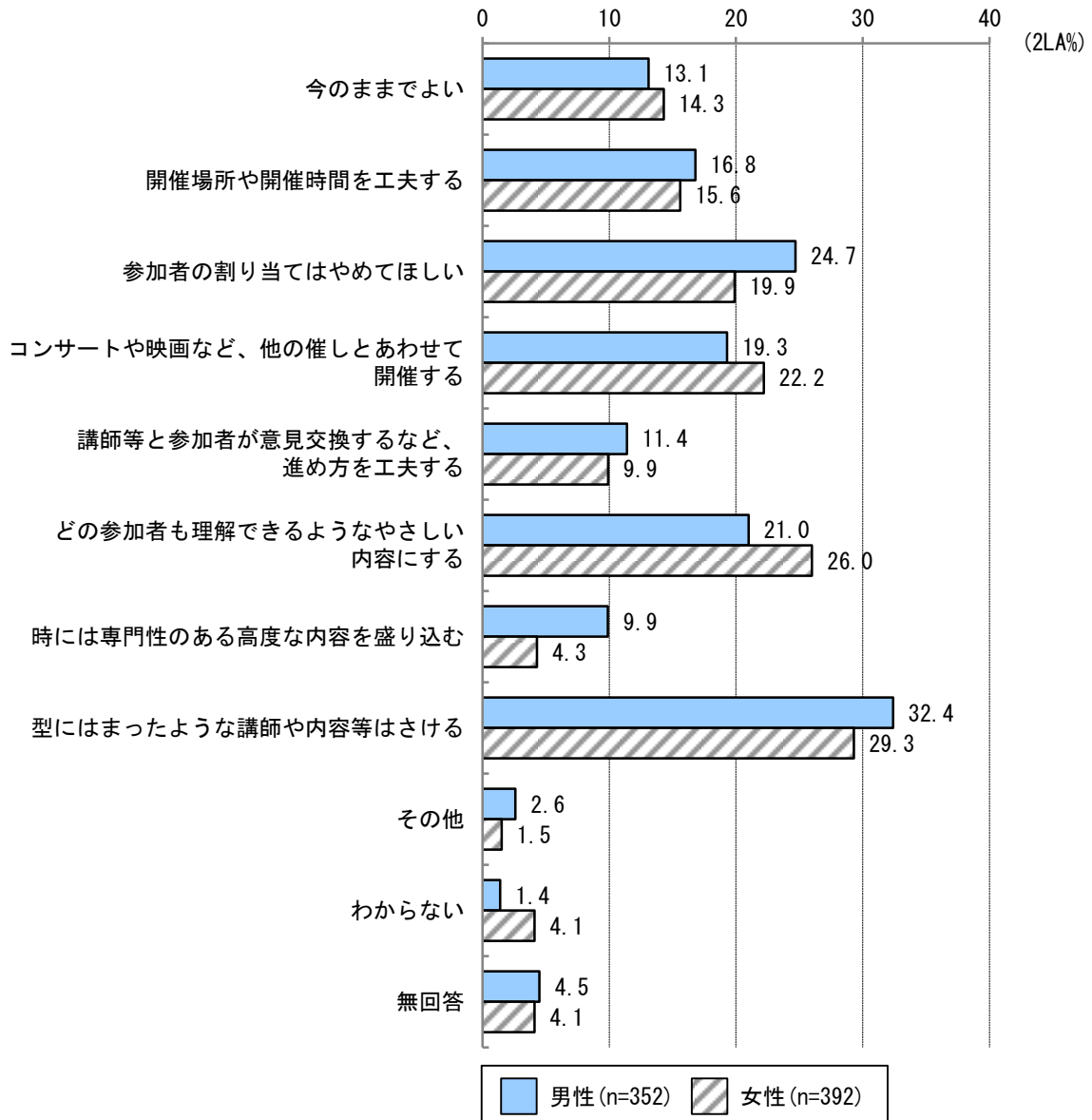
※今回調査では、回答制限数以上の回答もすべて有効としている。

講演会・研修会に参加したことがあると回答した人に、講演・研修内容について工夫してほしいことをたずねると、「型にはまったような講師や内容等はさける」が31.1%で最も多く、次いで「どの参加者も理解できるようなやさしい内容にする」が23.3%、「参加者の割り当てはやめてほしい」が22.1%と続いている。

前回調査と比較すると、「今のままでよい」は3.5ポイント、「参加者の割り当てはやめてほしい」は7.8ポイント低下し、「コンサートや映画など、他の催しとあわせて開催する」が3.3ポイント高くなっている。(図9-2)

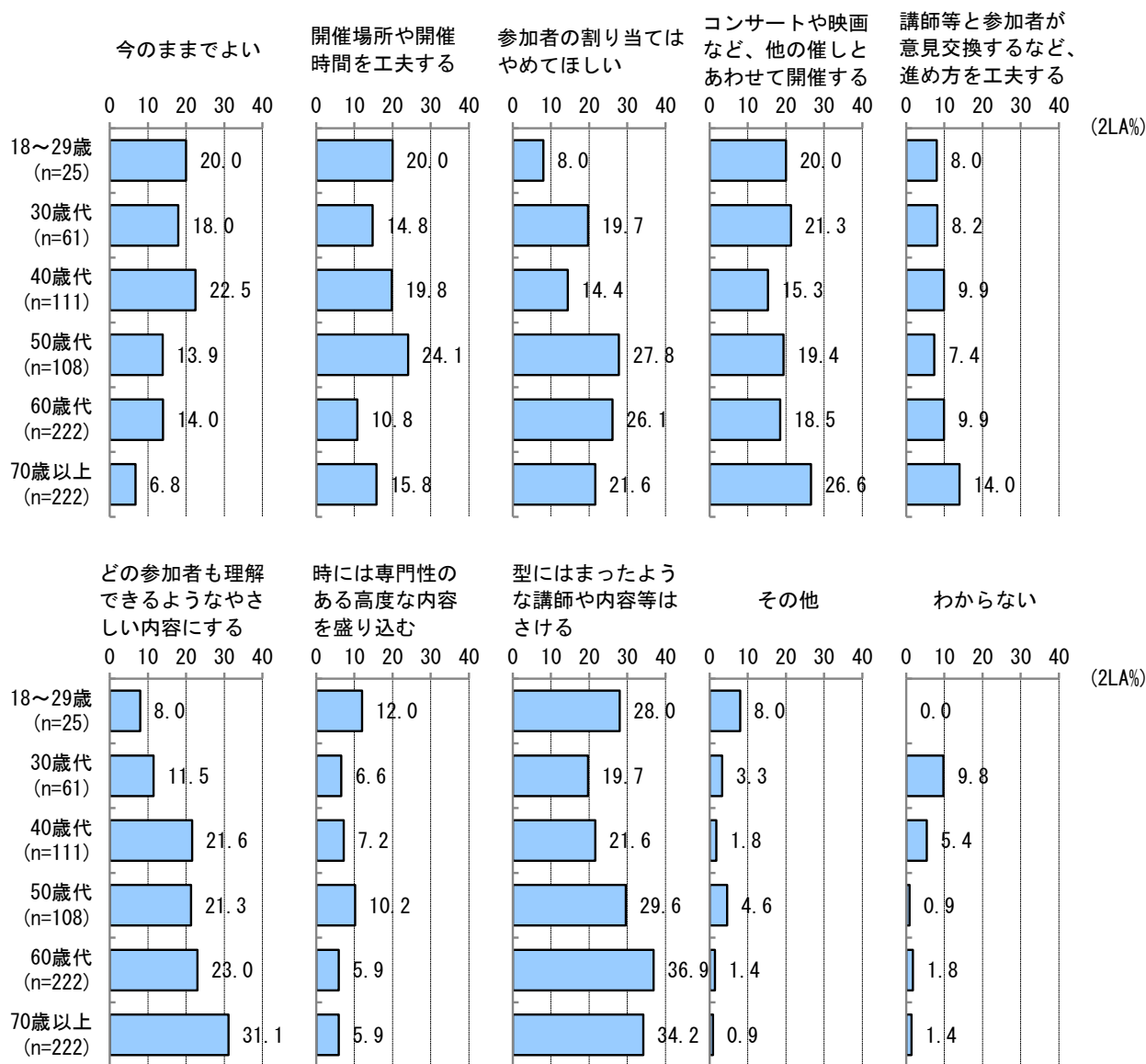
性別で見ると、男女とも「型にはまったような講師や内容等はさける」が3割前後で最も多くなっている。これに次いで、男性は「参加者の割り当てはやめてほしい」(24.7%)が多く、女性(19.9%)に比べ4.8ポイント高くなっている。一方、女性は、続いて「どの参加者も理解できるようなやさしい内容にする」(26.0%)が多く、男性(21.0%)に比べ5.0ポイント高くなっている。また、男性は「時には専門性のある高度な内容を盛り込む」が9.9%と多くはないが、女性(4.3%)より5.6ポイント高くなっている。(図9-2-1)

【図9-2-1 性別 講演・研修内容について工夫してほしいこと】



年代別でみると、「今のままでよい」は年代が上がるほど低下傾向にある。なお、「どの参加者も理解できるようなやさしい内容にする」は年代が上がるほど高い傾向にあり、50歳以降になると「参加者の割り当てはやめてほしい」と「型にはまったような講師や内容等はさける」が2～3割台に上昇している。(図9-2-2)

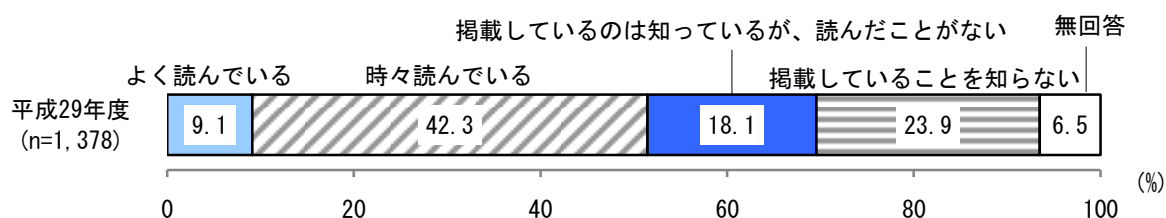
【図9-2-2 年代別 講演・研修内容について工夫してほしいこと】



(3) “人推協だより ほっと・あい” の認知度

問27 愛荘町では、人権問題の解決のための啓発活動として、毎月広報紙に「人推協だより ほっと・あい」を掲載していますが、最近1年ぐらいの間に、どの程度読んでみましたか。(〇は1つ)

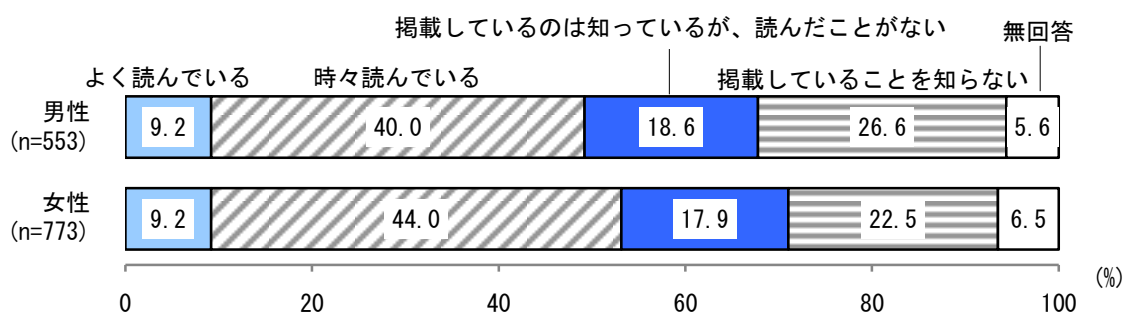
【図9-3 “人推協だより ほっと・あい” の認知度】



“人推協だより ほっと・あい” について、「時々読んでいる」が42.3%で最も多く、次いで「掲載していることを知らない」が23.9%、「掲載しているのは知っているが、読んだことがない」が18.1%、「よく読んでいる」は9.1%となっている。なお、「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた『読んでいる』割合は51.4%を占めている。(図9-3)

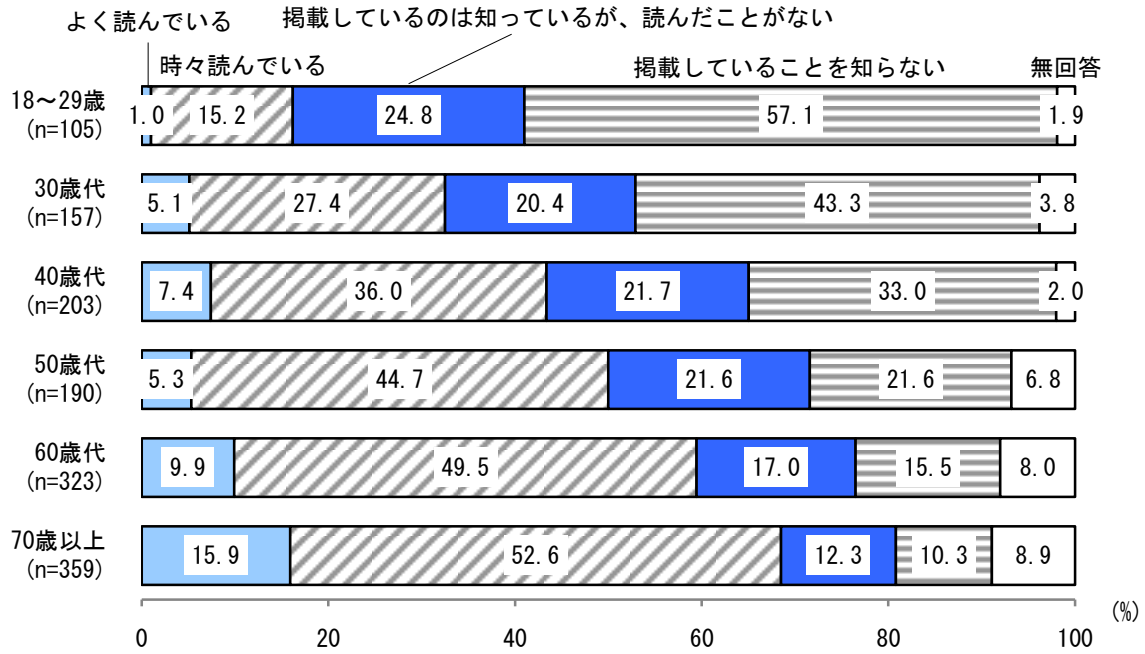
性別でみると、『読んでいる』割合は、男性が49.2%、女性が53.2%で、女性のほうが4.0ポイント高くなっている。一方、「掲載していることを知らない」では、男性が26.6%で女性(22.5%) に比べ4.1ポイント高くなっている。(図9-3-1)

【図9-3-1 性別 “人推協だより ほっと・あい” の認知度】



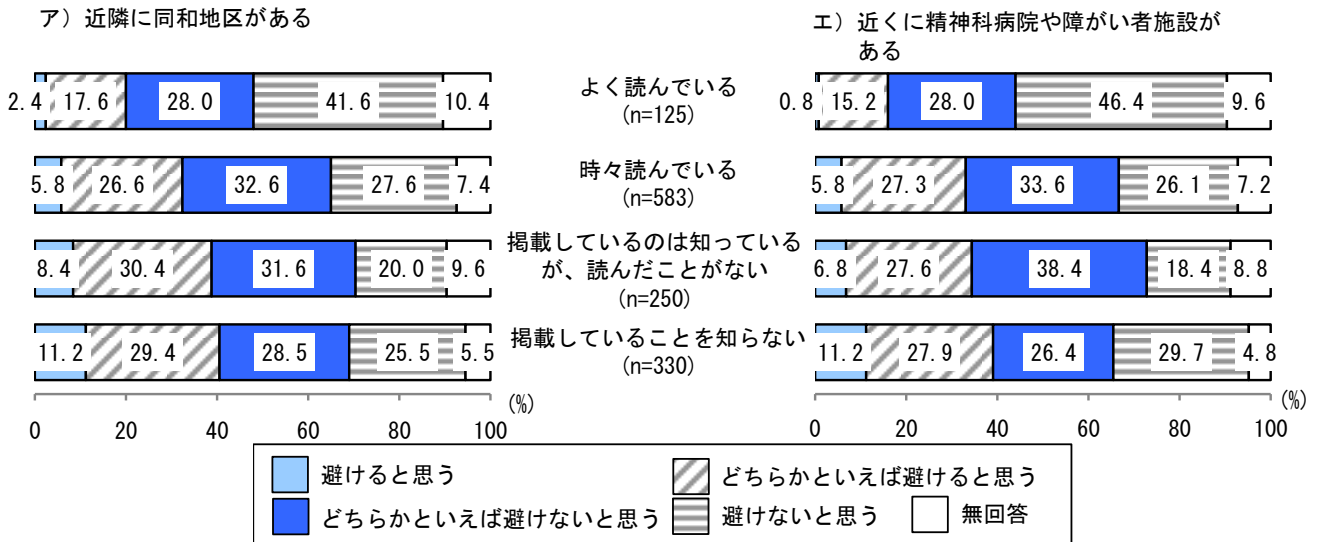
年代別でみると、『読んでいる』割合は、年代が上がるほど高くなっており、50歳以降になると半数以上を占めている。なお、「掲載しているのは知っているが、読んだことがない」と「掲載していることを知らない」は年代が上がるほど低下傾向にある。(図9-3-2)

【図9-3-2 年代別 “人推協だより ほっと・あい” の認知度】



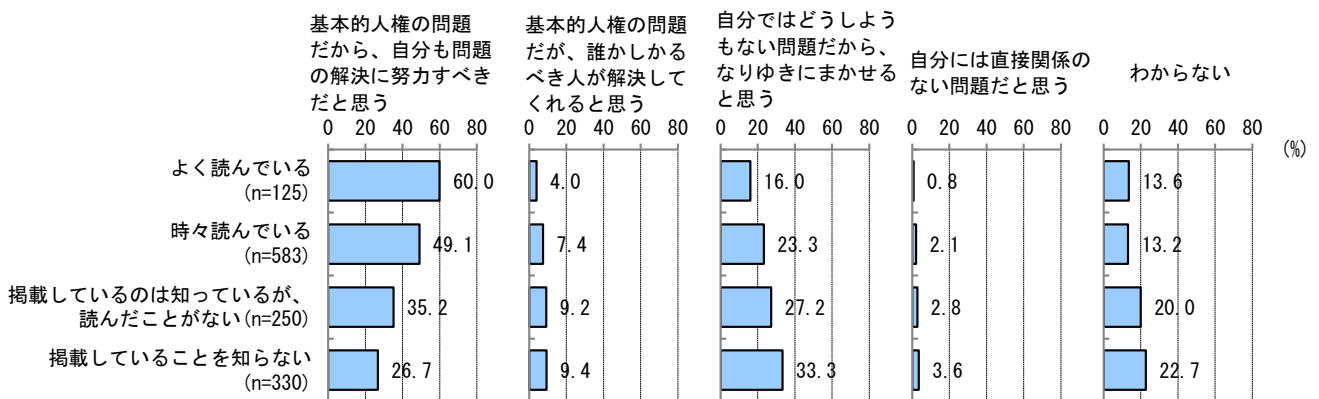
住宅を選ぶ際に忌避する条件を、“人推協だより ほっと・あい”の認知度別でみると、「どちらかといえば避けないと思う」と「避けないと思う」を合わせた『避けないと思う』割合は、よく読んでいる人ほど高くなっている。なお、掲載の認知有無にかかわらず読んでいない人には、ほとんど差はみられない。(図9-3-3)

【図9-3-3 “人推協だより ほっと・あい”の認知度別 住宅を選ぶ際に忌避する条件】



同和問題の解決に対する考えを、“人推協だより ほっと・あい”の認知度別でみると、よく読んでいる人ほど「基本的人権の問題だから、自分も問題の解決に努力すべきだと思う」が高くなっており、「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせると思う」は低下している。(図9-3-4)

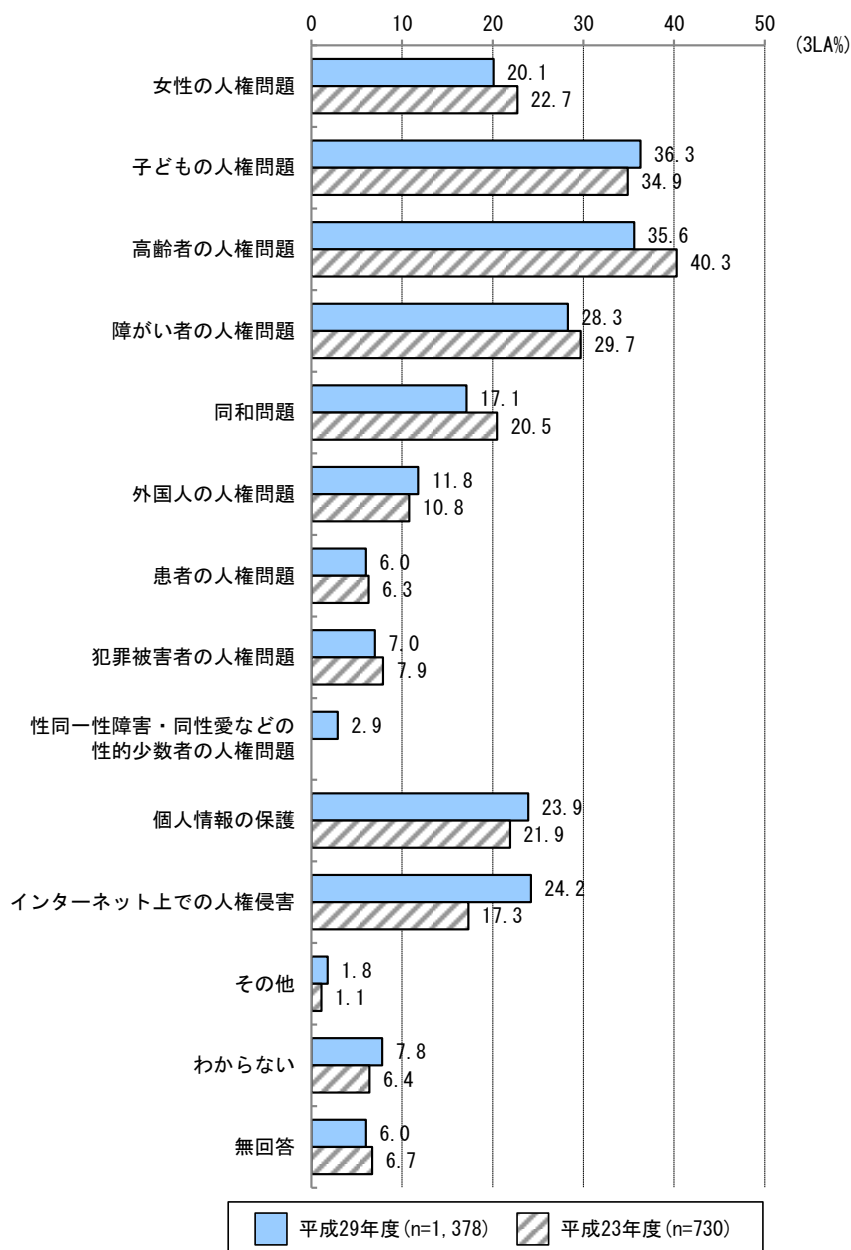
【図9-3-4 “人推協だより ほっと・あい”の認知度別 同和問題の解決に対する考え】



(4) 愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題

問28 愛荘町では、さまざまな人権問題について、その解決のための啓発に取り組んでいきますが、今後、さらに重点的に取り組まなければならないことがらは何であるとお考えですか。(〇は3つまで)

【図9-4 愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題】



※「性同一性障害・同性愛などの性的少数者の人権問題」は、今回調査の新規項目である。
また、今回調査では、回答制限数以上の回答もすべて有効としている。

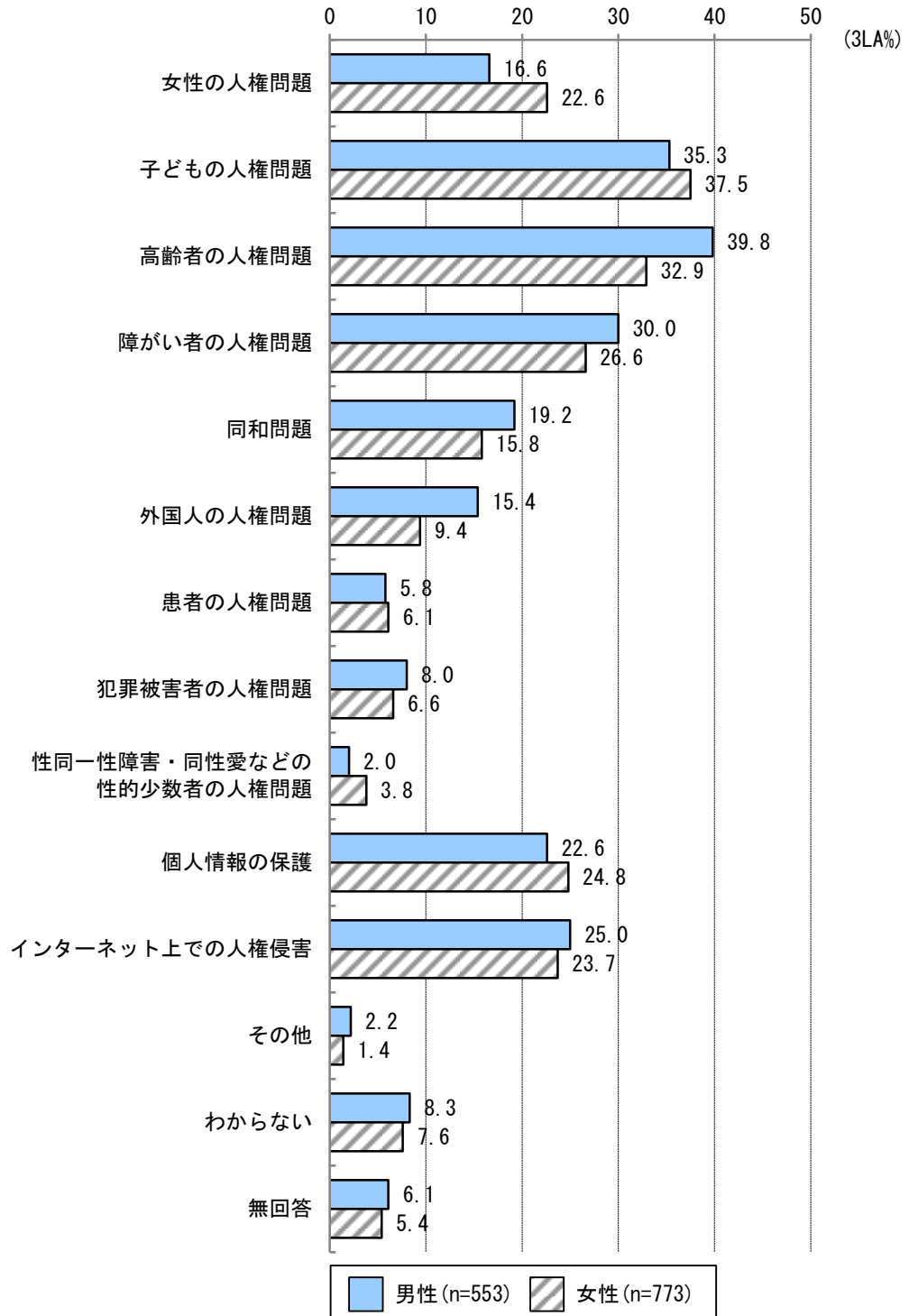
愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題は、「子どもの人権問題」が36.3%で最も多く、次いで「高齢者の人権問題」が35.6%、「障がい者の人権問題」が28.3%と続いている。

前回調査と比較すると、「女性の人権問題」は2.6ポイント、「高齢者の人権問題」は4.7ポイント、「同和問題」は3.4ポイント低下しており、「個人情報の保護」が2.0ポイント、「インターネット上での人権侵害」が6.9ポイント高くなっている。(図9-4)

性別でみると、

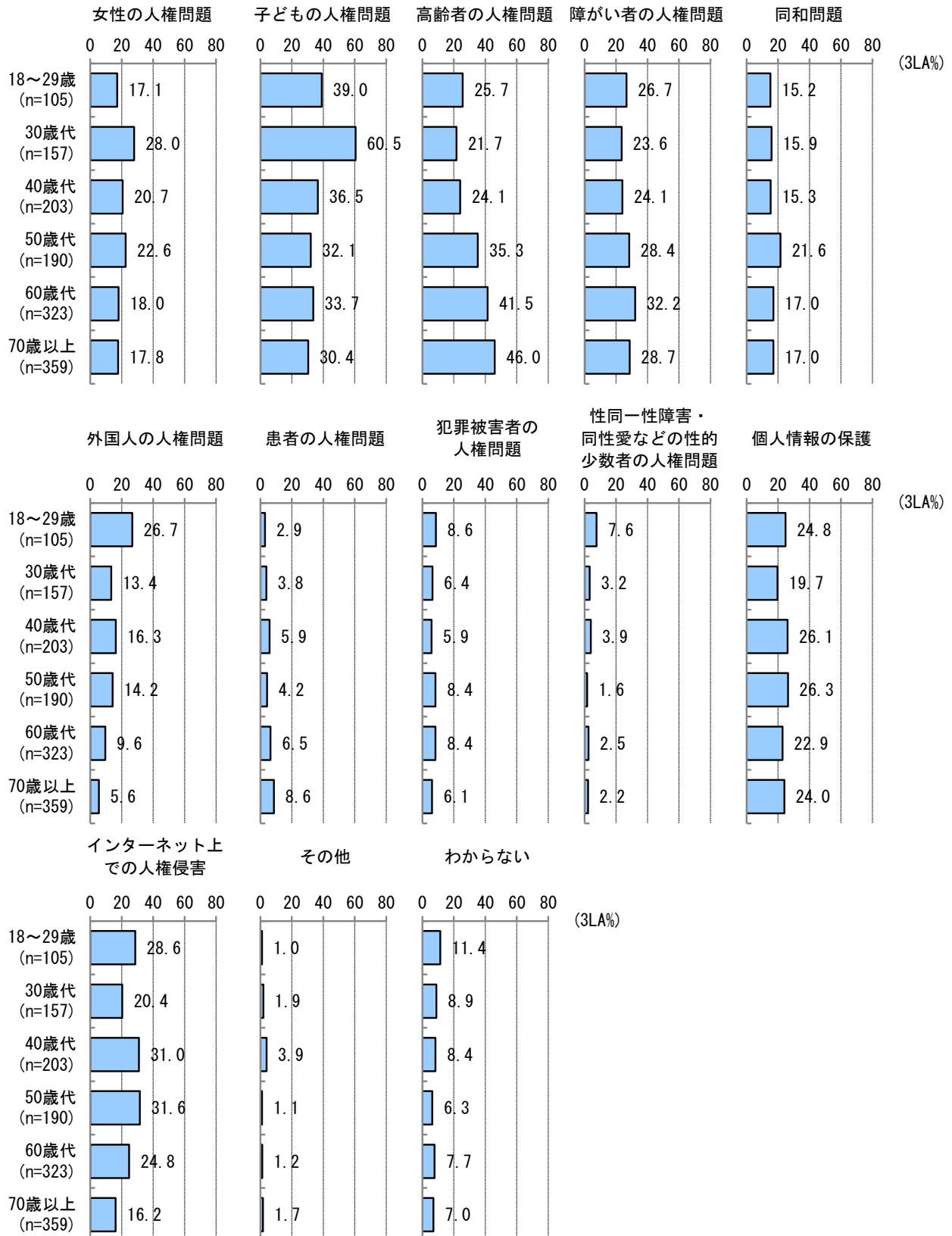
男性は「高齢者の人権問題」で6.9ポイント、「障がい者の人権問題」と「同和問題」とも3.4ポイント、「外国人の人権問題」で6.0ポイント、女性に比べ高くなっている。一方、女性は「女性の人権問題」で6.0ポイント、「子どもの人権問題」と「個人情報の保護」とも2.2ポイント、男性に比べ高くなっている。(図9-4-1)

【図9-4-1 性別 愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題】



年代別でみると、18～29歳は「外国人の人権問題」(26.7%)が他の年代に比べ高くなっている。30歳代は「女性の人権問題」(28.0%)と「子どもの人権問題」(60.5%)が他の年代に比べ高くなっている。また、年代が上がるほど「高齢者の人権問題」が上昇傾向にある。(図9-4-2)

【図9-4-2 年代別 愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題】



**平成29年度
人権に関する町民意識調査報告書**

発行日 平成30年3月発行

編集・発行 愛 庄 町
愛 庄 町 教 育 委 員 会
愛 庄 町 人 権 教 育 推 進 協 議 会

事務局 滋賀県愛知郡愛庄町安孫子 825
愛庄町教育委員会 生涯学習課
Tel 0749-37-8055

